

國立臺灣大學文學院日本語文學系

碩士論文

Department of Japanese Language and Literature

College of Liberal Arts

National Taiwan University

Master Thesis

台湾人日本語学習者におけるアクセントについての一考察

The Accent Instruction Of Japanese Learners in Taiwan



陳冠霖

Kuan-Lin Chen

指導教授：黃鴻信 博士

Advisor: Hung-Hsin Huang, Ph.D.

中華民國 102 年 6 月

June, 2013

謝辞

本研究に関して、終始ご指導ご鞭撻を頂きました本学黄鴻信教授に心より感謝致します。また、本論文をご精読頂き有用なコメントを頂きました東呉大学朱廣興教授、本学林立萍准教授に深謝致します。

また、研究・調査において必要不可欠な資料の取得に協力してくださった本学徐興慶先生、趙順文先生、林慧君先生、黄鈺涵先生に感謝の気持ちを申し上げます。貴重な時間を割いてアンケート調査に協力していただいた皆様へ心から感謝の気持ちと御礼を申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。ありがとうございました。

本論文の執筆にあたっては、東呉大学郭獻尹博士に何回も推敲して頂きました。第4、5、6章で用いた資料の統計については、施彦汝さん、翁聖洋君に技術的なコメントを頂いただけでなく、資料の統計を何度も手伝ってくれて心より感謝しております。調査で使用したテープにあたっては、塚田愛笑先生にご協力を頂きました。ありがとうございました。

最後になりますが、温かい励ましをいつも送り続けてくれた家族に心から感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

台湾人日本語学習者におけるアクセントについての一考察

陳冠霖

要旨

東京式アクセントを学んできた、われわれ台湾人日本語学習者は、日本語母語話者のように規則的なパターンに従ってアクセントを産出・発音するのは簡単なことではない。従来の研究では主に台湾人日本語学習者におけるアクセントの発音について触れられてはきたが、音韻的アクセントを研究するには、単に産出・発音に着目するだけでなく、アクセントに関する項目を取り入れて考察を進める必要がある。本研究では、台湾人日本語学習者のアクセントの能力を支える三つの要因（それぞれ読み書き能力、聞き取り能力、発音能力）を踏まえながら、台湾人日本語学習者のアクセントの実態を究明することである。

本研究の主な結論は以下の四点である。(1) アクセントの読み書きについて、中高型と尾高型である「低高低」の形のアクセント式にズレが集中している。上記のアクセント式を平板型と書く傾向が見られる。(2) アクセントの聞き取りについて、拍数が増えるにつれてズレが生じやすいことが明らかになった。さらに、アクセントの聞き分けができなければその産出は難しいが、聞き分けができても産出が出来るとは限らない。つまり、聞きとり能力は発音の最低必要条件であることが検証できた。(3) アクセントの発音について、読み書きと同じく、中高型と尾高型である「低高低」の形のアクセント式にズレが集中している。上記のアクセント式を平板型と発音する傾向が見られる。(4) 読み書き、聞き取り、発音の関連性については、「発音と読み書き」の回答の傾向に関連性が見られる。「発音と聞き取り」では関連性は見られるがあまり顕著ではない。「聞き取りと読み書き」については関連性が薄いことが分かった。

キーワード：アクセント、発音、聞き取り、読み書き、台湾人日本語学習者

有關台灣日語學習者日語發音之考察

陳冠霖

摘要

台灣的日語學習者在課堂上學習時是以共通語的東京式口音為中心，但是，要說出跟日語母語話者一樣穩定的腔調、口音並非容易。我們可以看到先行研究中有許多文獻是探討台灣日語學習者的口音，但大多數將焦點集中在學習者之發音現象。若想要完整地瞭解台灣日語學習者之口音現象，不僅從發音來探討，也需從聽力、閱讀來做解釋。本研究將透過音調之標注能力、音調之聽取分辨能力、音調之發音能力來探討台灣日語學習者之口音的現象。

本研究之結論為以下四點：(1) 關於音調之標注能力，台灣人日語學習者的不一致現象集中在「低高低」重音型的中高型以及尾高型。並且在閱讀時會傾向標注為平板型。(2) 關於音調之聽取分辨能力，隨著拍數的增加，台灣日語學習者較容易產生不一致現象。並且得知，聽力為發音的最低必要條件。(3) 關於音調之發音能力，結果與標注能力相近，台灣人日語學習者的不一致現象集中在「低高低」重音型的中高型以及尾高型。並且在發音時會傾向唸成平板型。(4) 在重音標注、聽取分辨、發音三者的關聯性方面，「發音與重音標注」的回答傾向相互有關聯性。「發音與聽力」的回答傾向雖然有關聯性但是並非顯著。「重音標注與聽力」之間的關聯性薄弱。

關鍵字：口音、發音、聽力、標注、台灣日語學習者

The Accent Instruction Of Japanese Learners in Taiwan

Kuan-lin Chen

Abstract

Many students study Japanese in Taiwan. However, many typical problems are commonly found in their pronunciation. It is observed that the students' Japanese accent is unstable in both words and sentences when learning Japanese. In this study, Taiwanese students' Japanese pronunciation in rhythms and accents are analyzed. It is found that the unstable Japanese accent especially is a common problem when Taiwanese students study Japanese.

In methodology, three of the features, the writing of accent, the listening comprehension, and the accent pronunciation, are all individually paired up with accent to investigate their individual association with it. Furthermore, I compare all of the four features mentioned above to further investigate how they are relevant to one another.

Past research mainly focused on analyzing one of the features to compare with accent in Taiwan. However, the three of the features compared with accent at the same time in hope of finding the relevance to one another haven't been explored. Consequently, the overall problem of Taiwanese students' unique accent can't be well-explained by previous research in the field.

The thesis findings are shown as below.

1. In the writing of accent: Two types of the accent errors that Taiwanese students commonly make in the pair are shown as below.
 - a) Pattern of Japanese accent with the rising and then falling pitch.
 - b) Pattern of Japanese accent with the last Mora high and the succeeding

particle low.

2. In the listening comprehension: When the word Mora increases, the error rate will increase as well.
3. In the pronunciation of accent: Two types of the accent errors that Taiwanese students commonly make in the pair are shown as below.
 - a) Pattern of Japanese accent with the rising and then falling pitch.
 - b) Pattern of Japanese accent with the last Mora high and the succeeding particle low.
- Same analysis results appear in pair 1 and 3.
4. Associations among writing, listening, pronunciation, and accent are shown.

It is found that the writing of accent and the pronunciation of accent are associated. However, the writing of accent and the listening of accent are not. Meanwhile, the pronunciation of accent and the listening of accent are associated as well. However, when Taiwanese students easily make some mistakes in some patterns of this pair, the association between the two is not strong.

Key words: accent, pronunciation, listening, writing, Japanese learners in Taiwan

目次

口試委員会審定書	#
謝辞	i
日本語要旨	ii
中文摘要	iii
Abstract	iv
目次	vi
図目次	x
表目次	xvi
第一章 序論	1
1.1 本研究の動機	1
1.2 本研究の目的	6
1.3 本稿の構成	7
第二章 先行研究の整理と示唆	9
2.1 読み書きについての研究	9
2.2 聞き取りについての研究	11
2.3 単語の発音についての研究	13
2.4 先行研究からの示唆	16
第三章 調査の概要	19
3.1 調査の対象	19

3.2	実験語.....	20
3.3	実験文.....	22
3.4	音刺激の作成.....	23
3.5	調査の方法.....	23
3.6	分析の方法.....	24
第四章 アクセントの読み書きについての結果		26
4.1	各属性の結果.....	26
4.1.1	学年別から見た調査結果	26
4.1.2	性差から見た調査結果	28
4.1.3	留学経験から見た調査結果	31
4.2	読み書きにおける傾向について.....	32
4.2.1	読み書きにおける傾向についての整理	33
4.2.2	一拍語の傾向について	34
4.2.3	二拍語の傾向について	35
4.2.4	三拍語の傾向について	36
4.2.5	四拍語の傾向について	37
4.3	まとめ.....	39
第五章 アクセントの聞き取りについての結果		43
5.1	各属性の結果.....	43
5.1.1	学年別から見た調査結果	43
5.1.2	性差から見た調査結果	47
5.1.3	留学経験から見た調査結果	52

5.2	聞き取りににおける傾向について	54
5.2.1	聞き取りにおける傾向についての整理	55
5.2.2	一拍語の傾向について	57
5.2.3	二拍語の傾向について	58
5.2.4	三拍語の傾向について	60
5.2.5	四拍語の傾向について	62
5.3	まとめ	64
第六章 アクセントの発音についての結果		69
6.1	各属性の結果	69
6.1.1	学年別から見た調査結果	69
6.1.2	性差から見た調査結果	71
6.1.3	留学経験から見た調査結果	77
6.2	発音における傾向について	79
6.2.1	発音における傾向についての整理	79
6.2.2	一拍語の傾向について	82
6.2.3	二拍語の傾向について	83
6.2.4	三拍語の傾向について	85
6.2.5	四拍語の傾向について	87
6.3	まとめ	89
第七章 読み書き、聞き取り、発音の比較の結果		93
7.1	発音と読み書きの関係について	93
7.1.1	一拍語	93

7.1.2	二拍語	96
7.1.3	三拍語	98
7.1.4	四拍語	101
7.2	発音と聞き取りの関係について	104
7.2.1	一拍語	104
7.2.2	二拍語	106
7.2.3	三拍語	108
7.2.4	四拍語	111
7.3	聞き取りと読み書きの関係について	115
7.3.1	一拍語	115
7.3.2	二拍語	116
7.3.3	三拍語	119
7.3.4	四拍語	121
7.4	まとめ	125
第八章	まとめ及び今後の課題	128
8.1	まとめ	128
8.2	今後の課題	132
	参考文献	134
	附録	137

目次

図 1-1	小調査におけるズレの種類.....	3
図 4-1	学年別の読み書きについての不一致率.....	26
図 4-2	男女別の読み書きについての不一致率.....	28
図 4-3	二年生の男女別による読み書きの不一致率.....	29
図 4-4	四年生の男女別による読み書きの不一致率.....	29
図 4-5	院生の男女別による読み書きの不一致率.....	30
図 4-6	留学経験の有無別に見た読み書きの不一致率.....	31
図 4-7	一拍語のそれぞれの実験語における読み書きの不一致率.....	34
図 4-8	二拍語のそれぞれの実験語における読み書きの不一致率.....	35
図 4-9	三拍語のそれぞれの実験語における読み書きの不一致率.....	36
図 4-10	四拍語のそれぞれの実験語における読み書きの不一致率.....	37
図 4-11	学年別の読み書きについての不一致率.....	39
図 5-1	学年別の聞き取りについての不一致率（単語のみの場合）.....	43
図 5-2	学年別の聞き取りについての不一致率（短文に入れた場合）.....	44
図 5-3	拍数別に見た聞き取りの不一致率（単語のみの場合）.....	46
図 5-4	拍数別に見た聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）.....	46
図 5-5	男女別の聞き取りについての不一致率（単語のみの場合）.....	47
図 5-6	男女別の聞き取りについての不一致率（短文に入れた場合）.....	47
図 5-7	二年生の男女別による聞き取りの不一致率（単語のみの場合）...	48
図 5-8	二年生の男女別による聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）.	49

図 5-9	四年生の男女別による聞き取りの不一致率（単語のみの場合）	50
図 5-10	四年生の男女別による聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）	50
図 5-11	院生の男女別による聞き取りの不一致率（単語のみの場合）	51
図 5-12	院生の男女別による聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）	51
図 5-13	留学経験の有無別に見た聞き取りの不一致率（単語のみの場合）	53
図 5-14	留学経験の有無別に見た聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）	53
図 5-15	一拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（単語のみの場合）	57
図 5-16	一拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）	57
図 5-17	二拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（単語のみの場合）	58
図 5-18	二拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）	59
図 5-19	三拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（単語のみの場合）	60
図 5-20	三拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）	60
図 5-21	四拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（単語のみの場合）	62
図 5-22	四拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）	62

	た場合)	62
図 5-23	拍数別に見た聞き取りの不一致率 (単語のみの場合)	64
図 5-24	拍数別に見た聞き取りの不一致率 (短文に入れた場合)	65
図 6-1	学年別の発音についての不一致率 (単語のみの場合)	69
図 6-2	学年別の発音についての不一致率 (短文に入れた場合)	70
図 6-3	男女別の発音についての不一致率 (単語のみの場合)	72
図 6-4	男女別の発音についての不一致率 (短文に入れた場合)	72
図 6-5	二年生の男女別による発音の不一致率 (単語のみの場合)	74
図 6-6	二年生の男女別による発音の不一致率 (短文に入れた場合)	74
図 6-7	四年生の男女別による発音の不一致率 (単語のみの場合)	75
図 6-8	四年生の男女別による発音の不一致率 (短文に入れた場合)	75
図 6-9	院生の男女別による発音の不一致率 (単語のみの場合)	76
図 6-10	院生の男女別による発音の不一致率 (短文に入れた場合)	77
図 6-11	留学経験の有無別に見た発音の不一致率 (単語のみの場合)	78
図 6-12	留学経験の有無別に見た発音の不一致率 (短文に入れた場合) ...	78
図 6-13	一拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率 (単語のみの場合)	82
図 6-14	一拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率 (短文に入れた場 合)	82
図 6-15	二拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率 (単語のみの場合)	83
図 6-16	二拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率 (短文に入れた場	

合)	84
図 6-17	三拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率 (単語のみの場合)	
	85
図 6-18	三拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率 (短文に入れた場 合) 86
図 6-19	四拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率 (単語のみの場合)	
	87
図 6-20	四拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率 (短文に入れた場 合) 88
図 6-21	学年別の発音についての不一致率 (単語のみの場合) 89
図 6-22	学年別の発音についての不一致率 (短文に入れた場合) 90
図 7-1	一拍語の頭高型 94
図 7-2	一拍語の平板型 95
図 7-3	二拍語の頭高型 97
図 7-4	二拍語の平板型 97
図 7-5	二拍語の尾高型 97
図 7-6	三拍語の頭高型 99
図 7-7	三拍語の中高型 99
図 7-8	三拍語の平板型 100
図 7-9	三拍語の尾高型 100
図 7-10	四拍語の頭高型 102
図 7-11	四拍語の中 2 高型 103

図 7-12	四拍語の中 3 高型	103
図 7-13	四拍語の平板型	103
図 7-14	四拍語の尾高型	104
図 7-15	一拍語の頭高型	105
図 7-16	一拍語の平板型	106
図 7-17	二拍語の頭高型	107
図 7-18	二拍語の平板型	108
図 7-19	二拍語の尾高型	108
図 7-20	三拍語の頭高型	110
図 7-21	三拍語の中高型	110
図 7-22	三拍語の平板型	110
図 7-23	三拍語の尾高型	111
図 7-24	四拍語の頭高型	113
図 7-25	四拍語の中 2 高型	113
図 7-26	四拍語の中 3 高型	113
図 7-27	四拍語の平板型	114
図 7-28	四拍語の尾高型	114
図 7-29	一拍語の頭高型	116
図 7-30	一拍語の平板型	116
図 7-31	二拍語の頭高型	117
図 7-32	二拍語の平板型	118
図 7-33	二拍語の尾高型	118

図 7-34	三拍語の頭高型.....	120
図 7-35	三拍語の中高型.....	120
図 7-36	三拍語の平板型.....	120
図 7-37	三拍語の尾高型.....	121
図 7-38	四拍語の頭高型.....	123
図 7-39	四拍語の中 2 高型.....	123
図 7-40	四拍語の中 3 高型.....	124
図 7-41	四拍語の平板型.....	124
図 7-42	四拍語の尾高型.....	124
図 7-43	読み書き、聞き取りと発音の相関性.....	126
図 8-1	読み書き、聞き取りと発音の相関性.....	131



表目次

表 1-1	小調査におけるアクセントのズレ.....	3
表 2-1	聞き取りのプロセス.....	10
表 2-2	潘（2003）の聞き取りにおける調査結果.....	12
表 2-3	台湾人学習者における単語の発音についての諸研究.....	15
表 3-1	調査の対象.....	20
表 3-2	実験語表.....	22
表 4-1	台湾人日本語学習者における読み書きの傾向.....	33
表 4-2	台湾人日本語学習者における読み書きの傾向.....	41
表 5-1	台湾人日本語学習者における聞き取りの傾向（単語のみの場合）	. 55
表 5-2	台湾人日本語学習者における聞き取りの傾向（短文に入れた場合）	56
表 5-3	台湾人日本語学習者における聞き取りの傾向（単語のみの場合）	. 66
表 5-4	台湾人日本語学習者における聞き取りの傾向（短文に入れた場合）	67
表 6-1	台湾人日本語学習者における発音の傾向（単語のみの場合） 80
表 6-2	台湾人日本語学習者における発音の傾向（短文に入れた場合）	... 81
表 6-3	台湾人日本語学習者における発音の傾向（単語のみの場合） 91
表 6-4	台湾人日本語学習者における発音の傾向（短文に入れた場合）	... 92
表 7-1	一拍語における発音と読み書きの関係.....	94
表 7-2	二拍語における発音と読み書きの関係.....	96

表 7-3	三拍語における発音と読み書きの関係.....	98
表 7-4	四拍語における発音と読み書きの関係.....	101
表 7-5	一拍語における発音と聞き取りの関係.....	105
表 7-6	二拍語における発音と聞き取りの関係.....	107
表 7-7	四拍語における発音と聞き取りの関係.....	109
表 7-8	四拍語における発音と聞き取りの関係.....	112
表 7-9	一拍語における聞き取りと読み書きの関係.....	115
表 7-10	二拍語における聞き取りと読み書きの関係.....	117
表 7-11	三拍語における聞き取りと読み書きの関係.....	119
表 7-12	四拍語における聞き取りと読み書きの関係.....	122



第一章 序論

1.1 本研究の動機

アクセントの定義について、2000年に出版された小学館の『日本国語大辞典』第二版で調べてみると、「アクセント¹とは一つ一つの語句について社会的に定まっている相対的な高低または強弱の配置のことである」と記載されている。つまり、アクセントとは社会的慣習であり、ある一定の形として決まっているものである。確かに、日本語のアクセントは地方によってそれぞれ異なっており、いわゆる方言というものが存在しているが、それらの諸方言も無秩序に異なっているのではなく、規則的なパターンを伴ったアクセントの対応関係がある。現在の日本の共通語である東京式アクセントも同じく、規則的なパターンに従って音節間の音の高低の違いによってアクセントを表している。

同じく東京式アクセントを学んできたわれわれ台湾人日本語学習者は、日本語母語話者のように規則的なパターンに従ってアクセントを産出・発音するのは簡単なことではない。これについて、磯村（1996：1-3）は以下のように述べている。「外国人日本語学習者が日本語の韻律を正しく産出するには、まず日本語のアクセントの仕組みについて、すなわち、日本語の語アクセントが基本周波数の高低によることを理解しているか。また、それぞれの単語についてそのアクセント式を認識しており、異なるアクセント式の単語は区別して発音しようとしているのかを弁えたほうが良い。」

要するに、アクセントを正しく習得するには、単に産出・発音に着目するだけでなく、アクセントの仕組み・認識などをりかいし、多方面から学ぶ必要がある。

¹ 一方、『言語学大辞典』第六卷（1996）によると、アクセントはかなり広い意味をもち、「訛り」や「強調」、「文アクセント」、「プロミネンス」といった「イントネーション」に関することを指す場合がある。また、その他に、主として単語に関する韻律的特徴を指す場合があり、こうした場合には「語アクセント」とよばれる。田中ら（1999）も「音声学において、アクセントは単語の中に現れる音の高低・強弱・長短の型」と指摘している。つまり、音声学的観点から見れば、アクセントは語アクセントと意味することができる。アクセントとイントネーションは共存関係と言われており、イントネーションも重要なテーマではあるが、それについては機会を改めることにして、ここでは「語アクセント」にしぼって見ていきたい。

これにしたがって、本研究では、言語学習の四大技能とも言われている「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」に着目し、アクセント習得に関連する項目を再確認することで、台湾人日本語学習者のアクセントの実態を明らかにしたい。

さて、台湾人日本語学習者のアクセントの実態について理解するために、筆者はかつて試みに小調査²を行なってみた。調査方法として、馴染み度の高い³23個の実験語を単語のみの場合と短文に入れた場合の二種類に分けて一回ずつ被験者に読ませるが、そのアクセントにどのような傾向が示されるかについて調べてみた。単語のみの場合と短文に入れた場合の二種類を設定した理由について、上野（2003：50）は「単語というものは単独で丁寧に、他の影響を受けない姿で発音された場合を基本に考えるべきであって、それが文節や文中にあってはときに姿を変えて実現することがある。だから、単語本来のアクセントの姿を基本とし、これがどのような環境下でどのように変形するかを明らかにすればよい、という立場も当然ながら想定されてよいものとする。」と述べている。これについて、筆者も同じ見解であるため、単語のみの場合と短文に入れた場合の二つを設けて小調査を行った。また、同じ実験語を一定したアクセントで発音できるかを確かめるために、調査文には一文に二回同じ実験語を入れてある。（附録の資料1を参照されたい）なお、被験者の三人は共通語である東京式アクセントを学んでいるため、1988年に出版された『NHK 日本語発音アクセント辞典』⁴を用いて今回の小調査のそれぞれの単語のアクセントを検証してみた。その結果は表1-1と図1-1の通りである。各被験者の結果は付録の資料2を参照されたい。

² この小調査は2012年二月に台湾大学日本語学科大学院の院生三名を対象として行った。三名ともに東呉大学の出身で、そのうち、被験者1と3は半年ほど日本での留学経験がある。

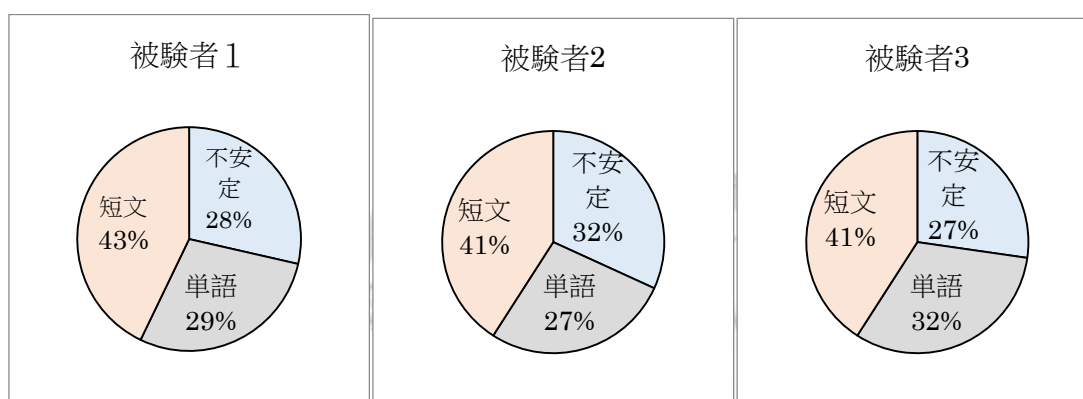
³ できるだけ日本語検定3級以下で、教科書にある単語を選出した。

⁴ 日本の放送では、アナウンサーの発音や言葉づかいについての成文化した基準があり、現実の話し言葉としては、NHKアナウンサーの言葉は標準語に非常に近いと言える。このように、本稿では1988年に出版された『NHK 日本語発音アクセント辞典』を用いて考察を行う。

表 1-1：小調査におけるアクセントのズレ

	単語のみの場合	短文に入れた場合	不安定 ⁵
被験者一	8 個/23 個	12 個/23 個	8 個/23 個
被験者二	6 個/23 個	9 個/23 個	7 個/23 個
被験者三	9 個/23 個	7 個/23 個	6 個/23 個
計	23 個/69 個	28 個/69 個	21 個/69 個

図 1-1：小調査におけるズレの種類



まず、表 1-1 は実験語の個数と発音のズレの個数を表しており、それぞれ単語のみの場合のズレ、短文に入れた場合のズレと発音の不安定の三つの結果がある。図 1-1 は表 1-1 をパーセンテージで示したものである。

表 1-1 と図 1-1 からは、次のようなことを指摘することができる。まず、単語独自の場合約 3 割程度（23 個のうち、それぞれ 8 個、6 個、9 個）が合っていない。⁶短文に入れた場合はそれに比べてやや上昇しておよそ 3 割～4 割（23 個のうち、それぞれ 12 個、9 個、7 個）と伸びてくる。これに対して、単語独自の場合約 3 割程度と短文に入れた場合を比較してみると、アクセントの不一致率（アクセ

⁵ ここで言う不安定とは、単語のみの場合と短文に入れた場合の発音が異なる場合と、短文に入れた単語の発音の一回目と二回目が異なる場合を合わせて意味している。

⁶ 台湾における日本語学習者は共通語である東京式アクセントを学んできた。そのため、本研究では 1988 年に出版された『NHK 日本語発音アクセント辞典』を基準とし、学習者の発するアクセントが辞典と同じ用法の場合を正答、異なった場合をズレまたは不一致とする。

トの揺れとも言う)も3割程度(23個のうち、それぞれ8個、7個、6個)示されている。これは、いうなれば、われわれ日本語学習者の単語のアクセントが安定していないことと、短文の朗読の際アクセントがより一層不安定だということ物語っていると見受けられる。

台湾人日本語学習者のアクセントを研究するにあたり、従来の国内の研究では学習者の発話に絞って分析するのが多い。しかし、学習者が実験語のアクセントを知っているか、どのように認知しているのかというアクセントの読み書きの調査や、耳で聞いて識別する能力といった聞き取りの調査など、アクセント能力を支えると思われる要因の調査はあまり行われていなかった。これについて、小河原(1997)は、聞き取り能力と単音・アクセント・イントネーション・プロミネンスの四つの音声要素について測定し、発音との相関を調査した。それによると、単音ではどれも発音との相関は見られなかったと述べているが、アクセントやイントネーション・プロミネンスにおいては、有意な相関が見られたと指摘している。つまり、「音の高低」という基準を学習者はどの程度持っているかが実際のアクセントやイントネーションの発音に大きく関わってくるということである。また、アクセントの習得について鮎澤(2004:4)は以下のように言及している。「学習者の習得困難点について、単語ごとのアクセント式を覚えるのが難しいのか、アクセント式を聞き取ることが難しいのか、アクセントを生成するのが難しいのかを区別し、このような共通する問題点について整理しなければならない。」このように、発音能力のみに着目するのではなく、アクセント能力を支えると思われる要因も検討する必要がある。以上のことから、これらの要因はアクセント能力と切り離せない関連性があると筆者は考える。言い換えれば、読み書き能力や聞き取り能力は如何にアクセント能力に影響を及ぼすのか明らかにする必要がある。

実際にこれらアクセント能力を支える要因は個々に存在しているのではなく、複雑に関係し合っている。そのため、それぞれを区別して、共通点や問題点について整理する必要がある。確かに、台湾において、教育上基本的には、学習者は

教科書に載っているアクセント記号を見て暗記するか、教師の発音を聞いて、自分で真似て発話し、何回も練習して覚えるのが多数である。ここから見ると、台湾人日本語学習者のアクセントの実態を知るには、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の研究項目を総合して論じなければならないのである。

台湾国内の先行研究を見てみると、台湾人日本語学習者のアクセントについての研究は少なくないが、どれもアクセントに関連する要因・研究項目を総合的に見ていないようである。例を二つ挙げてみると、張（1996）は単語、文節と文章の三つの調査項目を学習者に読ませて台湾人学習者のアクセントの傾向を指摘している。この調査により台湾人日本語学習者がそれぞれどのように発話しているのか各々発音の結果は得られたが、実験語を統一していないため三つの調査項目の関連性はつかめていない。次に、楊（2011）は台湾人日本語学習者のアクセントの実態と習得環境について調査した。内容は学習者に東京式アクセントの聞き分けと発話をさせる調査である。調査対象は台湾在住の台湾人学習者と日本在住の台湾人学習者である。結果としては台湾在住の学習者の方が東京式アクセントの発音と聞き取りで二つとも日本在住の学習者より成績が良いことがわかった。しかし、被験者を見てみると、日本在住の学習者は全員関西に在住しており、環境からの影響があると見られる。それだけでなく、結果的には両者の比較だけに留まっており、根本的な原因は探り出していない。以上から分かるように、従来のアクセント研究では、発話以外の研究項目にあまり力を入れておらず不十分なところが多い。このような個々の発音現象からの研究のみでは学習者のアクセントを全般的に論じることには限界があると考えられる。よって、前にも述べたが、アクセントの研究をするには発話能力を支える要因を取り入れてそれぞれ個別に考察する必要がある。

以上のことにより、本稿は台湾人日本語学習者のアクセントの実態を明らかにするために、発音能力を支える要因を取り入れて、総合的に見ていきたい。特に、筆者が行った小調査のように、まず単語アクセントと短文の中にある単語アクセントの関係に重点を置き、台湾人日本語学習者のアクセントの傾向を示し

明らかにする。

1.2 本研究の目的

本研究の目的は、台湾人日本語学習者のアクセントの能力を支える三つの要因（それぞれ読み書き能力、聞き取り能力、発音能力）を踏まえながら、台湾人日本語学習者のアクセントについて考察することである。各要因における詳細は以下に示す。

(1) 単語アクセントの読み書きについて：アクセントは無造作に変化しているのではなく、ある一定の規則やパターンをもとに成り立っている。しかし、台湾において、限られた時間で学習者にあらゆるアクセントの規則を指導するには困難がある。そのため、学習者は教科書に載っているアクセントの記号を見て暗記しているのがよく見られる。アクセントを目で見て覚える、それが知識となり記憶する。以上のように、目で単語を見て、それがどのアクセント式であるかという判断・弁別能力はアクセントの能力に関連する重要な要因の一つであると考えられる。そのため、学習者がどのように実験語のアクセントを認識しているのか読み書きの方法で明らかにし、その傾向を示す。

(2) 学習者の聞き取りについて：前節でも述べたように、小河原（1997）では、聞きとり能力はアクセントの発音と関連性があると述べている。このように、発話の前の段階である聞き取り能力も重要な要因の一つであることは否めない。そのため、学習者がモデル音声を聞いて、そのアクセントをどのように聞き取っているのか、アクセントの核を把握できるかを探求する。また、単語の場合と、短文に入れた場合との単語アクセントを被験者に聞かせ、比較・考察する。

(3) 学習者の発音について：「語アクセント」に重点を置き、単語の場合のアクセントと短文内の場合の単語アクセントを比較・考察する。前節の小調査でも述べたように、アクセント能力を支える要因に着目し、台湾人日本語学習者のアクセントの発話の実態を明らかにするだけでなく、異なるアクセント式を区

別して発音できるかを探求する。

(4) 読み書き、発音と聞き取りの関連性について：本研究で取り入れたアクセント能力を支えると思われる三つの要因である「読み書き」、「聞き取り」と「発音」のそれぞれの結果を踏まえて、以上の回答の傾向の関連性を示す。三つの要因の調査結果を比較分析し、学習者のアクセント能力にどのような影響を与えているのかを明らかにする。

1.3 本稿の構成

第一章の序論では、日本語音声教育に対するアクセントのニーズを述べ、筆者が行った小調査の結果と照らし合わせつつ、音声教育そしてアクセント調査はどうあるべきかを論じる。

第二章では、研究に関連する研究領域から読み書き、発音と聞き取りを取り上げ、その現状を分析し自説を述べる。また、それぞれの長所と短所を検討する。なお、従来の研究を踏まえ、改善方法や方向をわきまえる。

第三章では、研究の方法を説明し、調査対象、実験語などといった調査概要を説明する。

第四章では、台湾人日本語学習者のアクセントに対する読み書きについての調査結果を論じる。属性別に分けて分析するだけでなく、学習者はどのようにアクセントを覚えているのか、その傾向を示す。

第五章では、台湾人日本語学習者のアクセントに対する聞き取りについての調査結果を論じる。単語のみの場合と短文に入れた場合の二つを照らし合わせて分析する。なお、属性別に分けて分析するだけでなく、学習者の聞き取りがどのような傾向を見せるかについて示す。

第六章では、台湾人日本語学習者のアクセントに対する発音についての調査結果を論じる。単語のみの場合と短文に入れた場合とを照らし合わせて分析する。なお、属性別に分けて分析するだけでなく、学習者がアクセント式の違いを認識し、これを実現しようとした場合、発音がどのようになるか、その傾向を示す。

第七章では、前章で得た音声調査結果を相関性の角度から分析し、個別の結果

を総合し、明確に示す。次いで、台湾人日本語学習者のアクセントのあり方を解明し論じる。

第八章は終章である。この章では本論文の検証の結果をまとめると共に、本研究に不十分なところを検討し、今後の課題として立てる。



第二章 先行研究の整理と示唆

本章では、台湾人日本語学習者を対象とするアクセントについての先行研究を読み書きについての研究、聞き取りについての研究と発音についての研究の三つに分けて紹介し、諸研究の特徴と問題点を取り上げて検討する。なお、先行研究を踏まえながら、現時点において、アクセントを研究する際に必要とされる研究項目の関連性を検討・弁明する。

2.1 読み書きについての研究

高井(1995:95)によると、日本語母語話者においてアクセントの習得は耳から始まると言われている。確かに、母語の習得では音声言語を耳で理解することから始まり、文字を習得する以前から親の音声を聞いて統語構造(話し方)を覚えている。しかし、外国人であるわれわれ台湾人日本語学習者の場合は、先生の発音を耳で聞くだけでなく、教科書に記載されているアクセントの記号を目で見えて覚えている。つまり、台湾人日本語学習者は日本語母語話者とは異なり、アクセントを耳で聞き分けるだけでなく、目でアクセント記号を見てそれを知識の一つとして記憶しているのである。

磯村(1996:1-3)では、学習者が日本語のアクセントを正しく発音するためには、単語ごとのアクセント式の違いを認識し、区別して発音するよう意識化することが有効であることを指摘している。このとき学習者が単語のアクセント式を意識化する過程について考えると、母語話者の発音する音声を聞いてアクセント式を判断し、その記憶に基づいて自分で発音する以外に、アクセント辞典などの記述を見て記憶するというケースが考えられる。こうした場合、学習者が自分の日本語のアクセントの記憶に基づいてアクセントの違いをどれだけ聞き分けられるか、また、どれくらい暗記しているかがアクセントの習得に関わってくるであろう。

そこで、学習者がどのように音声を聞き取って区別しているのか、聞き取りの

プロセスについて、フォード丹羽（1996：37）は以下のように提示している。

表 2-1：聞き取りのプロセス

① 音声を耳で受容する。
② 音韻として脳が把握する。
③ 意味のある単位に切ってそれぞれを意味と結びつける。
④ 文レベルあるいはテキスト全体の内容を理解する。

上記の聞き取りのプロセスを見てみると、①は聞き取りの動作を示している。②は聞き取った音声を音韻として把握するため音韻の知識が必要である。③は意味のある単位に切るため音韻、文法、語彙知識が必要である。その中で、語彙知識の有無は、③ひいては④の認知に大きく関与すると思われる。未知語あるいは既習語であっても、その認知に失敗した場合、正しい区切りができず、その結果、意味の理解ができないことになる。それだけでなく、自然な談話の場面では音声に感情が入り混じる場合や、区切りが明白ではない場合が見られる。それらを正しく認知するためには音声の習熟度、つまり、ここでは単語のアクセントに対する認知能力に支えられた処理能力が必要であると考えられる。

しかし、このような聞き取りの傾向と、学習者の単語のアクセントに対する習熟度がどのように関わっているかについての先行研究はほとんど見当たらないようである。学習者が前述のような過程でアクセントを習得していく可能性を考慮するならば、学習者がアクセント式をどのように聞き取っているかということと、読み書きの方法で学習者がアクセント式をどのように記憶しているかということを明らかにしていくことが、効果的な発音指導を行う上でも必要であると思われる。

2.2 聞き取りについての研究

音声指導において、学習者が音声教材を聞いて模倣、生成する活動は広く行われているが、そもそも生成以前の聞き取りの過程において、学習者は日本語母語話者と同じように聞いているのか、学習者が音声情報をどのように認知しているのか、という聞き取りの側面はこれまであまり着目されていなかった。アクセントに関しては、鮎澤（1998：71）が母語の異なる外国人日本語学習者に「東京式アクセントの聞き取りテスト」を行った結果、それぞれ日本語とは異なる韻律体系を持つ母語により聞き取り方に特徴があったことを示し、「習得すべき韻律パターンが聞き取れなければ、その産出は困難であり、聴取能力が韻律習得の前提条件といえるだろう」と述べている。ここから、アクセント習得についても聞き取りの重要性が指摘できる。上記の観点から、筆者は日本語学習者に対する単語のアクセントの聞き取りの調査を行い、台湾人日本語学習者の聞き取り能力について考察する。

台湾人日本語学習者のアクセントの聞き取りに関する研究はそれほど多くないが、その中から潘（2003）と楊（2011）の研究が挙げられる。まず、潘（2003）は、台湾人日本語学習者が東京式アクセントを聞いた際、どのように聞き取っているかを音響音声学的な手法を用いて明らかにした。調査対象は、台湾の大学で日本語を主専攻とする日本語学習者、日本語を主専攻としない日本語学習者と日本語学習歴のない大学生である。その中で日本語専攻学習者の聞き取りについて、以下のような結果が見られる。

表 2-2：潘（2003）の聞き取りにおける調査結果

刺激語	テスト一回目	テスト二回目
二拍 平板型	—	—
頭高型	—	—
尾高型	—	—
三拍 平板型	—	—
頭高型	中高型	中高型
中高型	尾高型	尾高型
尾高型	—	中高型
四拍 平板型	—	—
頭高型	—	—
2/4 中高型	3/4 中高型	3/4 中高型
3/4 中高型	2/4 中高型	2/4 中高型
尾高型	—	3/4 中高型

注：2/4 中高型は本稿では中 2 高型、3/4 中高型は中 3 高型と示す。

まず、拍数別に見てみると、台湾人日本語学習者は二拍語の聞き取りについて顕著な傾向が見られない。つまり、二拍語に関してはよく聞き取れていることが表 2-2 から観察される。一方、三拍語と四拍語に関しては、中高型を他のアクセント式に聞こえる傾向が見られる。

そして、潘（2003：15）で指摘しているように、台湾人学習者における日本語アクセントの知覚上の特徴はピッチ曲線によって示される音響的最高点及びその最高点を含む近隣にある。言い換えれば、台湾人日本語学習者はピッチ曲線の高い部分を積極的に聞き取る傾向が見られる。そして、ピッチの下降のタイミングを正確に把握しきれないため、最高点の近隣に下降のマークをつけるといった結果が出た。

しかし、前節でも述べたが、聞き取りの調査における重要な項目の一つとして、

調査語に関する単語のアクセントの認識を学習者が持っているかという課題が残っている。調査語の正しいアクセントを知っていたのならば結果は大きく違っていたであろう。この点については、潘（2003）の調査では予め調査語に対してのアクセントの習熟度は調査していない。従って、得た調査結果は聞き取りの結果なのか、または習熟度が影響しているのか、明確にわきまえることができない。

楊（2011）は、台湾在住の学習者と日本在住の学習者の発話と聞き取りを考察した。その中で、聞き取り調査の内容として、様々なアクセントで発音した録音を学習者に聞かせ、そのうちのどれが正しい東京アクセントだと思うかを選ぶ調査である。言い換えれば、東京アクセントの聞き分けと聞き取りの両方の調査とでも言える。結果としては、発音、聞き取りのどちらをとっても台湾在住者の方の成績が良かった。また、標準偏差は日本在住学習者の方が大きく成績がバラついている。しかし、被験者の在住環境を見てみると、日本在住の学習者は全員関西に在住しており、環境からの影響があると見られるため、東京式アクセントを聞き分けるのは難しいと考えられる。それだけでなく、最終的に調査の結果は両者の比較だけに留まっており、根本的な原因については触れておらず、はっきりとしない結果となった。

2.3 単語の発音についての研究

まず、音声研究の流れから見れば、国内において台湾人学習者のアクセント問題を扱った研究は蔡（1977：82-83）が筆頭にあげられる。蔡氏は台湾語を母語とする学習者が日本語を話すときのアクセントを「台湾式アクセント」と呼んで大きな問題として取り上げている。その特色としては、「長音、撥音、連母音が語のどこにあっても必ず上下の音調で発せられること」、「語の最後から二番目の音節は必ず上音で発せられること」など問題の所在の一つとしてあげている。現代の学習者にもこれらの問題は存在しているかもしれないが、歴史的背景から見れば、当時の日本語教師は鹿児島出身が多く発音に訛りがあり、音声教育環境は現在と随分異なる。現在のように東京式アクセントをベースとした教科書

や CD、さらにデジタル言語習得教室やマイクを使った学習は行われていなかった。

次に、現代の台湾人学習者のアクセントについての研究を見ていきたい。参考になる先行研究として、張（1996）、郭（2007）、楊（2011）、潘（2010）の研究が挙げられる。まず、張（1996）は単語アクセント、文節レベルのアクセントと文章を学習者に読ませて台湾人学習者のアクセントの傾向を指摘している。次に、郭（2007）は、日常生活で台湾語を頻繁に使用している台湾南部地区の学生を対象に発音の調査をした。その中で、台湾人学習者の名詞のアクセントについても指摘している。楊（2011）は台湾人日本語学習者のアクセントの実態と習得条件を考察した。方法としては台湾在住の学習者と日本在住の学習者の発話と聞き取りを比較した。その中で、台湾人学習者のアクセントの発音について指摘している。潘（2010）は中国語の音声特徴がどのように日本語のアクセント習得に関与しているかを明らかにし、アクセント習得における問題点を予測・考察した。以上を踏まえて、先行研究の調査結果を示すと、次のページに挙げる表 2-3 になる。

表 2-3：台湾人学習者における単語の発音についての諸研究

研究学者 ・年代	研究対象	研究結果
張雪玉 (1996)	台湾人非日本語 専攻学習者 (55名)	<ul style="list-style-type: none"> ・一拍語：平板型が多く見られる。 ・二拍語：平板型、頭高型、尾高型のいずれも見られるが、馴染み度の高い語彙以外は自由変異が目立つ。 ・三拍語：中高型の出現が目立つ。 ・四拍語：中2高型が多く見られる。 ・五拍語：中2高型が多く見られる。 ・促音：短縮現象のほか、アクセント核が促音の直前の音節に来る。 ・複合語：アクセント規則は無視されている。 ・単語や文節レベルのアクセントと文章の中に入った語アクセントはほぼ一致している。
郭獻尹 (2007)	台湾人非日本語 専攻学習者、台湾語と中国語が話せる17歳～50歳の社会人 (59名)	<ul style="list-style-type: none"> ・一拍語：常に頭高型となる。 ・二拍語以上：「モーラ数-1型」となる。 ・二重母音：その音節の一番目の母音にアクセント核がくる。 ・鼻音：鼻音の前にアクセント核が入る。 ・促音：その前後どちらかにアクセント核が来る
楊文瑾 (2011)	台湾在住日本語学習者(30名) 日本在住台湾人日本語学習者(30名)	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞の終止形：-2型になる。 ・複合語：重起伏式になる。
潘心瑩 (2010)	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・二拍語：頭高型に対する習得はあまり問題ない。 ・三拍語：平板型と中高型に対する習得はあまり問題ない。 ・四拍語：平板型と中高型に対する習得はあまり問題ない。

まず、張(1996: 17-18)の調査結果によると「単語や文節レベルのアクセントと文章の中に入った語アクセントはほぼ一致している」と指摘している。これは筆者が行った小調査の結果と食い違いがあると見受けられる。筆者の小調査では、3割ほどアクセントの不一致が見られる。それに加え、張(1996: 15)の

結論で指摘しているように、二拍語は「馴染み度の高い語以外は自由変異⁷が目立つ」となっているが、筆者が行った小調査の語彙はどれも難しい単語ではなく、教科書にある単語で日常生活で馴染み度の高いものである。筆者が行った小調査では、単語のみの場合は3割ほど、短文の中の単語は3~5割ほどのズレが見られる。

次に、一拍語の場合、張(1996:3)は平板型が多いと指摘しているのに対し、郭(2007:184)では頭高型が多いと示している。二拍語の場合、張(1996:4)は頭高型と尾高型が多く、平板型は少ないと指摘しているのに対し、郭(2007:184)はモーラ数-1型(いわゆる頭高型)と示している。一方、潘(2010:30)は頭高型の習得はあまり問題ないと述べている。そして、動詞の終止形については、楊(2011:3)は-2型になると指摘している。三拍語と四拍語の場合、潘(2010:30)は平板型と中高型に対する習得はあまり問題ないと述べているが、張(1996:5-6)では三拍語は中高型の出現が目立ち四拍語では中2高型が多く見られると指摘している。

以上のことから分かるように、台湾人学習者のアクセントの発音についての先行研究は少なくないが、結果から見れば食い違いが見られる。そのため本稿では、アクセントに関連する他の項目との相関分析を行い、総合的に考察していきたい。

2.4 先行研究からの示唆

ここでは、先行研究について検討してみた結果により、次のように三つの不足なところを挙げ、本研究ではどのように改善するかについて述べる。

第一に、これまでアクセントの研究といえば学習者の発話に焦点を絞るのが圧倒的に多いのに対し、アクセントの聞き取りや読み書き、またはそれら三者を

⁷ 筆者が前述した「アクセントの不安定」と同じ意味であろう。

総合した研究は、筆者の知っている限り見当たらないようである。その理由は、これらを同時に扱う場合、実験語を統一せねばならないだけでなく、膨大なデータにもとづき分析をしなければならないため、このような研究手法は実に難しい。しかし、先行研究からも分かるように、アクセントの発話のみの研究からでは学習者のアクセントを全般的に論じることには限界がある。そのため、発話の前段階である聞き取りや読み書きも考察に入れて調査を行わなければ学習者のアクセントの実態を検証することはできない。よって、本稿は以上の観点から、発話、聞き取り、読み書きの三つの項目の分析から探ろうとするものである。

第二に、聞き取りの調査の際、学習者の単語のアクセントの読み書きを考察に取り入れていない。先行研究のフォード丹羽 (1996 : 37) の聞き取りのプロセスからも分かるように、単語のアクセントの習熟度は聞き取りに影響を与える大きな項目の一つである。要するに、アクセントの研究項目は発話と聞き取りのみならず、学習者がその単語の正確なアクセントを知っているかどうかも関わってくるということである。しかし、従来のアクセントの研究を見た限りでは、単語のアクセントの読み書きや音声・音韻の知識を論じたものは見当たらないようである。それでは語アクセントの聞き取りのズレは認知や知識が影響を与えているのか、または聞き取りの問題なのか明確にわきまえることができない。学習者の単語のアクセントの読み書きもアクセントの研究の一環として重視すべきであると筆者は思う。本稿では学習者の単語のアクセントの読み書きも調査し、その結果を踏まえて聞き取り、発話との関連性を見出す。

第三に、先行研究を見てみると、アクセントの調査における実験語が統一していないという欠点が観察される。張 (1996) のように、単語と短文の実験語を統一しなかった場合、台湾人学習者の単語、文節、文章などといった各々の語の発音の結果は得られたが、学習者のアクセントの全体的な関係はつかめられない。また、筆者が行った小調査からも分かるように、単語のみの場合と短文に入れた単語のアクセントは発話の実態が異なり、アクセントの不一致が 3 割程度あるため、実験語を統一して考察しなければ台湾人学習者のアクセントは把握でき

ないと思われる。

本研究では、音響音声学的な手法を用いて、学習者の発話だけでなくアクセントの研究に関連する聞き取り、読み書きを調査項目に入れて考察を行う。また、回答の傾向から相関解析をすることによって、それぞれの因果関係を明らかにし学習者のアクセントの実態を総合的に解明したい。



第三章 調査の概要

3.1 調査の対象

本研究における調査の対象は、台湾北部の大学⁸の日本語学科から選んだ。そして、調査対象を三つの属性に細分化して、それぞれアクセントの習得について違いはないかを検証する。属性はそれぞれ (1)、学習歴別に分けた上級学習者、中級学習者と初級学習者、(2)、性差、(3)、留学経験の有無、の三つである。

まず、一つ目の属性について、学習歴別に上級学習者、中級学習者と初級学習者の三つのグループに分けた。異なる学習期間からアクセントの把握に違いはないかを明らかにするためである。上級学習者は台湾の大学で日本語を主専攻とする日本語学科大学院三年生と四年生の院生で、日本語学習歴は 6 年以上である。大学院の授業では常に日本語を使用して口頭発表や討論をしているため、日本語での日常生活の会話などは問題ないと思われる。中級学習者は日本語を主専攻とする日本語学科の学部四年生で、「初級日本語」、「中級日本語」、「日語会話一、二」、「日語聴講実習」や「日語聴力訓練」を修了している。日本語学習歴は 3 年であり、ある程度日本語を使った発表や会話はできる。初級学習者は日本語を主専攻とする日本語学科の学部二年生で、「初級日本語」、「日語会話一」、「日語聴講実習」や「日語聴力訓練」を修了している。日本語学習歴は 1 年である。

次に、先行研究では全く触れていない性差について違いはないかを明らかにする。

最後の属性について、留学経験のある学習者を取り出して同じ学年の学習者と比べ、アクセントの習得に違いはないかを明らかにする。留学年数は半年以上とし、旅行などの短期のものは含まない。留学経験のある学習者は人数が不足な

⁸ 台湾大学、東呉大学、政治大学の 3 校である。

ため、大学院生のみ扱うが、今後の研究の参考になる価値はあると思われる。以上をまとめてみると次の表 3-1 のとおりである。

表 3-1：調査の対象

	初級学習者		中級学習者		上級学習者			
学習歴	1 年		3 年		6 年以上			
留学	無し		無し		有り		無し	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女
人数	17 名	19 名	15 名	15 名	7 名	6 名	7 名	6 名
計	36 名		30 名		26 名			

3.2 実験語

日本語のアクセントにはパターンがあり、品詞別による名詞、形容詞、動詞だけでなく、語種別の和語、漢語、外来語もある一定の規則に従ったアクセントのパターンが存在する。それだけでなく、活用形などといった場合になるとアクセントも変わってくるが、これも規則に従って変化している。日本語を学ぶにあたって、本来ならば個々のアクセントを習得させたいところだが、限られた時間で学習者にあらゆるアクセントの規則を指導するのに困難がある。現実では、台湾の教育の現場において、品詞や語種別でアクセントの指導をしているのではなく、授業が進むにつれて新しい単語を教えるその都度に、これは何モーラで、ピッチはどこから下降するのかというように指導しているのが多数である。そのため、学習者にとって、アクセントの習得について、モーラ概念と高低概念はあるが、品詞や語種の違いでアクセントの規則が異なるまでは把握していないであろう。以上により、本稿ではモーラ別とアクセント式別に調査の語彙を選出して調査を行う。また、形容詞や動詞はアクセント式に偏りがあるため、全てのアクセント式が整っている名詞だけに範囲を絞る。

モーラ数について、日本語は 2~4 拍の言葉が多く、それ以上のモーラを持つ

言葉は長いとよく感じられる。また、5拍以上の言葉になると省略される傾向があり、いずれも2～4拍に省略される。⁹それに加え、謝（2000：72）によると、中国語は単音節語なので、学習者はその影響を受け、日本語の五音節あるいはそれ以上の音節数なら、不規則なアクセントが出ると述べている。そして、5拍以上の語彙は複合名詞の場合もあり、不規則のタイプがより複雑になる。そのため、本研究は単純な名詞アクセントの課題を扱い、5モーラ以上のものは将来の研究に譲る。

そして、実験語は日本語検定三級以下の単語を使用し、台湾の日本語学科で使用されている教科書から使用頻度の高い語彙を選出した。その中から1988年に出版された『NHK 日本語発音アクセント辞典』で1～4拍の全てのアクセント式の単語を各5個、計70個の単語を選出した。なお、戸田（2003：71）によると、特殊拍はモーラ性が付与され、アクセント核を担わないため、様々な異音を持つ。一方、アクセント式に偏りがあるため、本稿では単独で音節を構成しない促音、長音を調査範囲外とする。以上のことから、表3-2に本稿の実験語を示す。

⁹ 例を挙げると、パーソナル・コンピューター（11拍）→パソコン（4拍）、自動販売機（8拍）→自販機（4拍）、アルバイト（5拍）→バイト（3拍）など。

表 3-2：実験語表

アクセント式	アクセント記号	実験語（名詞）
一拍語		
頭高型	●（○）	目、木、火、歯、絵
平板型	○（●）	蚊、血、子、気、毛
二拍語		
頭高型	●○（○）	空、妻、傘、中、箸
平板型	○●（●）	鳥、鼻、箱、星、国
尾高型	○●（○）	夏、橋、音、腕、夢
三拍語		
頭高型	●○○（○）	枕、涙、緑、季節、医学
中高型	○●○（○）	答え、お菓子、一人、卵、お風呂
平板型	○●●（●）	東、桜、体、薬、魚
尾高型	○●●（○）	娘、男、頭、力、休み
四拍語		
頭高型	●○○○（○）	内閣、毎日、親切、来月、文学
中2高型	○●○○（○）	皆さん、靴下、果物、湖、目薬
中3高型	○●●○（○）	建物、平仮名、食べ物、金持ち、先生
平板型	○●●●（●）	地下鉄、豚肉、鉛筆、友達、大学
尾高型	○●●●（○）	半年、妹、 ^{ついたち} 一日、 ^{いちにち} 一日、正月

注：○は低い音節、●は高い音節を示す。（ ）内は助詞を示す。

3.3 実験文

第一章で筆者が行った小調査から、台湾人日本語学習者の単語のアクセントが安定していないことと、短文の朗読の際アクセントにズレが生じやすいことが分かった。そのため、発話調査の部分では、単語アクセントのみの場合と短文に入れた場合に分けて、単語のアクセントの発話について調査を行う。

日常生活での自然な談話の場面では感情を入れて発話するため、アクセントが変化したり、前後で融合したりして崩れる場合が多い。本稿の目的は台湾人日本語学習者の語アクセントの実態に着目しているため、単語のアクセントの発音が崩れないように実験文は全て平叙文を用いる。また、日本語学習歴が1年である大学二年生の初級学習者も対象となっているので、実験文はできるだけ簡単に設定した。また、語アクセントの平板型と尾高型を区別するために、実験語の後ろには助詞が付けてある（実験語＋助詞）。実験文は付録の資料6を参照されたい。

3.4 音刺激の作成

聞き取り調査の音刺激の作成について、30代後半の日本語教師である東京式アクセントの話者（女性）に実験語と実験文を読んでもらい録音した。録音の際には、実験語のアクセントに気を配りながら録音してもらった。録音した後、1988年に出版された『NHK 日本語発音アクセント辞典』を用いて音刺激のアクセントが合致しているか再度確認した。音声編集ソフト「gold wave 5.67」を用いて、実験語と実験文をコピーして各三回に増やした。録音にはASUS U31Jのノートパソコンを用いた。

3.5 調査の方法

調査は団体でLL (language laboratory) 教室で行った。LL教室に来られなかった被験者は個別に静かな研究室で調査を行った。まず、調査の注意事項について説明し、解答用紙（付録を参照）を配布した。調査は「単語の読み書き」、「単語の聞き取り」、「短文の聞き取り」、「単語の発音」、「短文の発音」の順に行った。

「読み書きの調査」について、実験語のアクセントを学習者はどのように覚えているのかを明らかにするため、被験者に実験語を見せてその単語の高低音節を書いてもらう。また、実験語には読み間違いがないように全てルビが付けてある。回答方法については、解答用紙の各単語に直接高低アクセントの線を引いて

もらう。回収した後、筆者が『NHK 日本語発音アクセント辞典』を用いて検証する。

「聞き取りの調査」に関して、被験者にヘッドフォンを付けてもらい、全員同時に音声ファイルを流した。回答方法は「読み書き調査」と同じである。音声ファイルの単語（または短文）は一つにつき三回ずつ繰り返す。音声ファイルの内容は発話調査と同じものを使用する。

「発音の調査」については、ヘッドフォンのマイクで録音する。「聞き取り調査」の後、五分ほど休憩し、その間に注意事項などについて説明する。問題の項目は漢字と仮名混じりで表したものを、読み間違いがないように全ての漢字にはルビが付けてある。また、被験者には丁寧に読んでもらうよう指示し、録音の際は一回ずつ、各単語の間には二秒のポーズを置くよう指示する。

3.6 分析の方法

本研究は主にアクセントの習得に関連する三つの項目（それぞれ読み書き、聞き取り、発話）から台湾人日本語学習者のアクセントの実態を明らかにすることを目的としている。そのため、この三つの研究の項目に沿って分析を行い、さらにそれらを総合して比較する。前にも述べたが、台湾の教育の現場において、品詞や語種別でアクセントの指導をしているのではなく、モーラ数別やアクセント式別（ピッチの高低）で指導をしているのが多数である。要するに、学習者にとってモーラとアクセント式は強いと言えるであろう。したがって、モーラとアクセント式に着目した方法で考察するべきであることは言うまでもない。以上により、本稿では以下の方法でそれぞれ学習者の読み書き、聞き取り、発話調査の分析を行う。

本研究では「読み書き」、「聞き取り」と「発音」の三つの項目について、被験者を属性別に分けて分析を行う。属性はそれぞれ、学習歴別、性差、留学経験の有無である。そして、属性別に被験者の各アクセント式の不一致率を出して見や

すいようにグラフ化する。また、それぞれの項目についてどのアクセント式が学習者にとって習得しやすいのか、また、学習者の解答はどのような傾向になるのかなどを明らかにする。なお、学習者にとってなぜそのような傾向になるのか、実験語から見て原因を探し出す。最後に、「読み書き」、「聞き取り」と「発音」の回答の傾向に関連性はないか、学習者の解答から分析する。



第四章 アクセントの読み書きについての結果

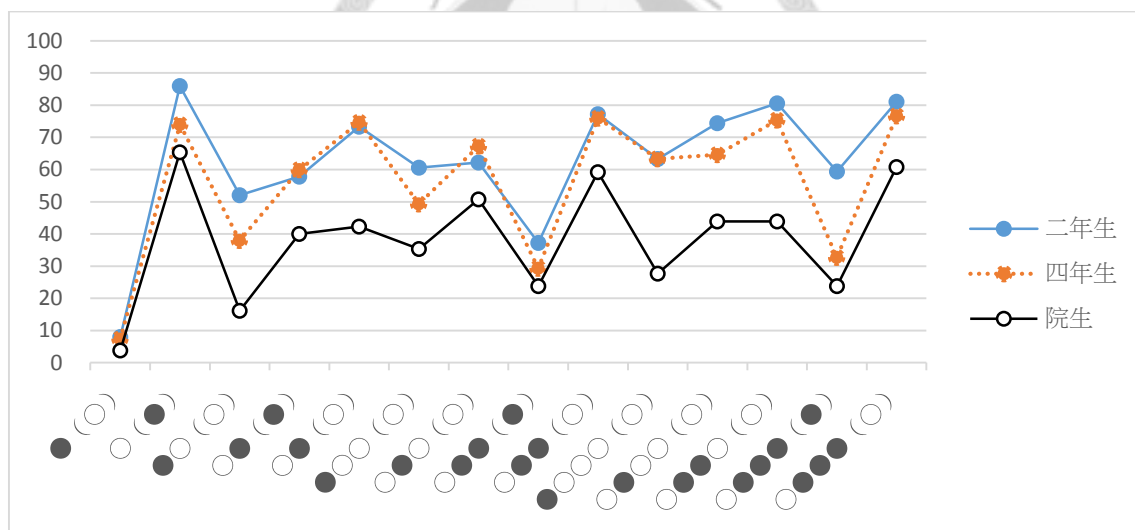
ここでは各学習者から得たアクセントの読み書きに関する調査結果を図示して論じたい。属性については、学年別、性差、留学経験の有無という順に述べることにする。

4.1 各属性の結果

4.1.1 学年別から見た調査結果

附録の資料7より、X軸を各アクセント式の音声刺激（実験語）、Y軸を不一致率（%）とし、学年別に分けたグラフを次の図4-1に示す。

図4-1：学年別の読み書きについての不一致率



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。（ ）内は助詞を示す。

まず、各アクセント式の不一致率の出し方について述べたい。不一致率は各アクセント式に含まれる五つの実験語の不一致数を足し、全問題数で割り出した数値である。この数値は各アクセント式の比較に使用するもので、学習者個人の習得能力を意味するものではないことを予め断っておく。なお、同じアクセント式に含まれる各実験語の不一致率の差は顕著ではないが、格別違いのある実験語は後の節で取り上げて説明する。また、他の章の不一致率についても同じ計算の

仕方である。

さて、図 4-1 から、学年別に見た結果では、ズレの傾向・グラフの形は類似していることが観察される。そして、学習歴が長くなるにつれて不一致率が低くなっていることが分かった。そのうち、二年生と四年生の差は顕著とは言えず、不一致率が近いアクセント式が多くある。(それぞれ一拍語の頭高型、二拍語の平板型と尾高型、三拍語の尾高型と四拍語の頭高型である)。これに対し、院生の場合では、不一致率が全体的に低くなっており、二、四年生と比べて2割～4割の差が見られる。

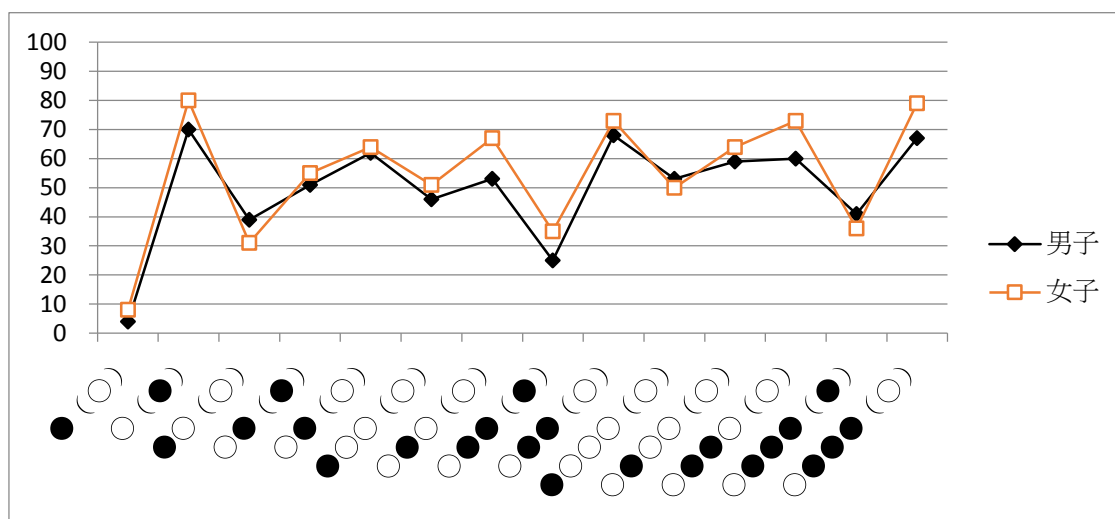
拍数別に見てみると、不一致率が高いアクセント式、つまりズレが集中しているのは、一拍語は平板型で、二、三拍語は尾高型、四拍語は尾高型と中高型である。一拍語の平板型を除くと、いずれも、「○●○」や「○●●○」といった「低高低」の形のアクセント式であることが分かった。一方、「低高低」の形を取らない頭高型や平板型の不一致率は比較的低いことが明らかになっている。つまり、読み書きの場合では、「低高低」の形のアクセント式は台湾人日本語学習者にとって習得が難しいといえる。すなわち、読み書きの場合では、拍数ではなく、アクセント式の方が台湾人日本語学習者にとって影響が大きいことが分かった。

以上概観して気付くのは、台湾人日本語学習者について、読み書きの場合、「低高低」の形のアクセント式はズレが生じやすいことが検証できた。それに対して、一拍語の頭高型や三、四拍語の平板型のアクセント式については不一致率が低くなっていることが分かった。その理由としては、まず、一拍語には二つのアクセント式がある。それぞれ頭高型と平板型である。一拍語の頭高型の語彙数は平板型の語彙数よりも多く、学習者が日本語を習得する際、平板型の語彙よりも頭高型の語彙と接触する機会が多くなっている。そのため、学習者は一拍語の実験語を見て脳内では頭高型と認知してしまい、書き込んでしまったと考えられる。なお、ズレの傾向については 4.2 に譲る。

4.1.2 性差から見た調査結果

図 4-2 は、附録の資料 8 をもとに、X 軸を各アクセント式の音声刺激（実験語）、Y 軸を不一致率（%）とし、被験者を男女別に分けたグラフである。

図 4-2：男女別の読み書きについての不一致率

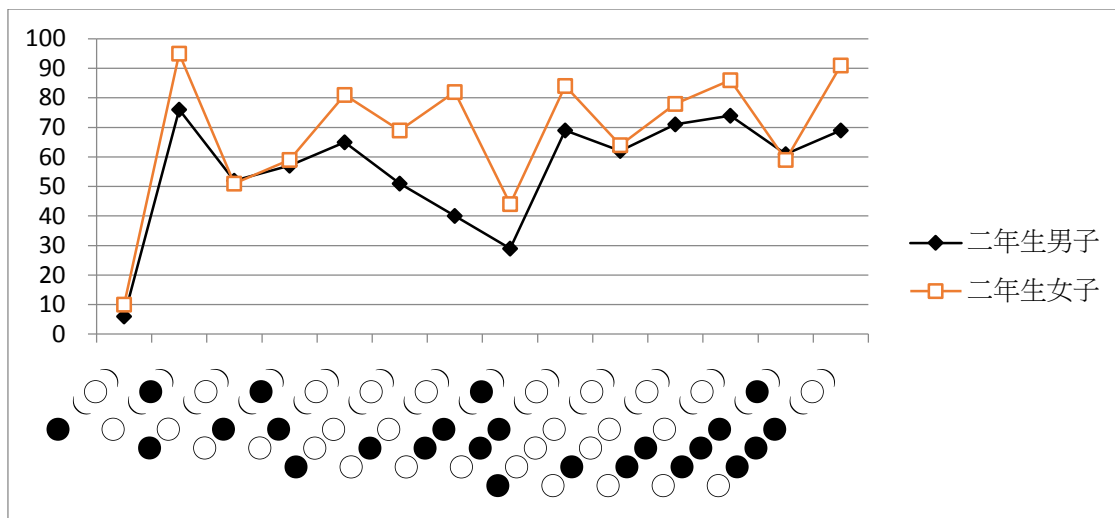


注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

全体的に見てみると、男子学生と女子学生のグラフの形・ズレの傾向は類似しているのが分かる。不一致率については、若干男子学生の方が女子学生よりも低いことが観察されるが、その差は大きくても 1 割程度で、それほど顕著ではない。その中で特に注意されたいのは、一拍語の平板型、三拍語の中高型と尾高型、四拍語の中 3 高型と尾高型の五つのアクセント式である。いずれも「低高低」の形のアクセント式であり、これらのアクセント式では男子学生は女子学生を 1 割ほど下回っている。これは、アクセントの読み書きの場合、差はそれほど大きくないが、男子学生の方が「低高低」の形のアクセント式に対して習得力がやや高いことが観察される。

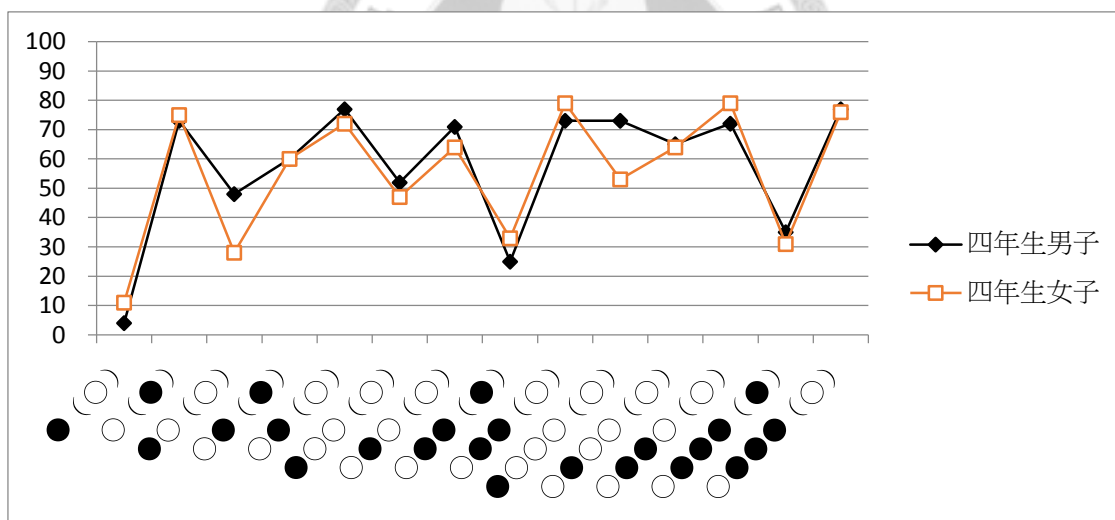
次に、詳細な分析を試みるとして、附録の資料 8 にもとづき、二年生、四年生と院生を男女別に分けてアクセントの読み書きに相違はないか、グラフを用いて見てみる。それぞれ、図 4-3、4-4、4-5 である。

図 4-3：二年生の男女別による読み書きの不一致率



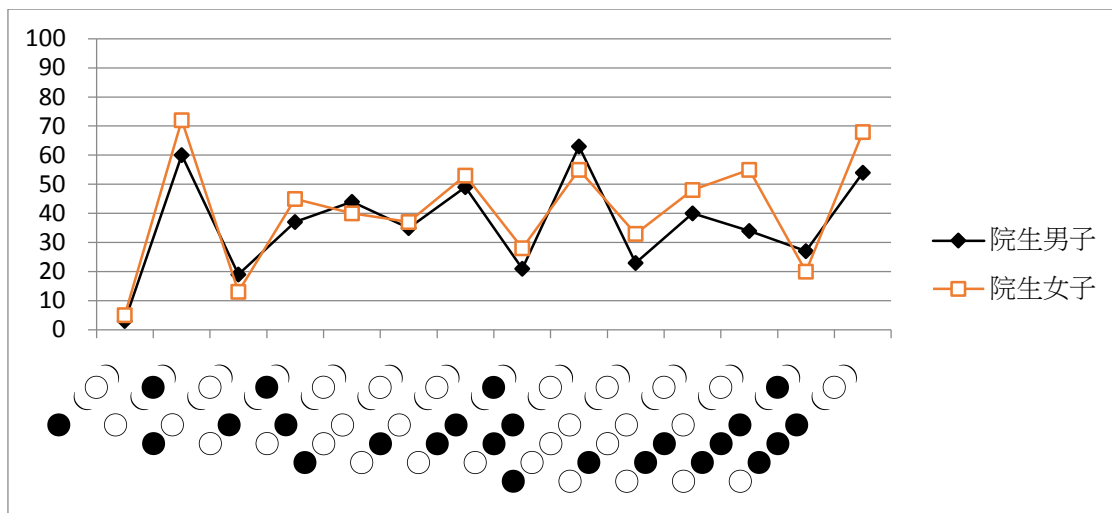
注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

図 4-4：四年生の男女別による読み書きの不一致率



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

図 4-5：院生の男女別による読み書きの不一致率



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

男子学生と女子学生の不一致率で最も差があったのは図 4-3 の二年生のグラフであることが分かる。図 4-3 を見てみると、一拍語の頭高型、二拍語の頭高型と平板型、四拍語の頭高型と尾高型では、男子学生と女子学生の不一致率はほぼ同じであるが、その他のアクセント式では、男子学生は女子学生よりも約 1 割～4 割下回っていることが観察される。そして、二年生の女子学生では不一致率が 8 割を超えたアクセント式がいくつかあるが、これに対して、男子学生では一つもないことが察知される。要するに、アクセントの読み書きの場合、日本語を習い始めた段階では男子学生の方が女子学生よりも把握できると思われる。

図 4-4 の四年生になると、男子学生と女子学生の不一致率の差は縮んできていることが分かる。それに加え、女子学生の方が若干男子学生を下回ったのが観察される。そこで、特に注意されたいのは頭高型である。二、三、四拍語の頭高型はいずれも男子学生の不一致率の方が高い。それぞれ 48%、52%、73%で、女子学生よりも 1 割～2 割高いことが分かったが、いずれも顕著な差ではない。一方、他のアクセント式の不一致率については、それほど差は見られない。

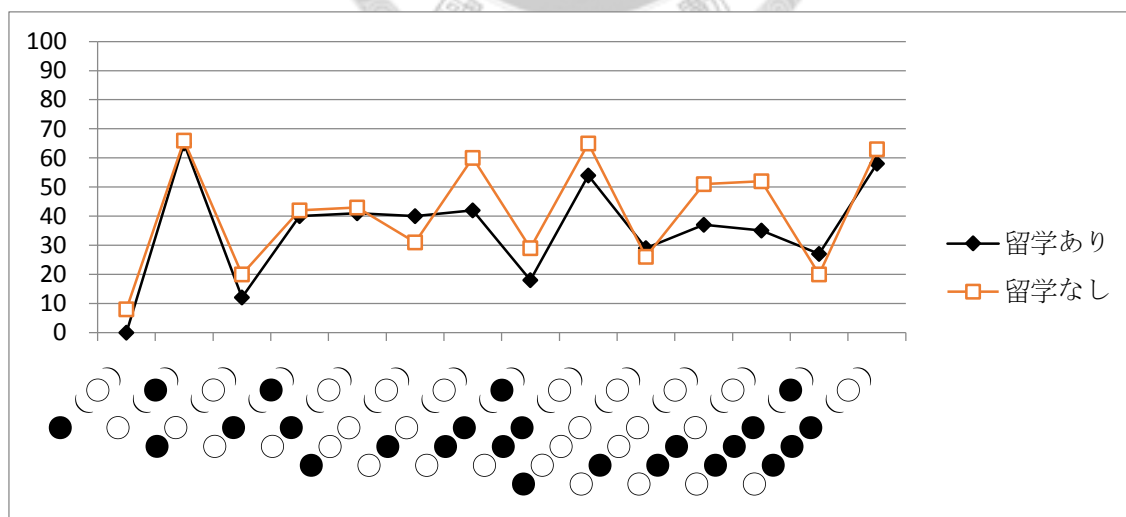
図 4-5 の院生について、全体的に見ると男子学生と女子学生の不一致率はほ

ば同じであるが、一拍語の平板型、四拍語の頭高型、中3高型と尾高型は男子学生の方が女子学生より1割～2割低いことが分かった。グラフからも観察されるが、四拍語の頭高型以外は全て「低高低」の形のアクセント式である。これは、前述したように、男子学生の方が「低高低」の形のアクセント式に対して習得力がやや高いことと関連性があると見られる。確かに、図4-3、4-4、4-5の「低高低」の形のアクセント式に留意してみると、男子学生の方の不一致率が比較的低いことが察知できる。これについては、今後の研究の一つの重要な課題として究明が待たれるところである。

4.1.3 留学経験から見た調査結果

留学経験のある院生と留学経験のない院生に分けたグラフについて見てみる。図4-6は、附録の資料9をもとに、X軸を各アクセント式の音声刺激(実験語)、Y軸を不一致率(%)とし、留学経験の有無別に統計したグラフである。なお、二年生と四年生について、留学経験のある学習者の人数が不足なため、ここでは院生のみを対象として分析を行う。

図4-6：留学経験の有無別に見た読み書きの不一致率



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

全体的に見ると、留学経験のある院生の不一致率は留学経験のない院生より

低いことが見受けられる。一拍語と二拍語では、両者に顕著な差は見られないが、三拍語の中高型、平板型と尾高型、四拍語の中 2 高型と中 3 高型に最も差異が見られる（それぞれ 18%、11%、9%、14%、17%の差がある）。これは、留学経験のある院生は留学経験のない院生よりも、三拍以上のアクセントの読み書きに対して把握が良いと推論できる。

また、留学経験に関係なく、不一致率が一番高いのは一拍語の平板型で、その次が「低高低」の形のアクセント式であることが観察される。これは、台湾人日本語学習者は、とりわけ「低高低」の形のアクセント式に対し、習得が弱いことが改めて検証できた。そして、留学による読み書きに対する影響には限界があり、苦手なアクセント式について、改善は見られないことを物語っている。

以上、属性別に分けて学習者の読み書きの傾向を見てきた。属性によって不一致率に違いはあるものの、巨視的に見て、いずれも「低高低」の形であるアクセント式、つまり中高型と尾高型にアクセントのズレが集中していることが分かった。これは、ピッチの下降を伴うアクセント式は台湾人日本語学習者にとって習得が難しいアクセント式であることを物語っている。すなわち、学習者にとって、ピッチの上昇は把握できても、アクセントの核が分からないため、中高型、平板型と尾高型の区別ができず、読み書きの際に混同が起きるということである。

4.2 読み書きにおける傾向について

本節では、ピッチの下降を伴うアクセント式、つまり「低高低」の形のアクセント式である中高型と尾高型に焦点を当てて、読み書きの傾向について考察を行う。それぞれのアクセント式については拍数別に示した各項で詳しく検討していく。また、理解しやすいために、図を用いて述べることにする。

4.2.1 読み書きにおける傾向についての整理

本調査で得たデータの中から、読み書きの傾向を以下の表 4-1 にまとめてみた。

表 4-1：台湾人日本語学習者における読み書きの傾向

アクセント式	二年生	四年生	院生
一拍 頭高型	—	—	—
平板型	頭高型 (78%)	頭高型 (74%)	頭高型 (65%)
二拍 頭高型	平板型 (25%)	—	—
平板型	尾高型 (42%)	尾高型 (33%)	尾高型 (32%)
尾高型	平板型 (54%)	平板型 (53%)	平板型 (37%)
三拍 頭高型	平板型 (25%)	平板型 (41%)	平板型 (28%)
中高型	平板型 (21%) 尾高型 (20%)	平板型 (39%) 尾高型 (16%)	平板型 (25%) 尾高型 (22%)
平板型	●●● (●) (17%)	—	尾高型 (20%)
尾高型	平板型 (64%)	平板型 (59%)	平板型 (55%)
四拍 頭高型	平板型 (23%)	平板型 (45%)	平板型 (17%)
中 2 高型	平板型 (21%) ●●○○ (○) (18%)	平板型 (27%)	平板型 (22%)
中 3 高型	平板型 (32%) 中 2 高型 (17%)	平板型 (37%) 中 2 高型 (17%) 尾高型 (14%)	尾高型 (18%) 平板型 (15%)
平板型	○○●● (●) (17%)	○●○○ (○) (18%)	—
尾高型	平板型 (44%)	平板型 (47%)	平板型 (59%)

注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

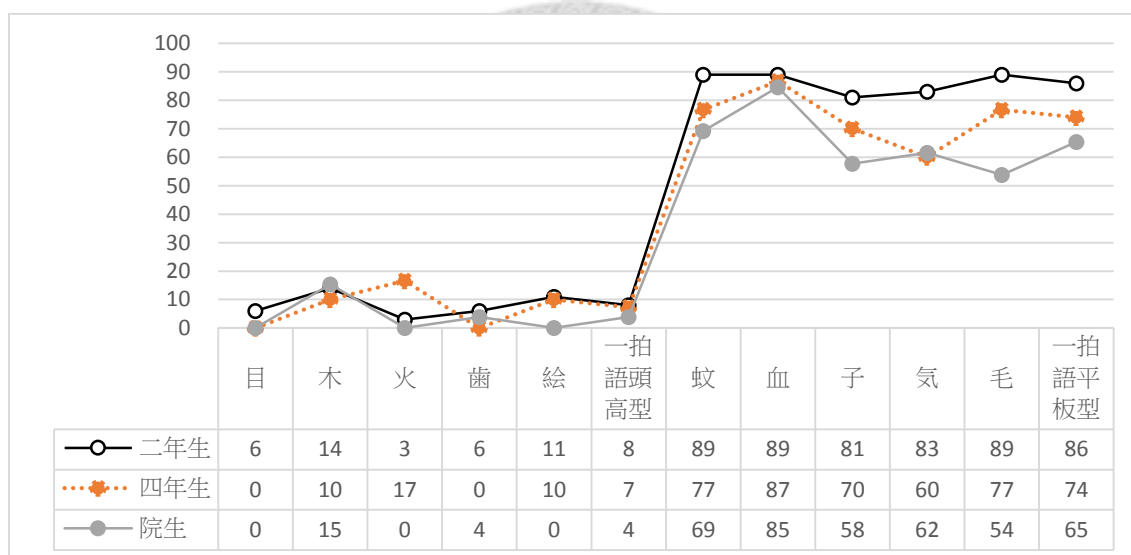
第四章の第一節でも述べたが、読み書きの場合では「低高低」の形のアクセント式にズレが生じやすいことが分かった。これについて、上の表 4-1 から読み取れるように、読み書きの場合、実験語を高い割合で他のアクセント式と書い

たのは、一拍語の平板型、二拍語の平板型と尾高型、三拍語の尾高型、四拍語の中 3 高型と平板型であるのが観察される。そして、一拍語の平板型を頭高型に書き、二拍語の平板型を尾高型に書く傾向が見られる。また、二拍語の尾高型、三拍語の尾高型、四拍語の中 3 高型については平板型に書く傾向がある。

次に、拍数別に見ていくとするが、表 4-1 を用いながら詳しく検討していくことにする

4.2.2 一拍語の傾向について

図 4-7：一拍語のそれぞれの実験語における読み書きの不一致率



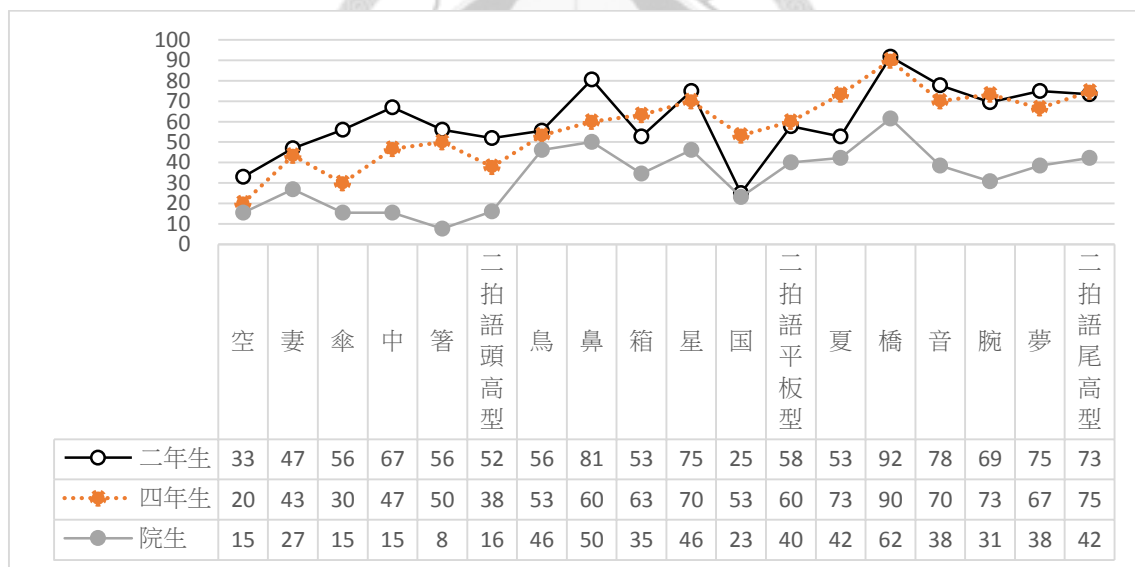
注：数字は%を示す。

図 4-7 を見てみると、一拍語の頭高型の不一致率はどの学年も 1 割程度であることが観察される。実験語の中で、特に「目」と「歯」の不一致率は低く、0%に近い。「木」の不一致率は五つの実験語の中で一番高いが、それでも不一致率は 2 割以内であり低い方である。以上のことから、一拍語の頭高型は、読み書きの場合、台湾人日本語学習者にとって習得しやすいアクセント式の一つであると言える。理由としては、一拍語の頭高型は発音しやすいだけでなく、覚えやすい形であると考えられる。

それに対して、一拍語の平板型の不一致率が非常に高いのが観察される。学年別に見てみると、二年生が86%、四年生が74%、院生が65%と、学年が高くなるにつれて不一致率が低くなっているが、どれも高い割合でズレが生じているのが分かる。表4-1を見てみると、ズレの傾向について、一拍語の平板型を頭高型と書いたのは、それぞれ二年生が78%、四年生が74%、院生が65%である。約6割以上の割合で台湾人日本語学習は一拍語の平板型を頭高型と書く傾向があることが分かった。これは、一拍語の頭高型への意識が強いのが原因だと考えられる。理由としては、一拍語の頭高型は学習者にとって比較的覚えやすいアクセント式であることは前述の通りである。

4.2.3 二拍語の傾向について

図4-8：二拍語のそれぞれの実験語における読み書きの不一致率



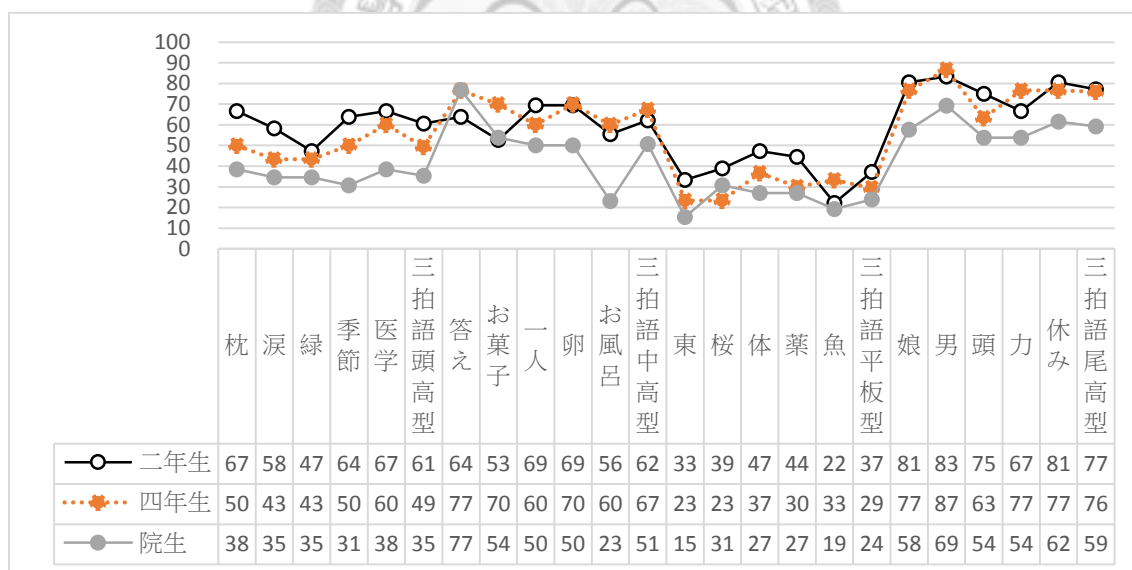
注：数字は%を示す。

上の図から分かるように、二拍語の尾高型は、他のアクセント式と比べ最も不一致率が高いことが観察される。二拍語の尾高型の不一致率はそれぞれ二年生が73%、四年生が75%、院生が42%である。これは頭高型と平板型と比べ、1割~2割高くなっていることが観察される。この傾向は学年に関係なく同じであることが分かった。

表 4-1 より、二拍語の場合、尾高型を平板型と書いたのが多く見られる。それぞれ、二年生は 54%、四年生は 53%、院生は 37%であるのが観察される。上述したように、学習者のズレの半分以上は平板型に書く傾向が一目瞭然である。これは、学習者はピッチの上昇を意識はしているが、ピッチの下降には意識が行き届いていないことが伺える。仮に、被験者が積極的にピッチの下降を意識しているのであれば、尾高型を平板型と書くことはないと筆者は考える。ちなみに、●●(○) や●●●(●) といった、ピッチの上昇部分が分からなかった場合は 1 割程度しかないことが分かった。以上、第四章の第一節で示したように、台湾人学習者はピッチの下降するところよりもむしろ上昇の方に気を配っていると言える。

4.2.4 三拍語の傾向について

図 4-9：三拍語のそれぞれの実験語における読み書きの不一致率



注：数字は%を示す。

三拍語について、中高型と尾高型の不一致率がそれぞれ 60%と 71%で、他の頭高型 (48%) と平板型 (30%) より高いことが観察される。また、実験語では顕著な差は見られない。

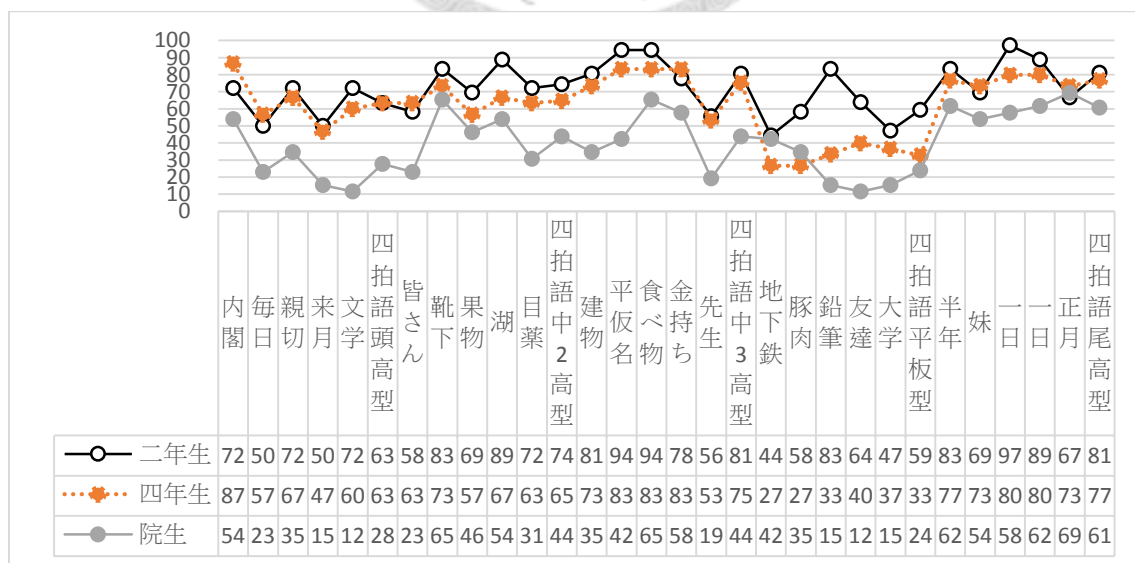
表 4-1 から、中高型の読み書きの傾向を見てみると、二年生の場合では平板型と書く傾向が 2 割、尾高型と書く傾向が 2 割、その他は 2 割となっている。四年生の場合では、平板型と書く傾向が 4 割、尾高型と書く傾向が 1 割、その他は 1 割となっている。また、院生の場合になると、平板型と書く傾向が 2 割、尾高型と書く傾向が 2 割である。

以上のことから読み取れるように、読み書きの傾向について、学習者がそれぞれ平板型と尾高型と書いた割合を合わせると約 5 割を占めることが分かった。これは、台湾人日本語学習者は中高型を平板型と尾高型に書く傾向があるということが容易に察知される。

次に、尾高型に関して、学習者は高い割合で平板型に書く傾向が見られる。二年生、四年生では 6 割、院生が 5 割というように、尾高型を平板型に書く傾向が強いことが分かった。これは、学習者はピッチの上昇を捉えることはできるが、下降する方に問題があることが改めて検証できた。

4.2.5 四拍語の傾向について

図 4-10：四拍語のそれぞれの実験語における読み書きの不一致率



注：数字は%を示す。

まず、四拍語の中 2 高型を見ていきたい。中 2 高型の不一致率はそれぞれ二年生が 74%、四年生が 65%、院生が 44%である。そこで、中 2 高型の実験語を見てみると、「皆さん」の不一致率がそれぞれ 58%、63%、23%で、他の四つの「靴下」、「果物」、「湖」、「目薬」より 1 割～3 割ほど低いことが分かった。言い換えれば、学習者は「皆さん」のアクセントについて、他の実験語より把握できていることを物語っている。これは、「皆さん」という実験語は教科書や授業中での使用頻度が他の語彙と比べて高いのが理由であると考えられる。なお、中 2 高型の読み書きの傾向はいくつかのバラつきはあるが、どの学年も 2 割ほどの割合で平板型と書いているのが観察される。

次に、中 3 高型の不一致率は、それぞれ二年生が 81%、四年生が 75%、院生が 44%である。いずれも高い割合を占めているのが観察される。また、表 4-1 より、中 3 高型を平板型と書く傾向はそれぞれ二年生が 32%、四年生が 37%、院生が 15%である。中 2 高型と書く傾向はそれぞれ二年生が 17%、四年生が 17%、院生が 11%である。以上のことから、学習者はピッチの上昇は把握できても、下降の位置が分からない場合が多く、平板型や中 2 高型に書く傾向が高いことが分かった。また、実験語を見てみると、最も不一致率が低かった実験語は「先生」である。それぞれ二年生が 56%、四年生が 53%、院生が 19%である。これは、「皆さん」と同じように、使用頻度が比較的に高いのが原因だと思われる。

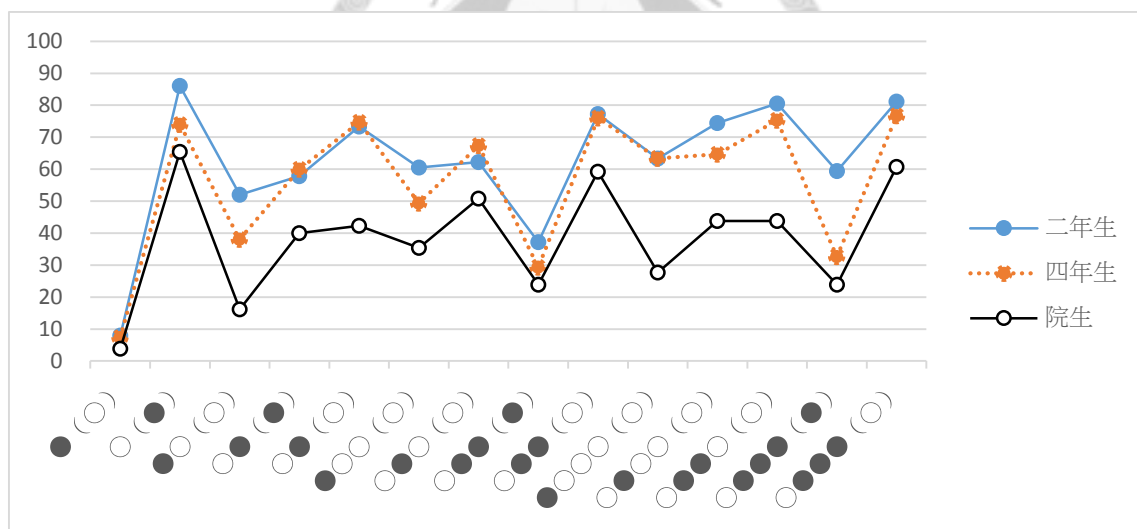
次に、四拍語の尾高型を見てみる。尾高型では学年に関係なくどの学年も同じ傾向があることが観察される。二年生と四年生は 4 割、院生は 6 割と尾高型を平板型と書く傾向があることが分かった。これは、四拍語の尾高型について、学習者はアクセントの核が分からないため、アクセントの核を書かずに平板型と書いたのが理由だと考えられる。また、尾高型の不一致率は他のアクセント式と比べ比較的高いことが観察される。

4.3 まとめ

本章は、台湾人日本語学習者の読み書きに関して、学年別、性差、留学経験の有無の三つの属性に分けて分析した。また、読み書きの傾向についても考察してきた。そこで、本章の研究結果を要約すると、以下のようになる。

まず、学習歴が長くなるにつれて、読み書きの不一致率が低くなる傾向があることが分かった。しかし、二年生と四年生の差は顕著ではなく、不一致率が5割以上のアクセント式が多数ある。一方、院生になると不一致率は比較的低くなり、不一致率が4割以下に留まっているのが多く見られる。以上のことを図で示すと、次のようになる。

図 4-11：学年別の読み書きについての不一致率



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

更に、上の図 4-11 から読み取れるが、台湾人日本語学習者は読み書きの際、「低高低」の形のアクセント式についてはズレが生じやすいことが検証できた。これは、「低高低」の形のアクセント式は台湾人日本語学習者にとって習得が難しいと言える。すなわち、読み書きの場合について、アクセント式の違いは台湾人日本語学習者にとって影響が大きいことが分かった。さらに加えると、学習者にとってピッチの上昇は把握できても、アクセントの核、つまりピッチの下降が

分からない場合が多いことを物語っている。

次に、性差から見た結果については、男子学生と女子学生の誤答のグラフの形は類似しているのが分かった。不一致率については、若干男子学生の方が女子学生よりも低いことが観察されるが、その差は大きくても1割程度で、それほど顕著ではない。

そして、留学経験の有無別から見た結果について、留学経験のある院生の不一致率は留学経験のない院生より低いことが見受けられる。一拍語と二拍語では、両者に顕著な差は見られないが、三拍語と四拍語になると、留学経験のある院生の不一致率が下回っているのが観察される。特に、三拍語の中高型、平板型と尾高型、四拍語の中2高型と中3高型に最も差異が見られる。これは、留学経験のある院生は留学経験のない院生よりも、三拍以上のアクセントの読み書きに対して把握が良いという結果が得られた。

最後に、読み書きの傾向について述べることにする。台湾人日本語学習者の読み書きの傾向を表にまとめると次の表4-2のようになる。

表 4-2：台湾人日本語学習者における読み書きの傾向

アクセント式	二年生	四年生	院生
一拍 頭高型	—	—	—
平板型	頭高型 (78%)	頭高型 (74%)	頭高型 (65%)
二拍 頭高型	平板型 (25%)	—	—
平板型	尾高型 (42%)	尾高型 (33%)	尾高型 (32%)
尾高型	平板型 (54%)	平板型 (53%)	平板型 (37%)
三拍 頭高型	平板型 (25%)	平板型 (41%)	平板型 (28%)
中高型	平板型 (21%) 尾高型 (20%)	平板型 (39%) 尾高型 (16%)	平板型 (25%) 尾高型 (22%)
平板型	●●● (●) (17%)	—	尾高型 (20%)
尾高型	平板型 (64%)	平板型 (59%)	平板型 (55%)
四拍 頭高型	平板型 (23%)	平板型 (45%)	平板型 (17%)
中 2 高型	平板型 (21%) ●●○○ (○) (18%)	平板型 (27%)	平板型 (22%)
中 3 高型	平板型 (32%) 中 2 高型 (17%)	平板型 (37%) 中 2 高型 (17%) 尾高型 (14%)	尾高型 (18%) 平板型 (15%)
平板型	○○●● (●) (17%)	○●○○ (○) (18%)	—
尾高型	平板型 (44%)	平板型 (47%)	平板型 (59%)

注：○は低い音節、●は高い音節を示す。() 内は助詞を示す。

上の表から、台湾人日本語学習者は読み書きの際、高い割合で一拍語の平板型を頭高型に書き、三拍語の尾高型を平板型に書く傾向が見られる。また、その他のアクセント式についても、一定の回答の傾向が見られ、約 2 割～5 割の割合で平板型に書くのが分かった。

以上、本章では台湾人日本語学習者の読み書きについて、学年別、性差、留学経験の有無の三つの属性に分けて見てきた。さらに、学習者の読み書きについて

の回答の傾向の新たな結果が得られた。次章は、台湾人日本語学習者における聞き取りについて考察する。



第五章 アクセントの聞き取りについての結果

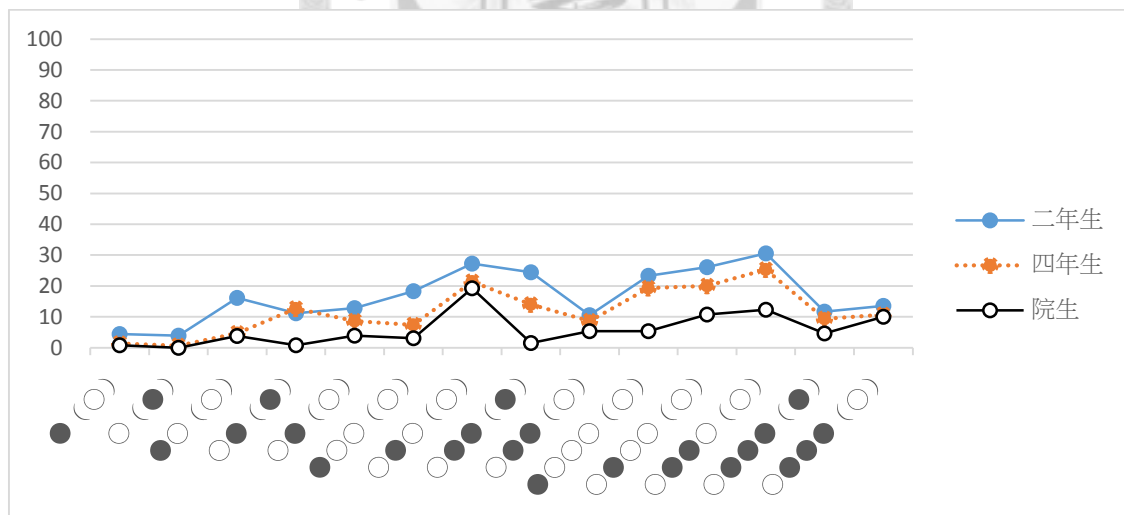
この章では各学習者から得たアクセントの聞き取りに関する調査結果について論じたい。属性については学年別、次に性差、最後に留学経験の有無という順に述べることにする。また、学習者に単語のみの場合と短文に入れた場合の二種類を聞かせて得た結果を見比べる。

5.1 各属性の結果

5.1.1 学年別から見た調査結果

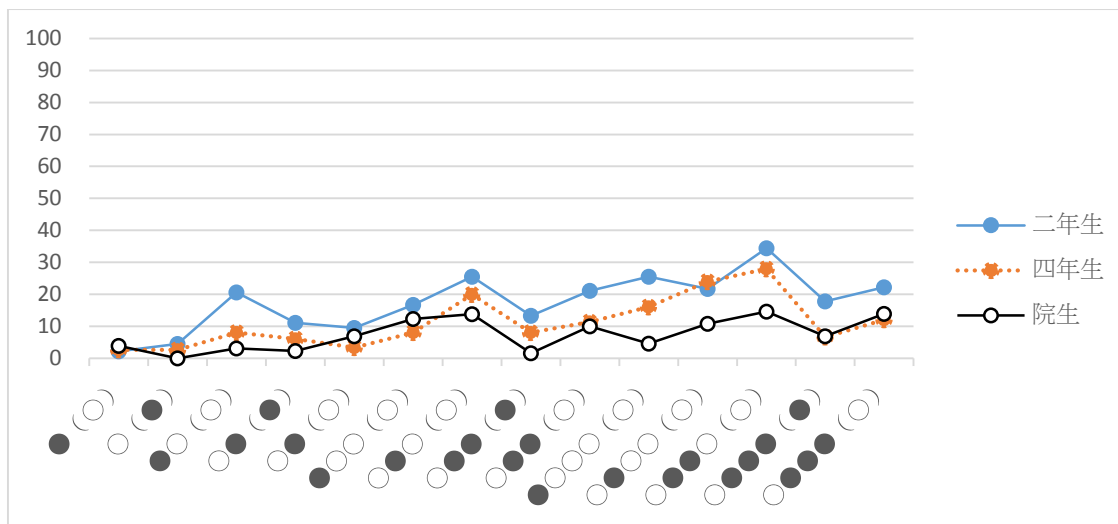
付録の資料 10、11 より、X 軸を各アクセント式の音声刺激（実験語）、Y 軸を不一致率（%）とし、学年別に分けたグラフを以下に示す。図 5-1 は単語のみを学習者に聞かせた場合であり、図 5-2 は短文を聞かせた場合である。

図 5-1：学年別の聞き取りについての不一致率（単語のみの場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。（ ）内は助詞を示す。

図 5-2：学年別の聞き取りについての不一致率（短文に入れた場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。（ ）内は助詞を示す。

まず、図 5-1 と図 5-2 を見てみると、各学年のアクセントの聞き取りについての不一致率は、二年生が 3 割以下、四年生は 2 割以下、院生は 2 割以下であることが観察される。これを第四章の「読み書き」と比べると、不一致率は一段と低くなっているのが分かる。これは、アクセントの聞き取りの場合、学習者はある程度把握できていると見受けられる。特に、学習歴が長い院生の場合では、聞き取りの項目ではほぼ満点に近いことが伺える。

そして、上の図から分かるように、どの学年も一拍語と二拍語の不一致率が低いことが観察される。二拍語では二年生の不一致率が少々高くなっているが、四年生と院生の不一致率は依然 1 割以内であることが分かる。また、三拍語と四拍語の場合では、三つの学年とも不一致率が徐々に上昇しているのが分かる。しかし、注意されたいのは、三拍語と四拍語の平板型の不一致率は少し下がっているのが観察される。これは、台湾人日本語学習者にとって、聞き取りの場合、不一致率は拍数にもなって上昇しているが、平板型については他のアクセント式よりも把握できていると言える。理由として考えられるのは、平板型はアクセントの核がないので、台湾人日本語学習者はピッチの下降を聞き分ける必要がない。そのため、学習者にとって平板型は他のアクセント式よりも比較的聞き取

りやすいアクセント式と言えるのである。

また、全体的に見ると、三拍語の「低高低」の形である中高型を始め、四拍語の中 2 高型と中 3 高型の不一致率が他のアクセント式と比べてやや高いのが観察される。単語のみの場合と短文に入れた場合を見合わせると、三拍語の中高型の不一致率は、二年生、四年生と院生とも約 2 割であることが観察される。四拍語の中 2 高型では、二年生と四年生が約 2 割、院生が 1 割である。そして、四拍語の中 3 高型はそれぞれ、二年生と四年生が約 3 割、院生が 15% である。以上述べた三拍語と四拍語の中高型は、同じ拍数の他のアクセント式より 5%～20% ほど不一致率が高いことが見受けられる。

以上のことから、聞き取りについて、台湾人日本語学習者に最も影響を与えるのは拍数であることが分かったが、アクセント式の種類も聞き取りに影響するのが明らかになった。第四章の「読み書き」と同じく、「低高低」の形のアクセント式は台湾人日本語学習者にとって聞き分けが難しいと推測できる。

では、第二章の「先行研究」で述べた潘 (2003:5) の説を見てみたい。潘 (2003:5) の調査結果では、三拍語の頭高型と中高型、そして四拍語の中 2 高型と中 3 高型については、聞き取りの際に偏りがあると述べている。つまり、聞き取りの場合でも「読み書き」と同じく、「低高低」の形のアクセント式は台湾人日本語学習者にとって聞き分けが難しいと判断できる。これは、本稿と同じ結果であると見受けられる。

まとめてみると、聞き取りの場合、台湾人日本語学習者に影響を与える要因としては、第一に拍数、第二にアクセント式という結果が挙げられる。なお、本節の各アクセント式の傾向に関しては 5.2 に譲る。

次に、聞き取りについての不一致率を拍数別に分けて見ていきたい。図 5-3 と図 5-4 はそれぞれ単語のみの場合と短文に入れた場合である。

図 5-3：拍数別に見た聞き取りの不一致率（単語のみの場合）

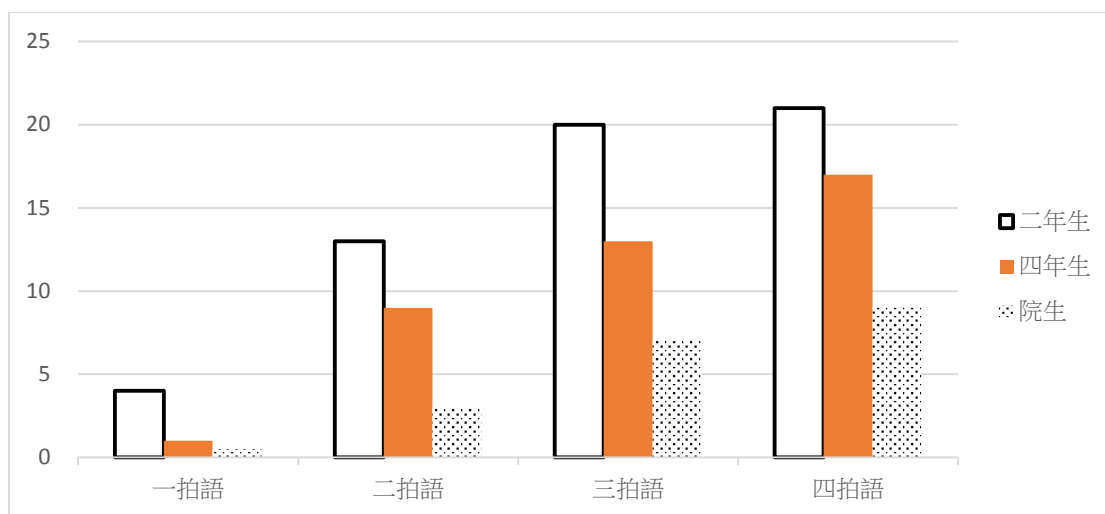


図 5-4：拍数別に見た聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）

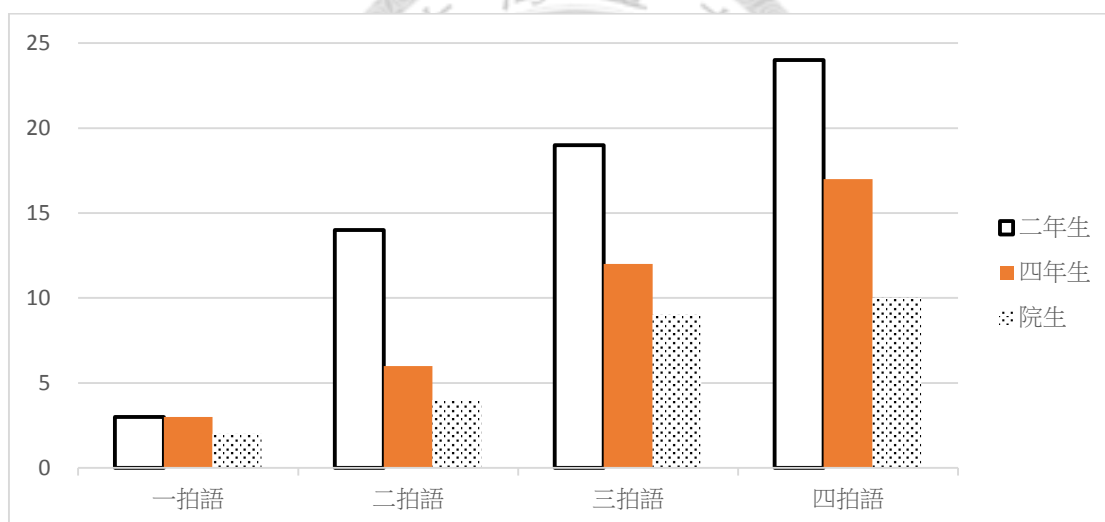


図 5-3、5-4 から分かるように、台湾人日本語学習者は、拍数が増加するにつれて、不一致率が増加することが分かった。言い換えれば、拍数が増えるにつれて台湾人日本語学習者は聞き取りにズレが生じやすいという結果となった。これは「読み書き」の場合とは異なり、「聞き取り」の場合では拍数が最も関わっていることが改めて検証できた。

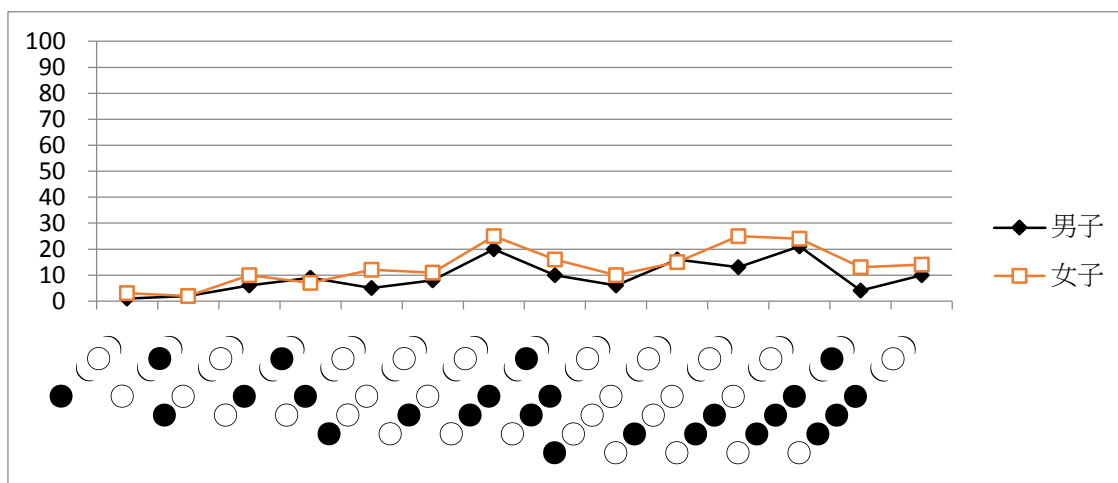
次に、単語のみの場合と短文に入れた場合を見比べてみたい。全体的に見てみると、両者の間違いの傾向に相違は見られない。これは、聞き取りに関して、台

湾人日本語学習者は、単語のみの場合と短文に入れた場合は同じ傾向を見せていると言える。不一致率に関しては、短文に入れた場合の方が単語のみの場合より少し高いことが観察される。

5.1.2 性差から見た調査結果

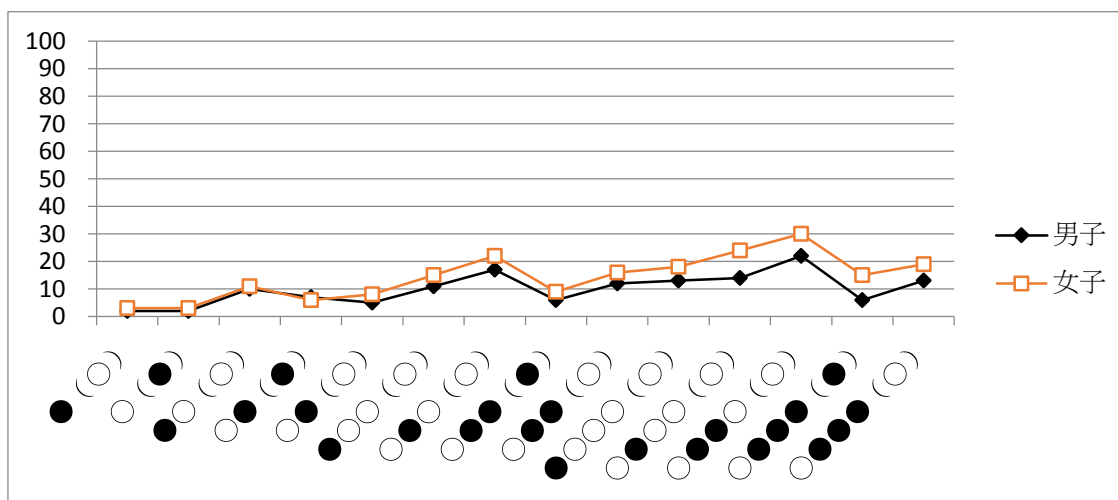
図 5-5 と図 5-6 は、付録の資料 12、13 をもとに、被験者を男女別に分けたグラフである。

図 5-5：男女別の聞き取りについての不一致率（単語のみの場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

図 5-6：男女別の聞き取りについての不一致率（短文に入れた場合）

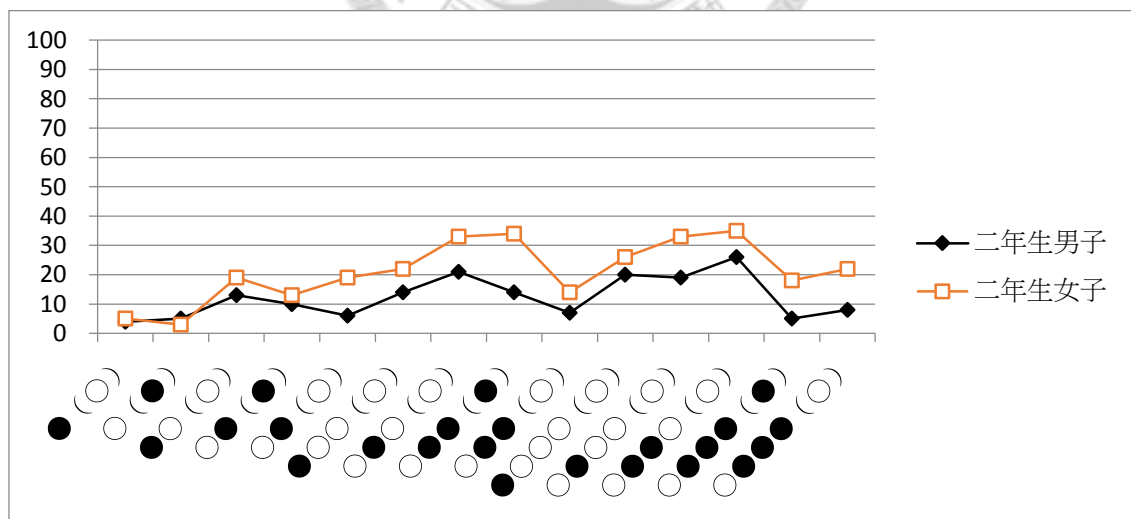


注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

図 5-5 と図 5-6 から分かるように、男子学生と女子学生のグラフの形は非常に類似している。しかし、全体を見てみると、若干男子学生の方が女子学生より不一致率が低いことが観察される。順に見てみると、単語のみの場合と短文に入れた場合ともに、一拍語と二拍語では男子学生と女子学生に相違は見られない。三拍語と四拍語になると、それほど顕著ではないが、1割ほど男子学生の方が女子学生より不一致率が低いと観察される。つまり、聞き取りに関しては、男子学生の方が女子学生よりアクセントの聞き分けができていているということである。また、注意されたいのは、前節でも述べたように、男女ともに拍数が増えるにつれて不一致率が徐々に上昇しているということである。これは性別に関係なく同じ傾向であることが図からも読み取れる。

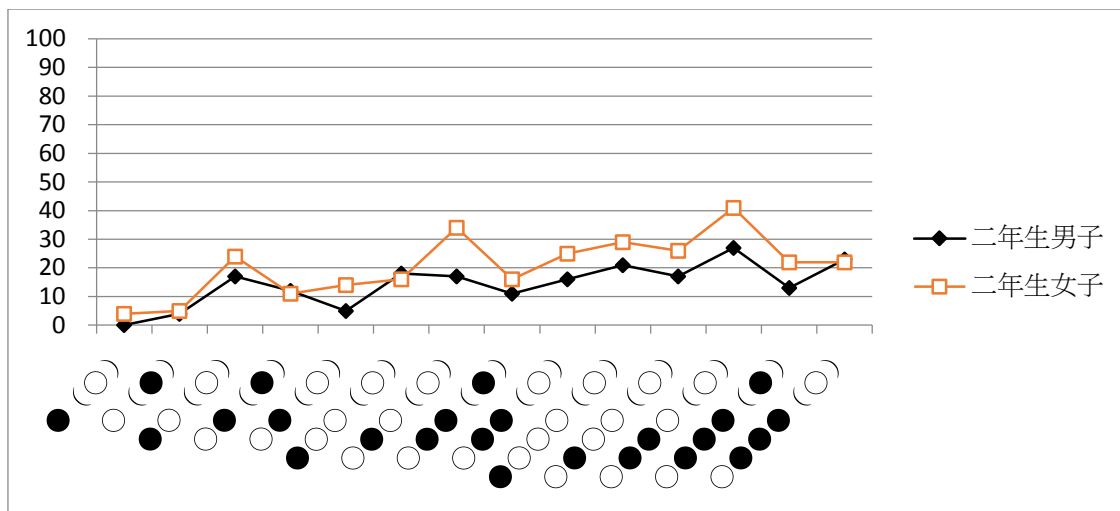
さて、次に、詳細な分析を試みるとして、付録の資料の 12、13 にもとづき、二年生、四年生と院生を男女別に分けてアクセントの聞き取りに相違はないか、グラフを用いて見てみる。それぞれ、図 5-7、5-9、5-11 が単語のみの場合で、図 5-8、5-10、5-12 が短文に入れた場合である。

図 5-7：二年生の男女別による聞き取りの不一致率（単語のみの場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

図 5-8：二年生の男女別による聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）

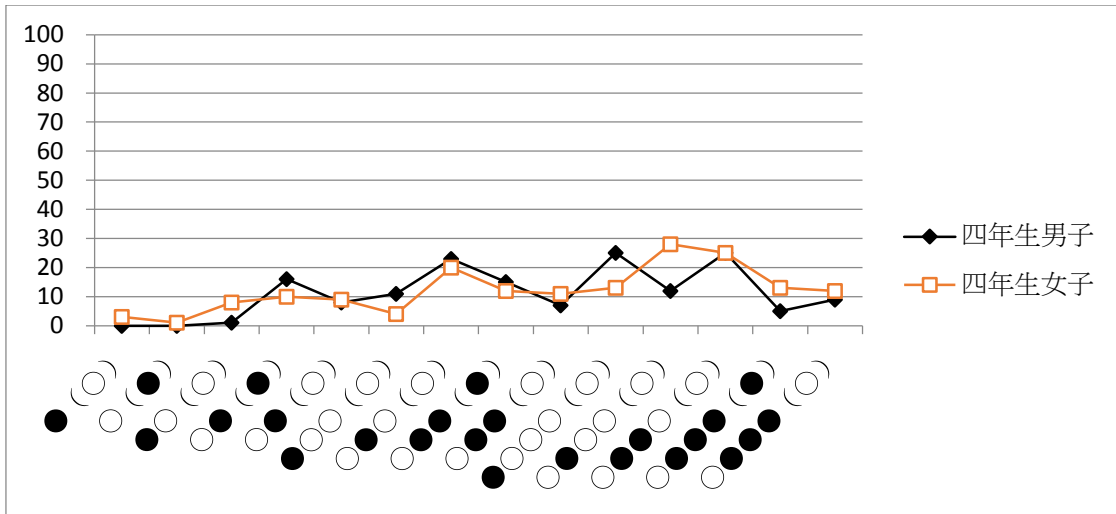


注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

まず、二年生の男女別の聞き取りについて見てみる。図 5-7 の単語のみの場合では、男子学生は女子学生よりも不一致率が 5%～10%ほど低いことが観察される。また、これは短文に入れた場合も同じ傾向が見られる。要するに、アクセントの聞き取りの場合、日本語を習い始めた段階では、男子学生の方が女子学生よりも音の高低を聞き分けているということである。

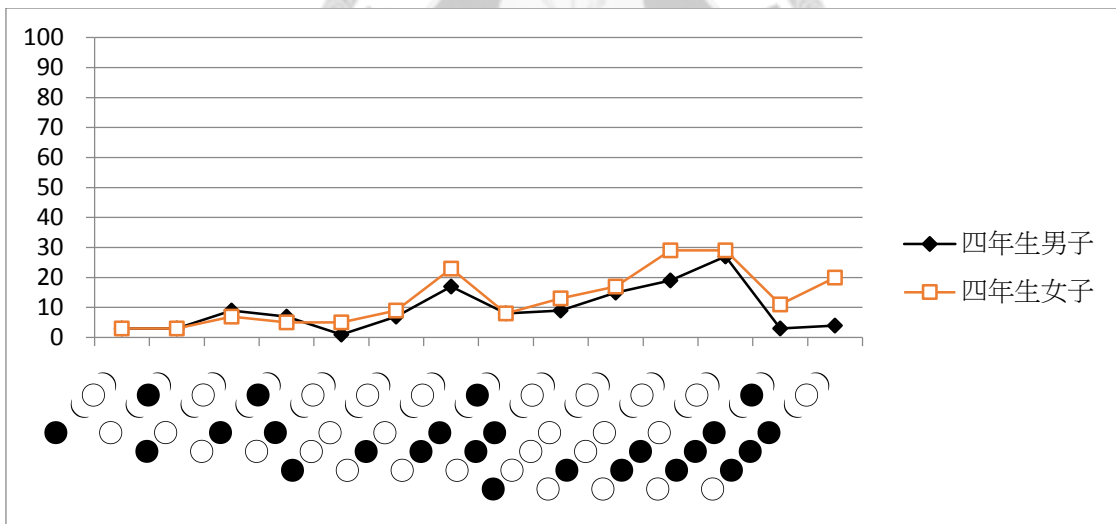
更に加えて、男女ともに三拍語の尾高型、四拍語の平板型と尾高型の不一致率は他のアクセント式と比べて低いことが観察される。一方、女子学生のグラフを見てみると、三拍語の中高型と平板型、四拍語の中 2 高型の不一致率が比較的高いことが観察される。男子学生の場合も同じく、三拍語の中高型と四拍語の中 2 高型の不一致率が他のアクセント式と比べてやや高い傾向が見られる。これは、短文に入れた場合でも同じ傾向が見られるが、特に女子学生の方が顕著である。つまり、聞き取りの場合では、「低高低」の形である中高型は聞き分けにくいアクセント式であると言える。

図 5-9：四年生の男女別による聞き取りの不一致率（単語のみの場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

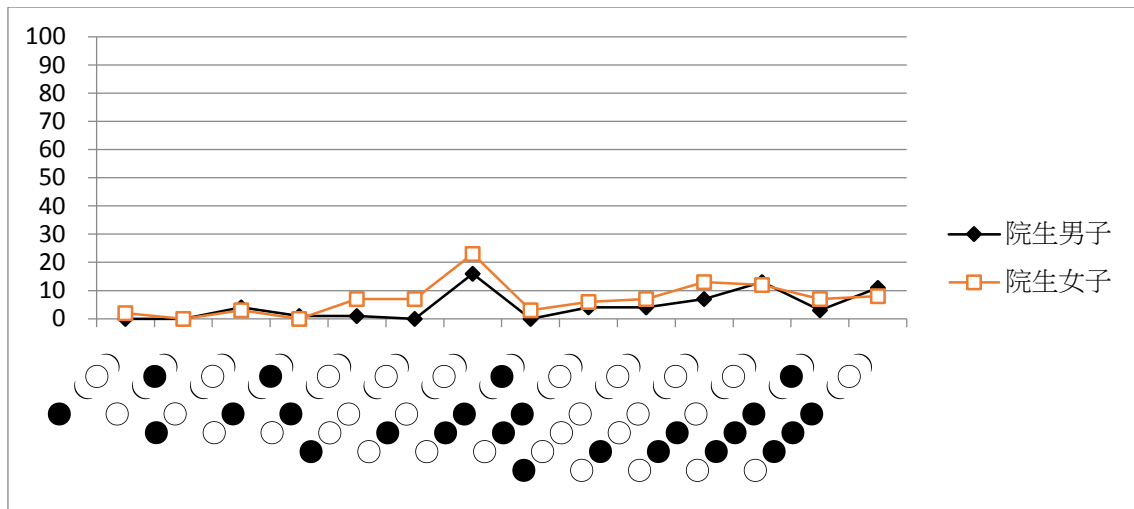
図 5-10：四年生の男女別による聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

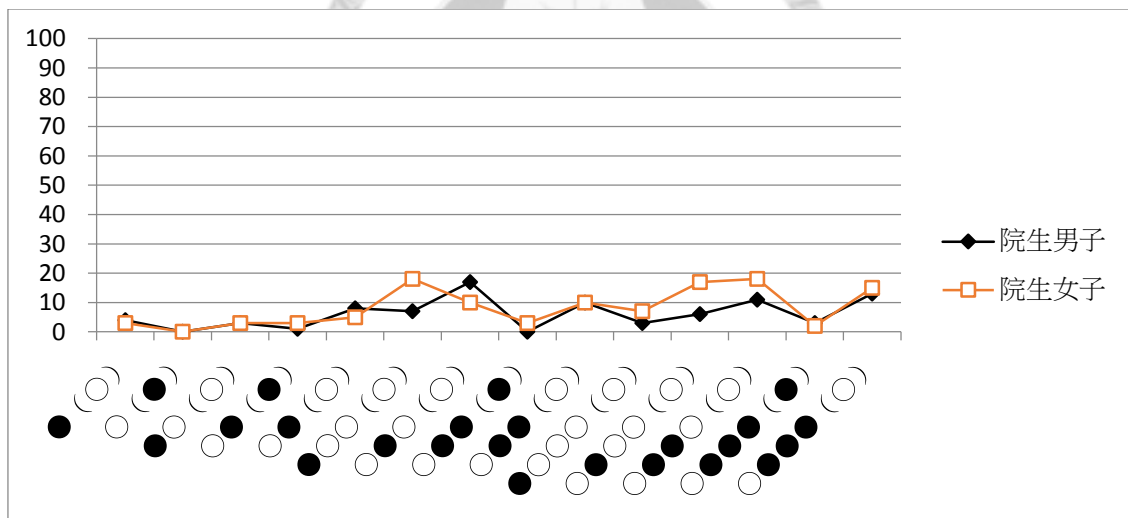
四年生の場合では、男子学生と女子学生の不一致率の差は縮んできているのが分かる。図 5-9 の単語のみの場合では、四拍語の頭高型と中 2 高型にのみ相違が見られ、他の拍数やアクセント式では顕著な違いは見られない。全体的に見ると、グラフの形は類似しており、不一致率も 3 割以下であることが観察される。そして、図 5-10 の短文に入れた場合では、四拍語の平板型と尾高型に差が見られるが、それ以外はほぼ同じであると言える。

図 5-11：院生の男女別による聞き取りの不一致率（単語のみの場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

図 5-12：院生の男女別による聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

院生の場合では、男子学生と女子学生のグラフの傾向、そして不一致率はほぼ同じであると言える。拍数別に見てみると、一、二拍語は男女とも満点に近い結果が観察される。三、四拍語になると不一致率は少し上昇しているが、やはり高い割合で聞き取れていることが分かる。院生になると、男女とも不一致率は平均的に2割以下となっているのが観察される。また、図 5-12 の短文に入れた場合について、図 5-11 の単語のみの場合よりも不一致率は少々上がっているが、や

はり 2 割以内となっており、院生にとって聞き取りは特に問題ないと思われる。

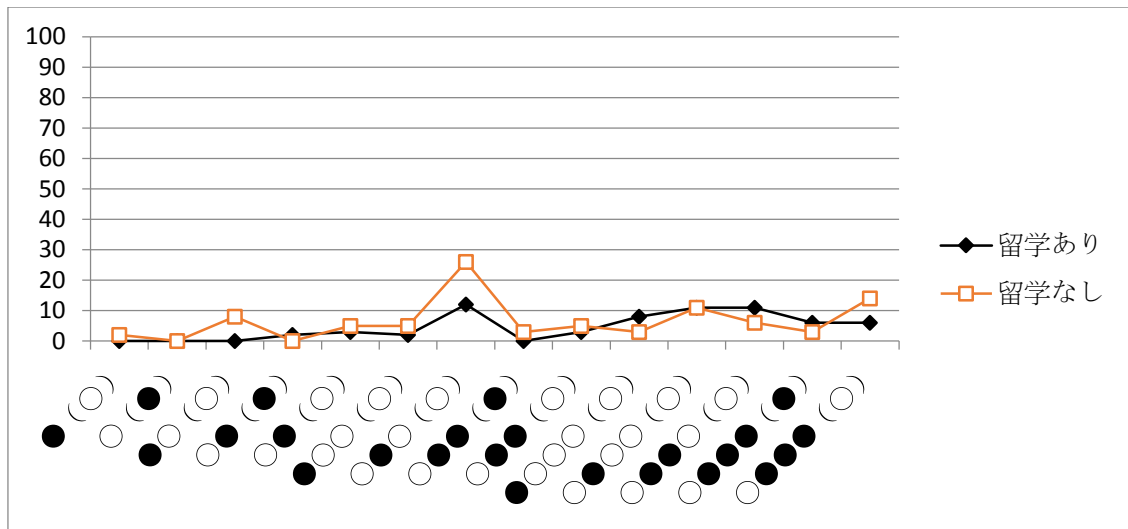
しかし、ここで注意されたいのは、図 5-11 の単語のみの場合の三拍語の中高型である。グラフから分かるように、三拍語の中で中高型は他のアクセント式より不一致率が 1 割ほど高いことが観察される。これは、他の学年にも見られる傾向で、三拍語の中高型は、学年、男女を問わず、台湾人日本語学習者にとって聞き分けるのが難しいアクセント式の一つという結果を得た。

以上をまとめてみると、二年生の場合では、男子学生は女子学生よりも不一致率が比較的低いことが分かった。そして、四年生や院生になると、両者の不一致率に顕著な差は見られない。つまり、女子学生の聞き取り能力は、学習歴が長くなるにつれ伸びてくると言える。そして、短文に入れた場合は単語のみの場合より不一致率が少々上がっているが、学年、男女ともに「読み書き」の場合より正解率が高いことが観察される。これは、台湾人日本語学習者は「読み書き」よりも「聞き取り」の方が把握できることを意味している。

5.1.3 留学経験から見た調査結果

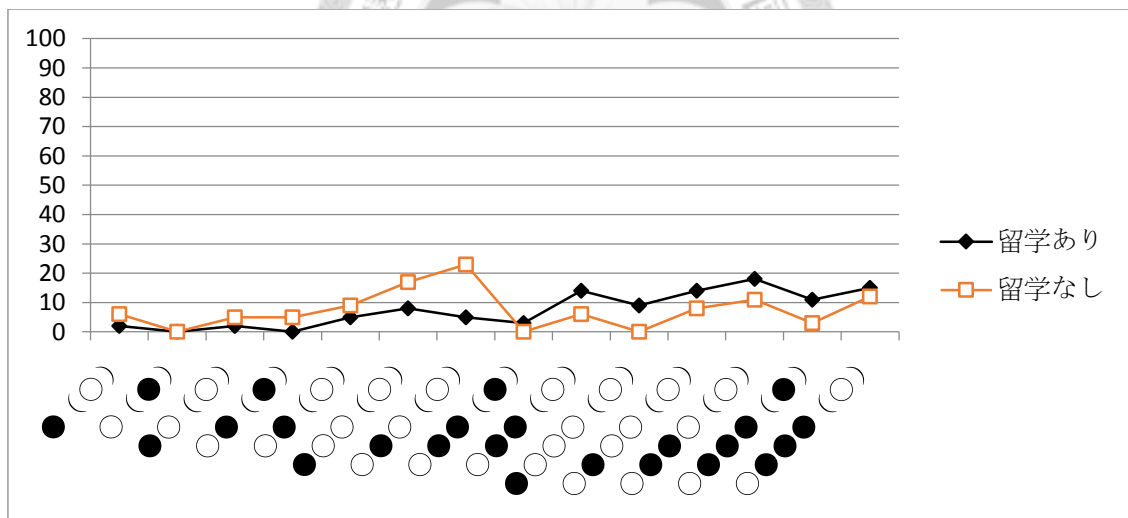
次に、留学経験のある学習者と留学経験のない学習者に分けたグラフについて見てみる。図 5-13 と図 5-14 は、付録の資料 14、15 をもとに、X 軸を各アクセント式の音声刺激（実験語）、Y 軸を不一致率（%）とし、留学経験の有無別に分けたグラフである。なお、二年生と四年生の留学経験のある学習者の人数が不足なため、ここでは院生のみを対象として分析を行う。

図 5-13：留学経験の有無別に見た聞き取りの不一致率（単語のみの場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

図 5-14：留学経験の有無別に見た聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

図 5-13 は単語のみの聞き取りで、図 5-14 は短文の聞き取りのグラフである。まず、単語のみの場合では、両者のグラフからは顕著な差は見られない。唯一差が見られるのは、三拍語の中高型である。三拍語の中高型について、留学経験のある院生の不一致率は約 1 割、留学経験のない院生の不一致率は約 2 割と差が見られる。図 5-14 の短文に入れた場合も同じく、三拍語の中高型に差異が見られる。留学経験のある院生と留学経験のない院生の不一致率はともに約 2 割で

ある。三拍語の中高型以外のアクセント式では、両者の不一致率に違いは見られない。また、留学経験のある院生の方が上回るところも見られる。これは、言うなれば、他の学年にとって習得が難しい三拍語の中高型について、留学経験のある院生は不一致率を抑えることができるが、他のアクセント式については、明白な違いは見られない。次に、単語のみの場合と短文に入れた場合を比べてみると、顕著な差は見られない。つまり、院生には一定の聞き取り能力があり、アクセントの聞き取りについてはある程度把握できている。そのため、留学経験の有無に関係なく、不一致率を2割程度に抑えることができたと思われる。

以上、属性別に分けて学習者の聞き取りの傾向を見てきた。属性によって不一致率に違いはあるものの、巨視的に見て、拍数が増えるにつれて不一致率が増加しているのが分かった。これは、「読み書き」の場合とは異なり、拍数が主に台湾人日本語学習者の聞き取りに影響を及ぼしているということである。拍数が増加するにつれて聞き取りにズレが生じやすいという結果が得られた。

一方、「低高低」の形のアクセント式は台湾人日本語学習者にとって最も聞き分けにくいアクセント式であることが分かった。しかし、全体的に見ると、学習者はアクセントの聞き取りに対して把握できる方だと思われる。第四章の「読み書き」と比較すれば分かるが、「聞き取り」の場合の不一致率はそれほど高くない。いずれも3割以内に留まっていることが観察される。

5.2 聞き取りにおける傾向について

本節では、台湾人日本語学習者の聞き取りについて傾向を明らかにする。それぞれのアクセント式については拍数別に示した各項で詳しく検討していく。また、理解しやすいために、図を用いて述べることにする。

5.2.1 聞き取りにおける傾向についての整理

本調査で得たデータの中から、聞き取りの傾向を以下の表 5-1、5-2 にまとめてみた。

表 5-1：台湾人日本語学習者における聞き取りの傾向（単語のみの場合）

アクセント式	二年生	四年生	院生
一拍 頭高型	—	—	—
平板型	—	—	—
二拍 頭高型	●● (○) (11%)	—	—
平板型	—	—	—
尾高型	—	—	—
三拍 頭高型	●●○ (○) (13%)	—	—
中高型	尾高型 (11%)	尾高型 (12%)	尾高型 (16%)
平板型	●●● (●) (20%)	●●● (●) (10%)	—
尾高型	—	—	—
四拍 頭高型	●●○○ (○) (16%)	●●○○ (○) (14%)	—
中2高型	中3高型 (13%)	中3高型 (14%)	—
中3高型	●●●○ (○) (12%)	—	—
平板型	—	—	—
尾高型	●●●● (○) (10%)	—	—

注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

表 5-2：台湾人日本語学習者における聞き取りの傾向（短文に入れた場合）

アクセント式	二年生	四年生	院生
一拍 頭高型	—	—	—
平板型	—	—	—
二拍 頭高型	●● (○) (13%)	—	—
平板型	—	—	—
尾高型	—	—	—
三拍 頭高型	●●○ (○) (13%)	—	—
中高型	尾高型 (18%)	尾高型 (13%)	—
平板型	—	—	—
尾高型	—	—	平板型 (10%)
四拍 頭高型	●●○○ (○) (18%)	●●○○ (○) (12%)	—
中2高型	尾高型 (12%)	中3高型 (11%) 尾高型 (10%)	—
中3高型	尾高型 (17%)	尾高型 (13%)	—
平板型	—	—	—
尾高型	—	—	—

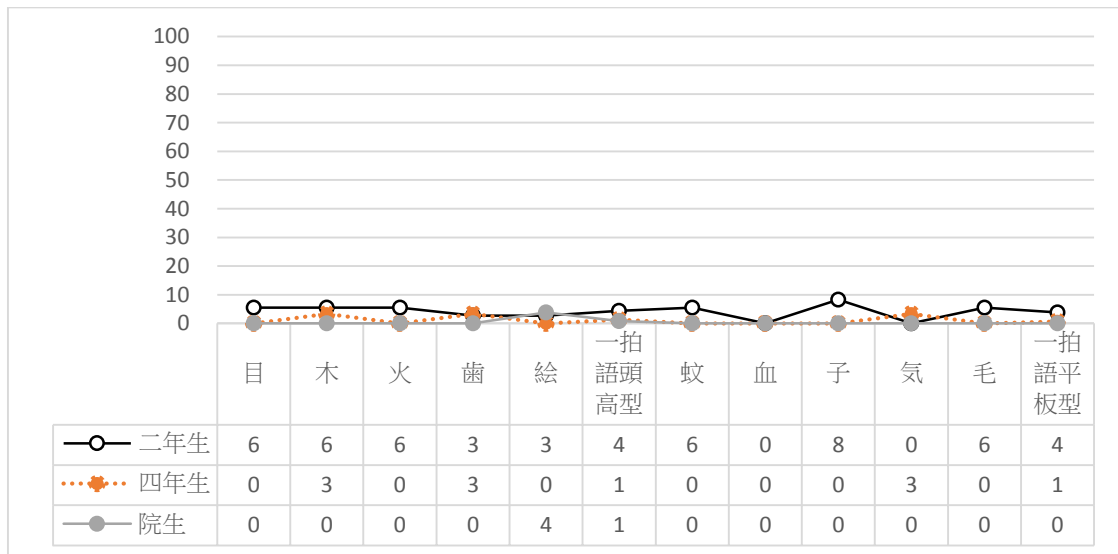
注：○は低い音節、●は高い音節を示す。(○)内は助詞を示す。

以上の表から分かるように、二年生の場合ピッチアクセントの上昇部分に問題があり、第一音節と第二音節のピッチの違いを聞き分けるのが難しいのが観察される。四年生になるとこの現象は緩和し、院生になるとピッチの上昇を聞き分けることができると見受けられる。また、全体的に見てみると、学習歴が長くなるにつれて、聞き取りに対して把握できていることも改めて検証できた。更に加えて、ピッチの下降を正確に捉えられないことが観察される。そのため、中2高型、中3高型と尾高型は学習者にとって紛らわしく常に混同が起こると考えられる。しかし、全体的に見ると、台湾人日本語学習者はアクセントの聞き取りについて不一致率を2割以下に抑えているのが観察される。

次に、拍数別に見ていくとし、表 5-1 と 5-2 を用いながら詳しく検討していくことにする

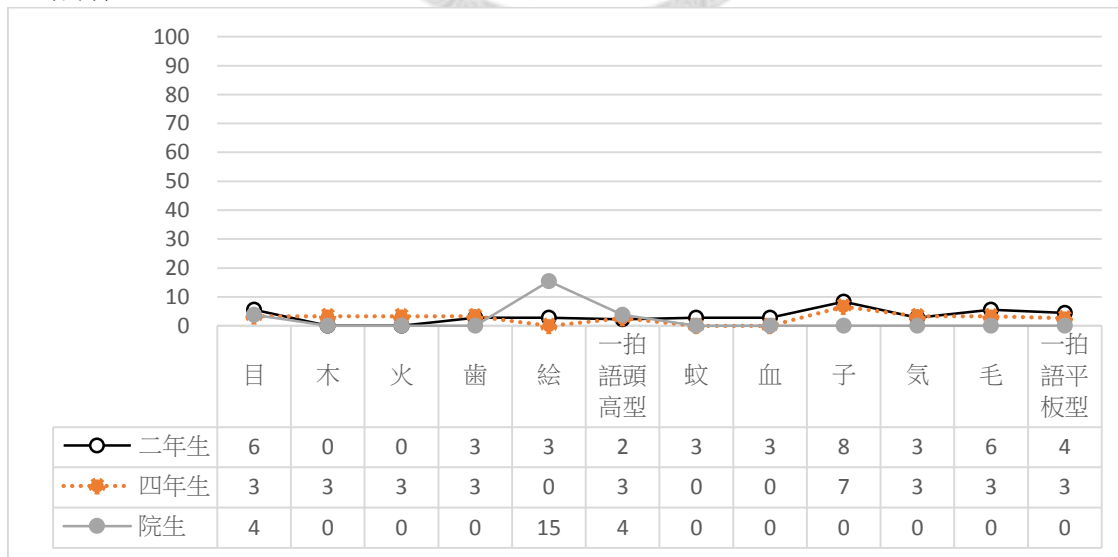
5.2.2 一拍語の傾向について

図 5-15：一拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（単語のみの場合）



注：数字は%を示す。

図 5-16：一拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）

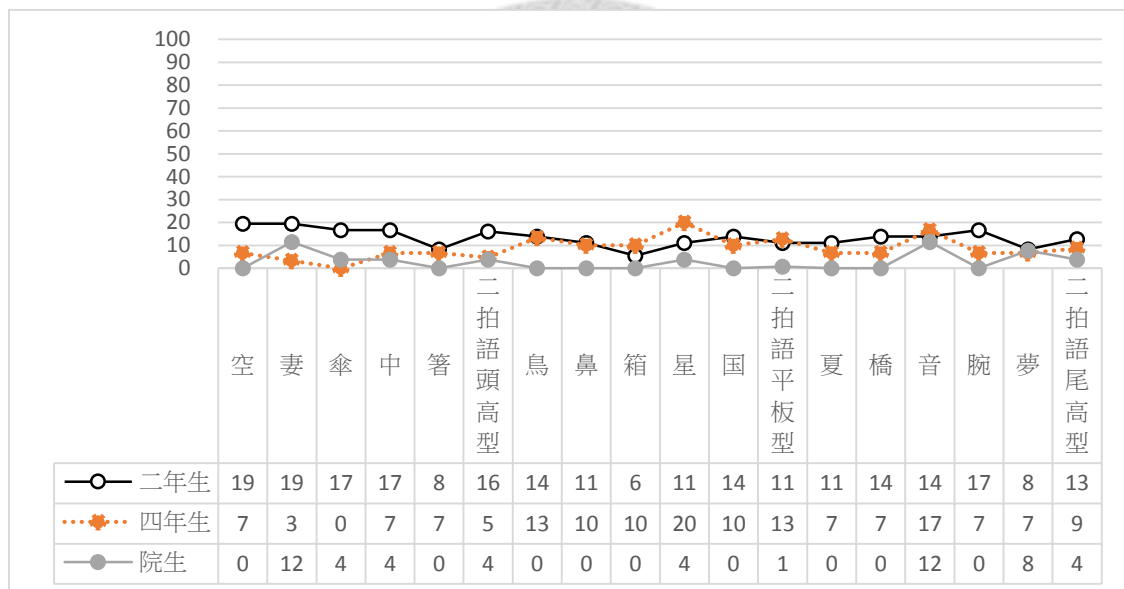


注：数字は%を示す。

一拍語について、図 5-15 の単語のみの場合と、図 5-16 の短文に入れた場合は同じような傾向を示している。一拍語の頭高型と平板型については、二年生、四年生、そして院生とも不一致率が1割未満である。これは、一拍語の聞き取りの場合、学年に関係なく、台湾人日本語学習者は単語のアクセントを正確に聞き分けることができることを意味している。また、実験語を見てみると、顕著な違いは見られない。

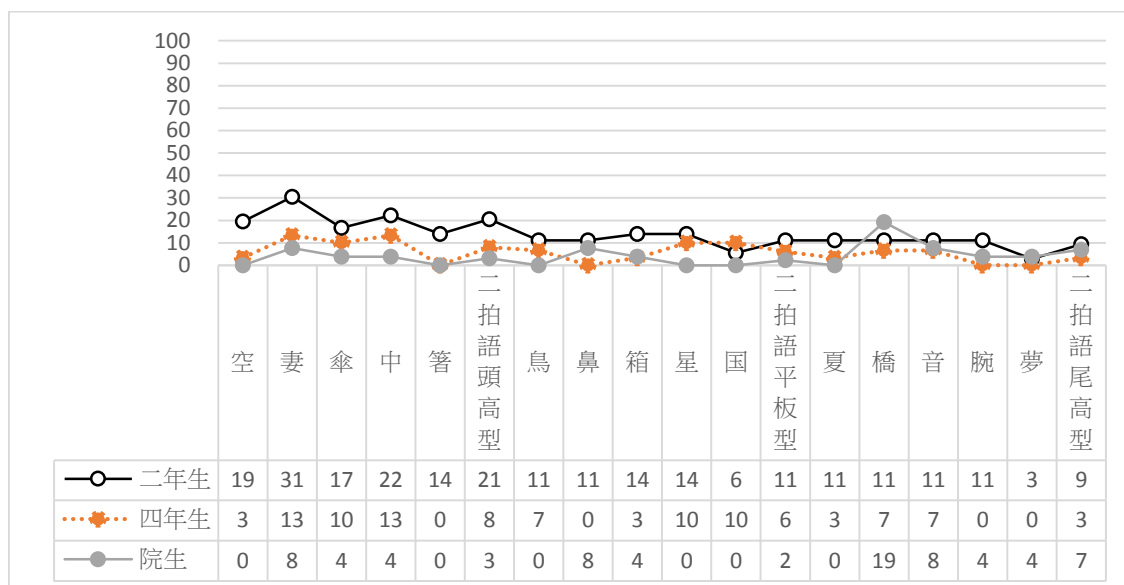
5.2.3 二拍語の傾向について

図 5-17：二拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（単語のみの場合）



注：数字は%を示す。

図 5-18：二拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）



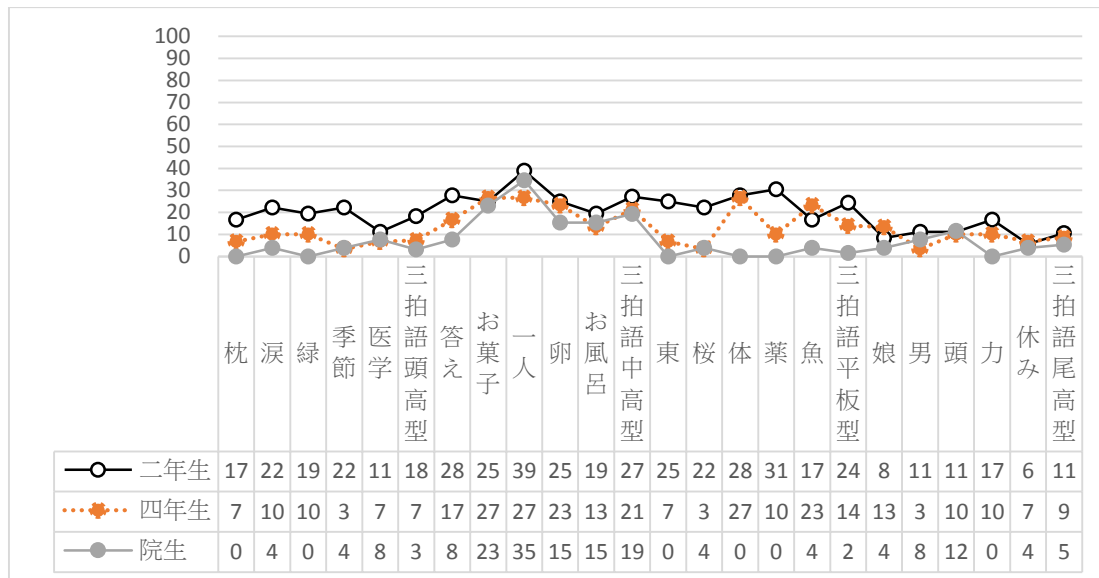
注：数字は%を示す。

二拍語の場合については、不一致率は一拍語より少々上昇しているのが分かる。また、各アクセント式の不一致率はほぼ同じであり、それといった違いは見られない。実験語についても、顕著な違いは見られない。

次に、表 5-1 と 5-2 より、聞き取りの傾向について述べていきたい。二拍語の頭高型について、二年生は第一音節と第二音節のピッチを聞き分けることができない傾向が見られる。つまり、頭高型を●●（○）と聞く傾向がある。この傾向は単語のみの場合と短文に入れた場合とともに不一致率の全体の 1 割を占めている。学習歴が比較的長い四年生と院生になると、上記の現象は見られない。

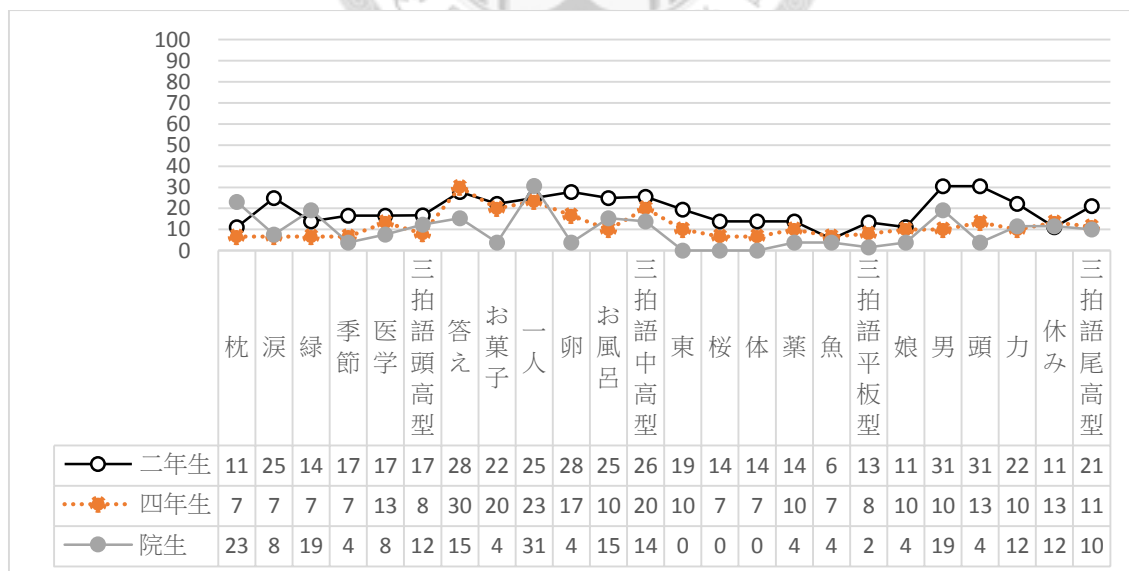
5.2.4 三拍語の傾向について

図 5-19：三拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（単語のみの場合）



注：数字は%を示す。

図 5-20：三拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）



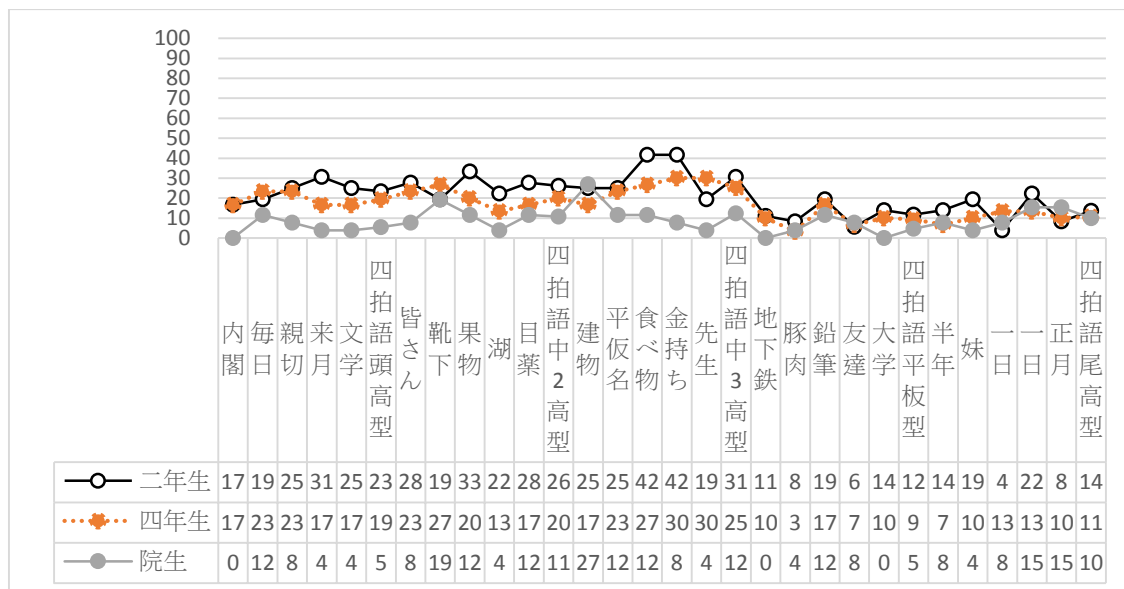
注：数字は%を示す。

全体的に見てみると、三拍語の不一致率は一、二拍語より高いのが観察される。つまり、拍数が増加するにつれて、台湾人日本語学習者はアクセントの聞き取りにズレが生じやすいことが分かった。各アクセント式の不一致率を見てみると、中高型が一番高いことが見受けられる。中高型の不一致率は他のアクセント式より1割程度高くなっているのが観察される。

次に、表5-1と5-2より、聞き取りの傾向を見てみると、中高型を尾高型と聞く傾向が約1割～2割であることがしばしば見られる。第二章第二節の「先行研究」で述べた潘（2003：5）を顧みると、三拍語の聞き取りに関しては、中高型を尾高型と聞く傾向があると指摘している。これは本研究と同じ結果である。他のアクセント式の傾向を見てみると、二年生と四年生は単語の第一音節と第二音節のピッチを聞き分けることができないことが分かった。単語のみの場合、平板型を●●●（●）という形に聞く傾向は、二年生が約2割、四年生が約1割ある。この傾向については、学習歴が最も長い院生には現れていない。つまり、学習歴が長くなると、ピッチの上昇部分である、第一音節と第二音節のピッチを聞き分けることができるようになる。

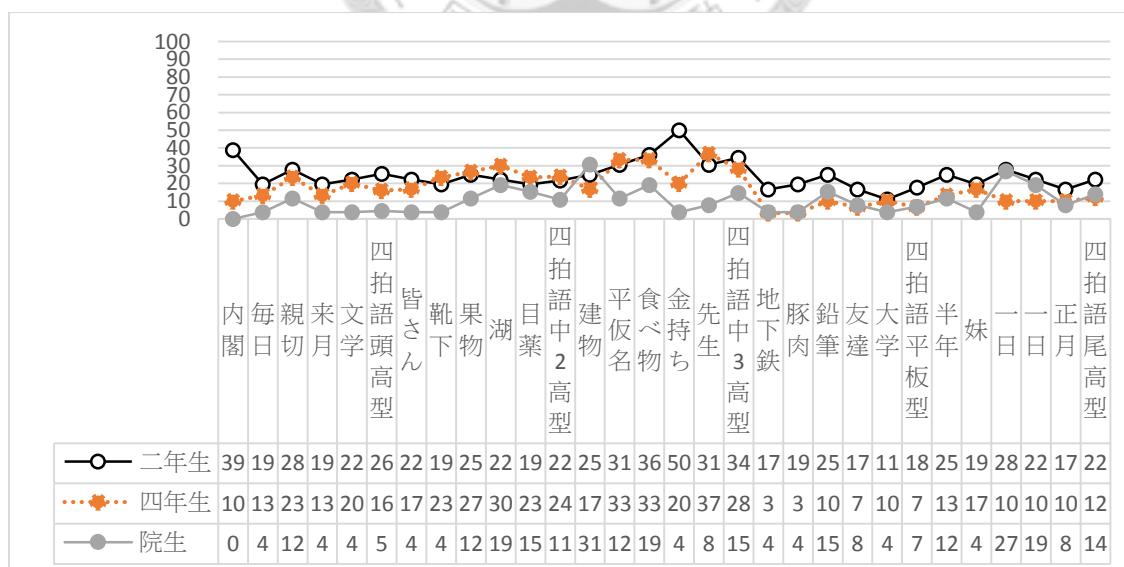
5.2.5 四拍語の傾向について

図 5-21：四拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（単語のみの場合）



注：数字は%を示す。

図 5-22：四拍語のそれぞれの実験語における聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）



注：数字は%を示す。

まず、四拍語の不一致率は一拍語～四拍語の中で最も高いことが観察される。

これは、拍数が増加するにつれてズレが生じやすいことを物語っている。そして、四拍語の各アクセント式を見てみると、中 2 高型と中 3 高型の不一致率が他のアクセント式に比べて 1 割ほど高いことが分かった。以上により、台湾人日本語学習者の聞き取りに影響する要素は、第一に拍数、第二にアクセント式であることが改めて検証できた。そして、アクセント式については、「読み書き」の場合と同じく、「低高低」の形のアクセント式はピッチの上昇と下降を正確に捉えなければならないため、学習者にとって紛らわしく常に混同が起こると考えられる。

表 5-1 と 5-2 より、頭高型について、二年生と四年生にとって第一音節と第二音節のピッチを聞き分けることができないことが観察される。それほど多くはないが、頭高型を●●○○ (○) と聞く不一致率は、二年生と四年生が約 1 割である。一方、院生は四拍語の頭高型については満点に近い結果を残している。これは、院生になるとピッチの上昇を聞き分けられることを物語っている。また、実験語に関しては、顕著な違いは見られない。

中 2 高型は四拍語の中で、不一致率が高いアクセント式の一つである。それぞれ、二年生と四年生は 2 割、院生は 1 割ほどズレが生じているのが観察される。これは、前述したように、「低高低」の形のアクセント式は学習者にとってズレが生じやすいアクセント式の一つであるということである。また、表 5-1 と 5-2 を見てみると、中 2 高型を尾高型と中 3 高型に聞く傾向が見られる。なお、実験語については、顕著な違いは見られない。

中 3 高型は四拍語の中で、不一致率が最も高いアクセント式である。それぞれ、二年生と四年生が約 3 割、院生が約 2 割であるのが観察される。そして、表 5-1 と 5-2 を顧みると、学習者は中 3 高型を尾高型と●●○○ (○) に聞く傾向が見られる。これについては、ピッチの上昇と下降を聞き分けるのに問題があると思われる。理由としては、拍数が増加するにつれて、ピッチの上昇と下降を聞き分けるのに困難が生じ、アクセント核にズレが起きてしまうのではないかと

思われる。

次に、平板型と尾高型について述べる。この二つのアクセント式の聞き取りについては、学習者は聞き取れている方だと思われる。不一致率も低く抑えており、実験語も顕著な相違は見られない。

5.3 まとめ

本章は、台湾人日本語学習者の聞き取りについて、学年別、性差、留学経験の有無の順に考察を行ってきた。また、聞き取りの傾向についても検証した。本章の研究結果をまとめると、以下のようになる。

まず、学習歴が長くなるにつれて、聞き取りの不一致率が低くなることが分かった。不一致率はそれぞれ二年生が約3割以下、四年生は約2割以下、院生は約1割以下であることが観察される。これは、アクセントの聞き取りの場合、台湾人日本語学習者は第四章の「読み書き」より把握できると見受けられる。

更に、台湾人日本語学習者は、拍数が増加するにつれてズレが生じやすいことが検証できた。言い換えれば、拍数が増えるにつれて台湾人日本語学習者は聞き取りにズレが生じやすいという結果となった。図で示すと以下のようになる。

図 5-23：拍数別に見た聞き取りの不一致率（単語のみの場合）

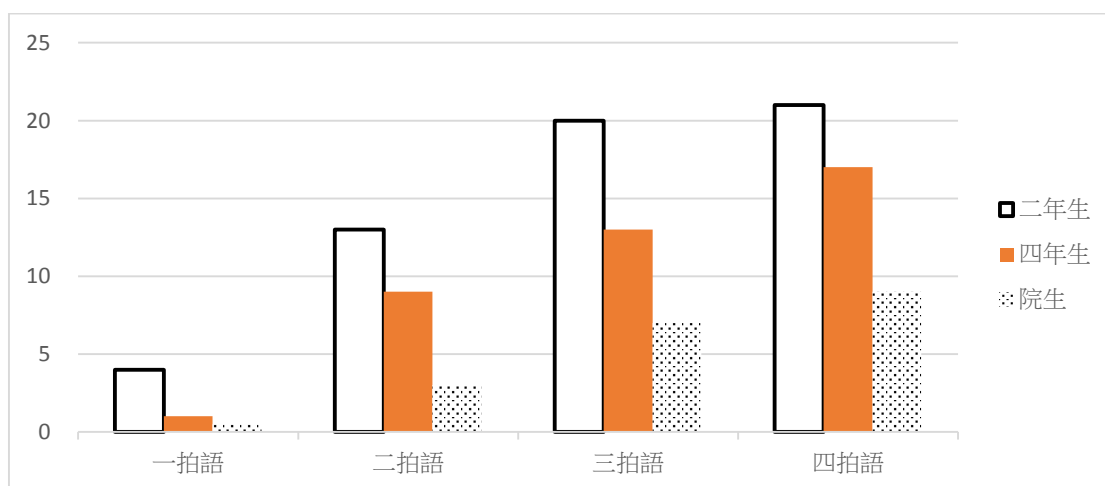
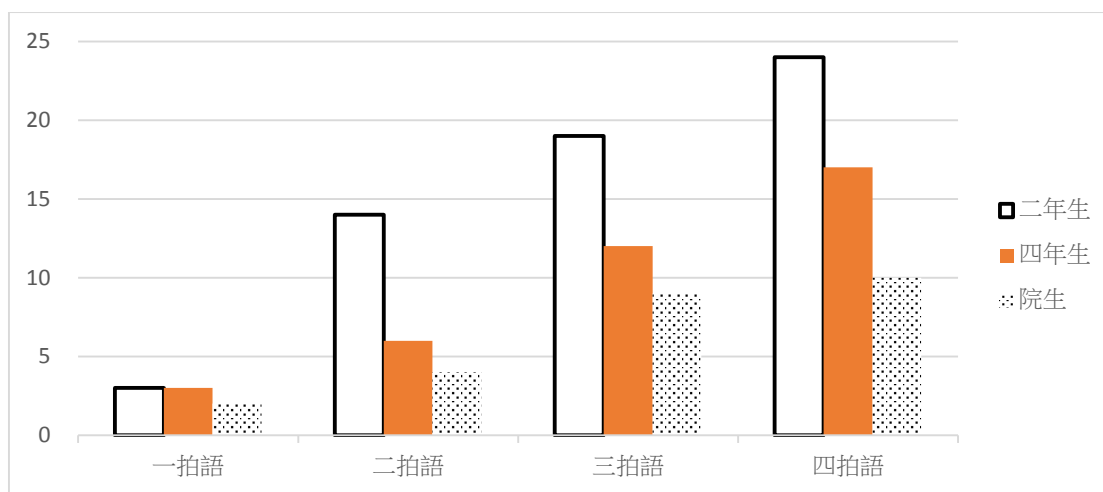


図 5-24：拍数別に見た聞き取りの不一致率（短文に入れた場合）



そして、拍数の他に、アクセント式の違いも聞き取りに影響するのが明らかになった。同じ拍数の中で、「低高低」のアクセント式は他のアクセント式と比べ、不一致率が5%~20%ほど高いことが見受けられる。これは、第四章の「読み書き」と同じく、「低高低」の形のアクセント式は台湾人日本語学習者にとって聞き分けが難しいという結論が得られた。つまり、聞き取りについて、台湾人日本語学習者に最も影響を与えるのは、第一に拍数で、第二にアクセント式であることが分かった。

そして、性差から見た研究結果について、若干男子学生の方が女子学生より不一致率が低いことが分かった。それほど顕著ではないが、全体的に1割ほど男子学生の方が女子学生より不一致率が低いのが観察される。

次に、留学経験の有無別から見た結果について述べたい。院生には一定の聞き取り能力があり、アクセントの聞き取りについてはある程度把握できている。そのため、留学経験の有無に関係なく、不一致率を1割程度に抑えているのが観察される。

最後に、聞き取りの傾向について述べたい。本調査で得た結果を表で示すと次のようになる。

表 5-3：台湾人日本語学習者における聞き取りの傾向（単語のみの場合）

アクセント式	二年生	四年生	院生
一拍 頭高型	—	—	—
平板型	—	—	—
二拍 頭高型	●● (○) (11%)	—	—
平板型	—	—	—
尾高型	—	—	—
三拍 頭高型	●●○ (○) (13%)	—	—
中高型	尾高型 (11%)	尾高型 (12%)	尾高型 (16%)
平板型	●●● (●) (20%)	●●● (●) (10%)	—
尾高型	—	—	—
四拍 頭高型	●●○○ (○) (16%)	●●○○ (○) (14%)	—
中2高型	中3高型 (13%)	中3高型 (14%)	—
中3高型	●●●○ (○) (12%)	—	—
平板型	—	—	—
尾高型	●●●● (○) (10%)	—	—

注：○は低い音節、●は高い音節を示す。() 内は助詞を示す。

表 5-4：台湾人日本語学習者における聞き取りの傾向（短文に入れた場合）

アクセント式	二年生	四年生	院生
一拍 頭高型	—	—	—
平板型	—	—	—
二拍 頭高型	●● (○) (13%)	—	—
平板型	—	—	—
尾高型	—	—	—
三拍 頭高型	●●○ (○) (13%)	—	—
中高型	尾高型 (18%)	尾高型 (13%)	—
平板型	—	—	—
尾高型	—	—	平板型 (10%)
四拍 頭高型	●●○○ (○) (18%)	●●○○ (○) (12%)	—
中2高型	尾高型 (12%)	中3高型 (11%) 尾高型 (10%)	—
中3高型	尾高型 (17%)	尾高型 (13%)	—
平板型	—	—	—
尾高型	—	—	—

注：○は低い音節、●は高い音節を示す。(○)内は助詞を示す。

前にも述べたが、台湾人日本語学習者の聞き取りは把握できていることが分かった。不一致率は低く、1割～3割程度であることが観察される。そのため、聞き取りの傾向は見出せたが、いずれも1割～2割程度で、ズレの傾向はそれほど強くはない。強いて言えば、二年生の場合、ピッチアクセントの上昇部分を聞き分けることができない場合が多い。つまり、第一音節と第二音節のピッチの違いを聞き分けるのが難しいのが観察される。四年生になるとこの現象は緩和し、院生になるとピッチの上昇部分を聞き分けることができると見受けられる。また、四拍語の中2高型、中3高型と尾高型に1割～2割程度の混同が起こるのが観察される。

第二章第二節の「先行研究」で述べた潘（2003：15）を顧みると、「台湾人日本語学習者における日本語アクセントの知覚上の特徴はピッチ曲線によって示される音響的最高点及びその最高点を含む近隣にある。そして、ピッチの下降のタイミングを正確に把握しきれないため、最高点の近隣に下降もマークをつける」というように指摘している。この点に関しては、上記の表 5-3 と 5-4 から読み取れるように、中高型を尾高型と聞く傾向があるのが見受けられる。つまり、これは潘（2003）が指摘したのと同じ結論を表しているのが分かる。

以上、本章では台湾人日本語学習者の聞き取りについて検証してきた。それぞれ学年別、性差、留学経験の有無の三つの属性に分けて見てきた。さらに、学習者の聞き取りの傾向を明らかにした。次章は、台湾人日本語学習者における発音について考察する。



第六章 アクセントの発音についての結果

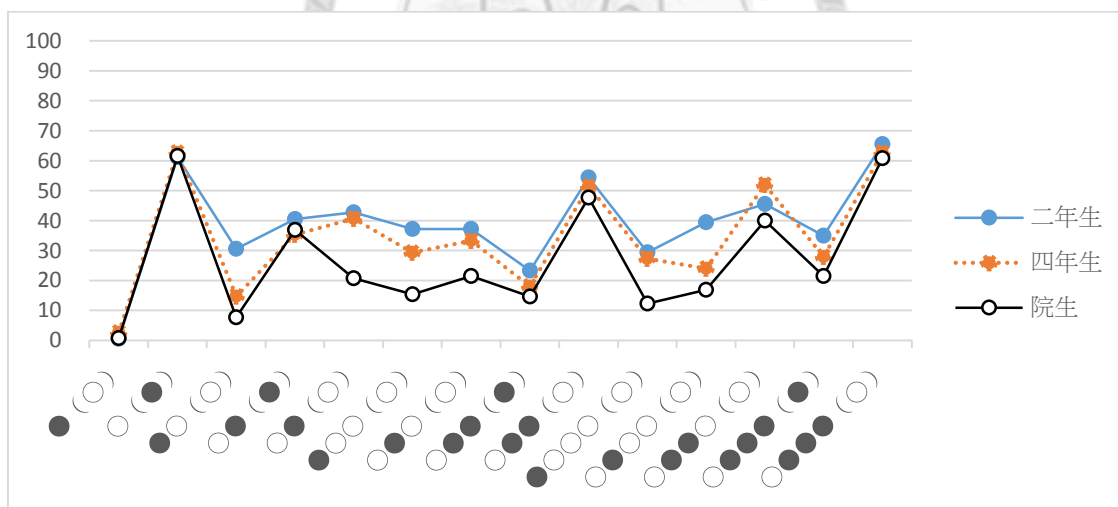
ここでは各学習者から得たアクセントの発音についての調査結果について論じたい。属性については、学年別、性差、留学経験の有無という順に述べることにする。また、学習者に単語のみの場合と短文に入れた場合の二種類を読ませて得た結果を見比べる。

6.1 各属性の結果

6.1.1 学年別から見た調査結果

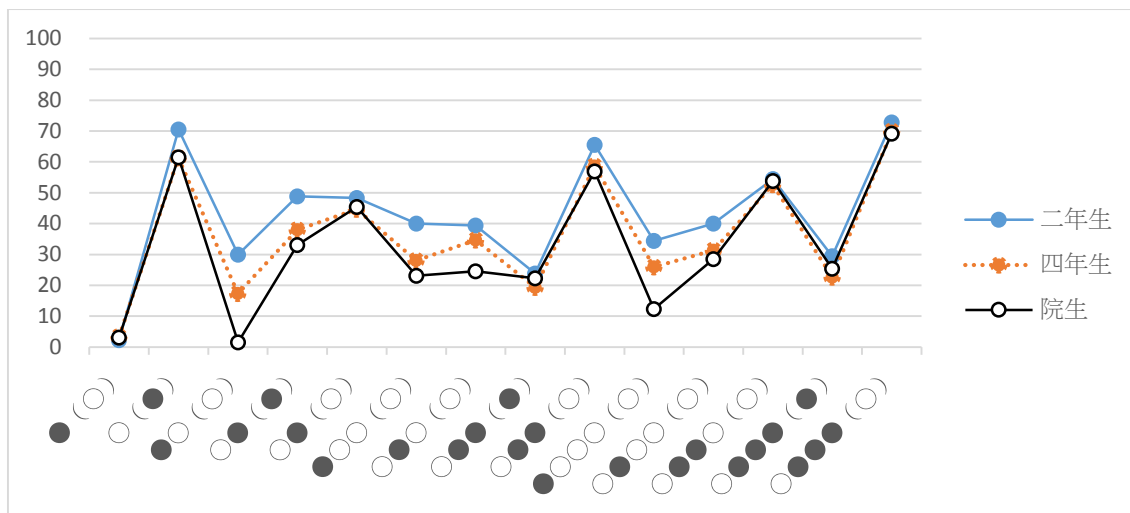
付録の資料 16、17 より、X 軸を各アクセント式の音声刺激（実験語）、Y 軸を不一致率（%）とし、学年別に分けたグラフを次の図 6-1 と図 6-2 に示す。

図 6-1：学年別の発音についての不一致率（単語のみの場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

図 6-2：学年別の発音についての不一致率（短文に入れた場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。（ ）内は助詞を示す。

まず、グラフを見てみると、学習歴が長くなるにつれて不一致率が低くなっていくことが分かる。これは、第四、五章にそれぞれ述べた「読み書き」と「聞き取り」と同じ傾向と見受けられる。多少不一致率は違うものの、三つの学年のグラフの形は類似しているのが観察される。図 6-1 の単語のみの場合では、二年生と四年生の不一致率の差は顕著ではないのに対し、院生の不一致率は明らかに低くなっているのが見受けられる。図 6-2 の短文に入れた場合では、全体的に不一致率の差が縮んでいるように見える。例えば、一拍語の頭高型、二拍語の中高型、三拍語の平板型、四拍語の中 3 高型と平板型については、三つの学年の不一致率が非常に近いことが分かる。

また、図 6-1 と図 6-2 を読み合わせると、一拍語の平板型、三拍語の尾高型と四拍語の尾高型の不一致率が突如高くなっているのが見受けられる。この三つのアクセント式は学習者にとってズレが生じやすいアクセント式ということになる。以上述べたアクセント式は「低高低」の形のアクセント式が多く、発音の場合について、「低高低」の形のアクセント式に対して習得が弱いことが検証できた。一方、「低高低」の形のアクセント式でない一拍語の頭高型、二拍語の頭

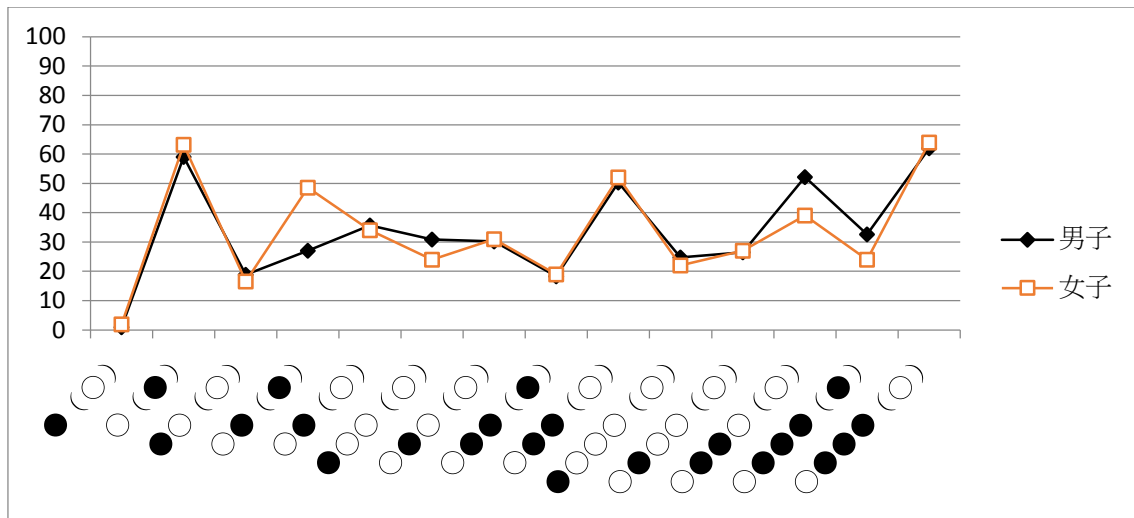
高型と三拍語の平板型の不一致率は、不一致率が低くなっているのが見受けられる。

この結果を、第二章第二節の「先行研究」で見た潘 (2010) と検証してみたい。潘 (2010 : 30) では「二拍語の頭高型に対する習得はあまり問題ない。三拍語と四拍語については、平板型と中高型に対する習得はあまり問題ない。」と指摘しているが、これをそれぞれ図 6-1 と図 6-2 と照らし合わせてみると、頭高型と平板型の不一致率は低くなっているが、中高型の不一致率は低いとは言い難い。理由としては、前述した通り、中高型は「低高低」の形のアクセント式であり、他のアクセント式より発音しにくいと見受けられるからである。グラフからも分かるように、図 6-1 の単語のみの場合では、三拍語の中高型の不一致率は 2 割～3 割で、四拍語彙の中 2 高型と中 3 高型の不一致率は約 2 割～5 割である。このように、台湾人日本語学習者にとって中高型は他のアクセント式よりも不一致率が高いということが観察される。以上のように、本研究は潘 (2010) と少し違う結果となった。

6.1.2 性差から見た調査結果

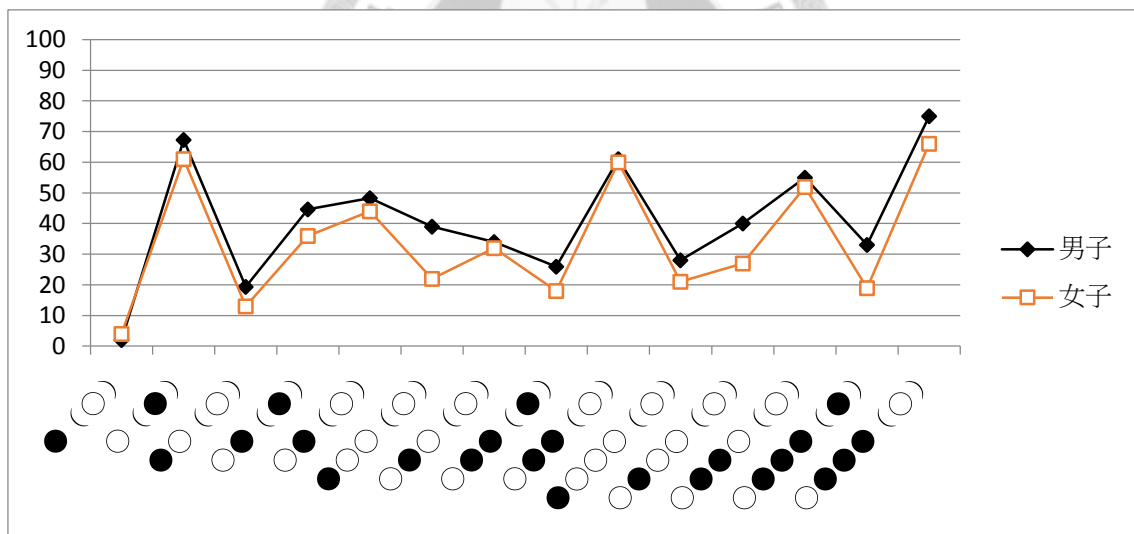
図 6-3 と図 6-4 は、付録の資料 18、19 をもとに、X 軸を各アクセント式の音声刺激 (実験語)、Y 軸を不一致率 (%) とし、被験者を男女別に分けたグラフである。

図 6-3：男女別の発音についての不一致率（単語のみの場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

図 6-4：男女別の発音についての不一致率（短文に入れた場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

まず、図 6-3 と図 6-4 を見てみると、男子学生と女子学生のグラフの形は類似しているのが分かる。図 6-3 の単語のみの場合では、二拍語の平板型と四拍語の中 3 高型に差が見られるが、他のアクセント式では不一致率は非常に近いことが観察される。一方、図 6-4 の短文に入れた場合を見てみると、若干男子学生の不一致率の方が高いことが見受けられる。しかし、その差は大きくても 1 割以内で、それほど顕著ではない。これは、発音の場合、男子学生と女子学生に明

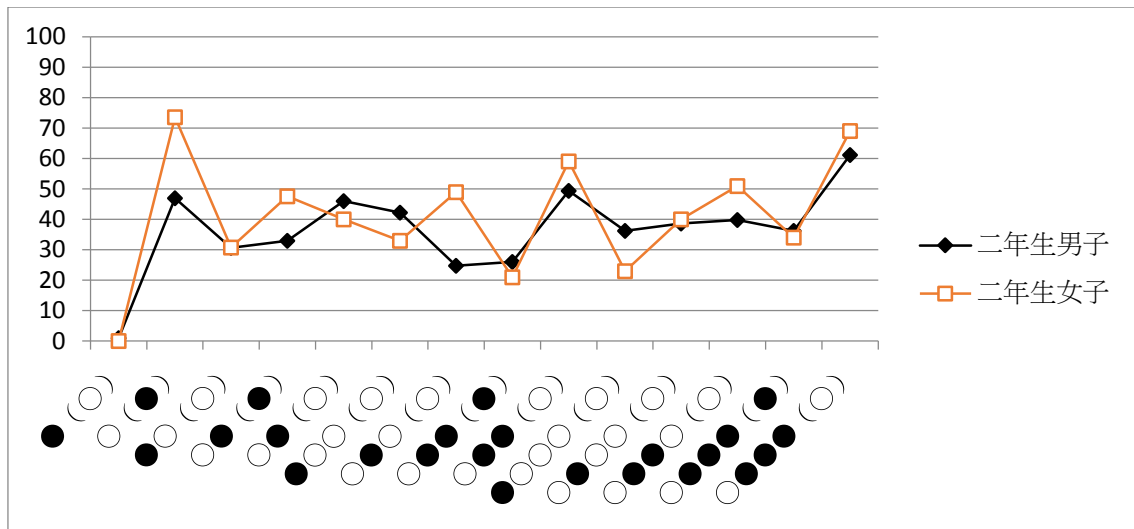
白な相違は見られないことを物語っている。

次に、注意されたいのは、一拍語の平板型、三拍語の尾高型、四拍語の中3高型と尾高型である。グラフからも分かるように、これらのアクセント式の不一致率は他のアクセント式より高いことが観察される。また、詳しく見てみると、そのほとんどが「低高低」の形のアクセント式であることが分かる。つまり、発音の場合、学習者は「低高低」のアクセント式についてズレが生じやすいということが裏付けられている。以上のように、第四章の「読み書き」の結果と一致していることが分かった。

それに対して、不一致率が低いアクセント式を見てみると、それぞれ、一拍語の頭高型、二拍語の頭高型、三拍語の平板型と四拍語の頭高型である。つまり、頭高型と平板型の形のアクセント式は、台湾人日本語学習者にとって発音しやすい形であると言える。これは、ピッチの上昇と下降が「低高低」の形のアクセント式よりも簡単で、発音しやすく、覚えやすいのが理由だと考えられる。

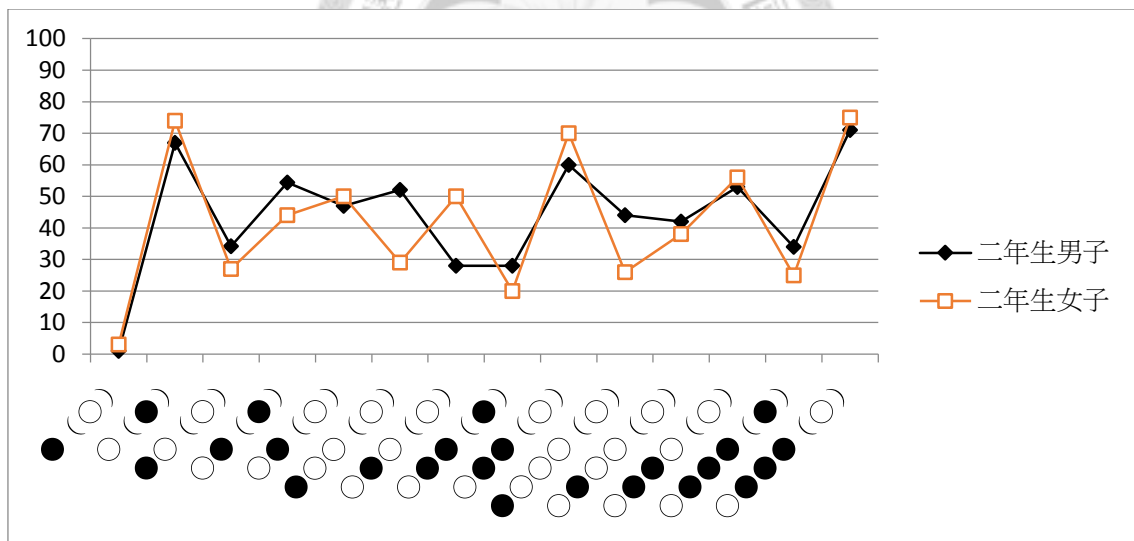
さて、詳細な分析を試みるとして、付録の資料 18、19 にもとづき、二年生、四年生と院生を男女別に分けてアクセントの発音に相違はないかについて、グラフを用いて見てみる。

図 6-5：二年生の男女別による発音の不一致率（単語のみの場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

図 6-6：二年生の男女別による発音の不一致率（短文に入れた場合）

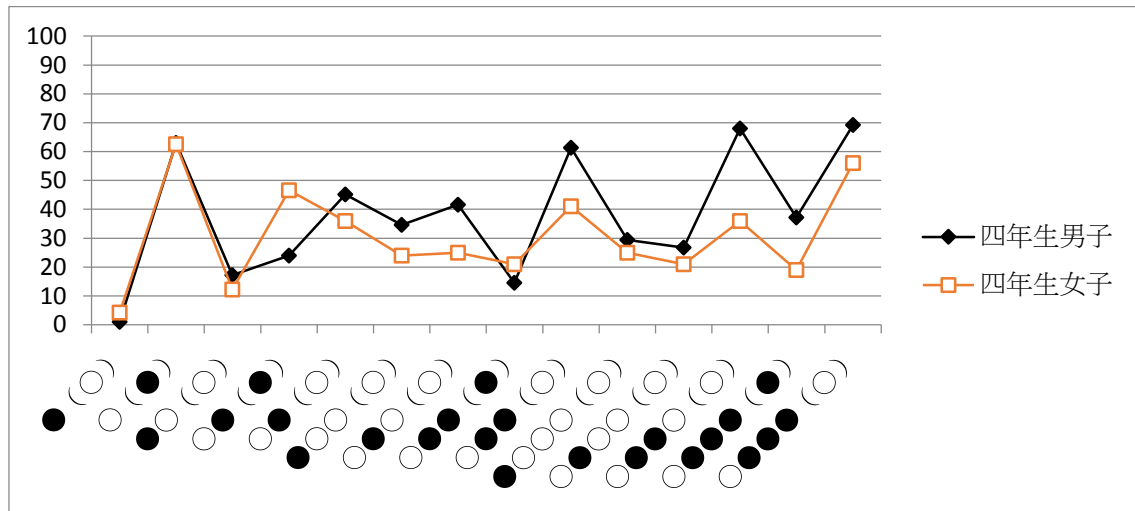


注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

まず、二年生の男女別による発音の傾向を見ていく。グラフから分かるように、男子学生と女子学生のグラフからは一定の傾向は見られない。つまり、学習歴が短い学習者は、アクセントの発音は安定しているとは言えないことである。これは、日本語を習い始めたばかりで、学習者個人の経験などの違いに関わりがあるのではないかと考えられるが、今後の検討が必要と思われる。

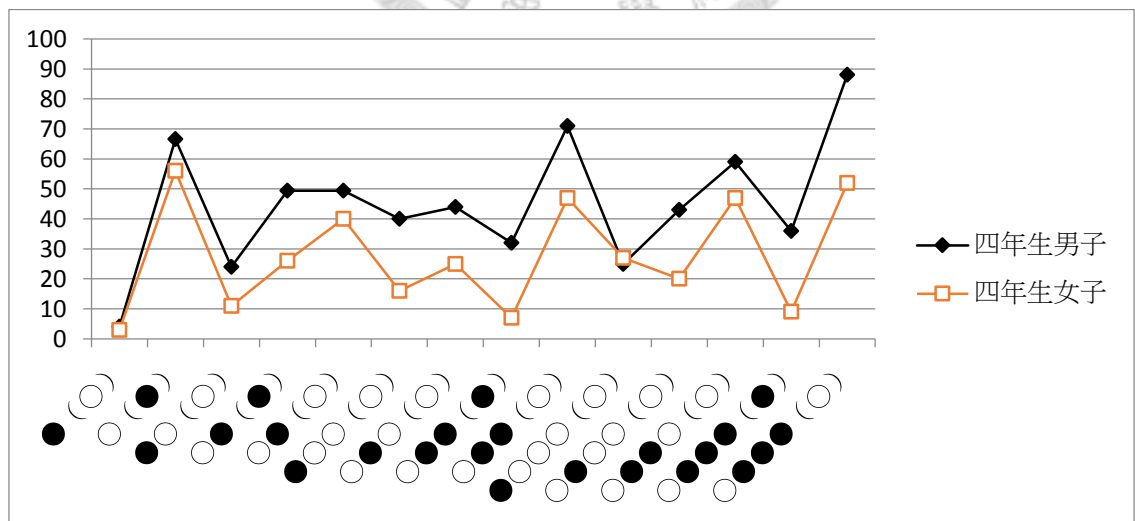
しかし、前述したように、学習者に個人差はあっても、やはりズレが生じやすいアクセント式と発音しやすいアクセント式があることは言うまでもない。特に、前述した「低高低」の形のアクセント式については、男子学生と女子学生の不一致率が高くなっている傾向が見られる。

図 6-7：四年生の男女別による発音の不一致率（単語のみの場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

図 6-8：四年生の男女別による発音の不一致率（短文に入れた場合）



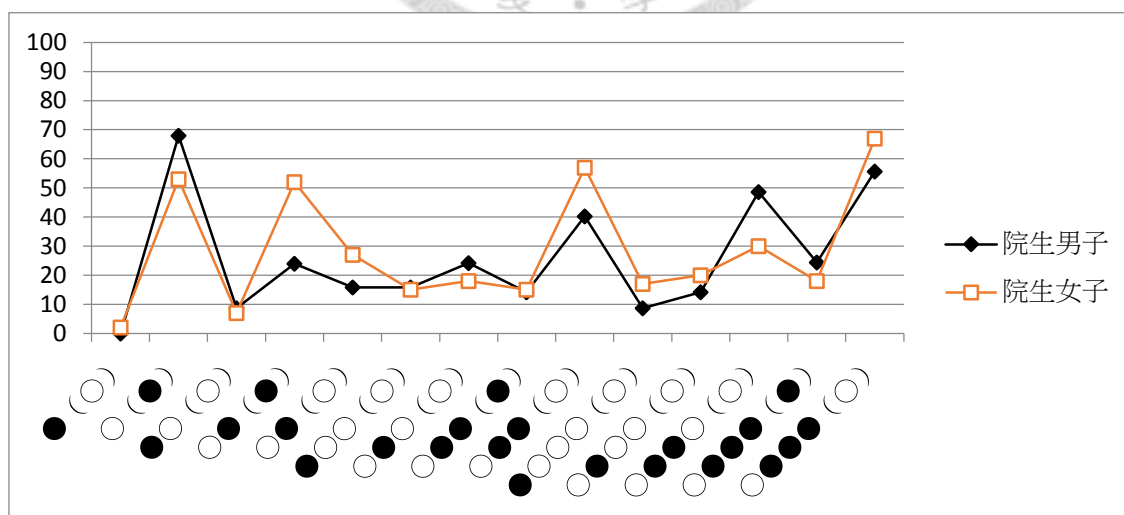
注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

まず、図 6-7 の単語のみの場合について、一拍語～二拍語においては顕著な差は見られないが、三拍語～四拍語では、女子学生の方が不一致率が低いのが観察される。

図 6-8 の短文に入れた場合を見てみると、男子学生の方が女子学生よりも全体的に不一致率が高いことが観察される。特に二拍語～四拍語では、男子学生は女子学生を1割～3割ほど上回っているのが見受けられる。以上をまとめると、四年生の場合、女子学生の方が男子学生よりも不一致率が低くなっていることが分かった。

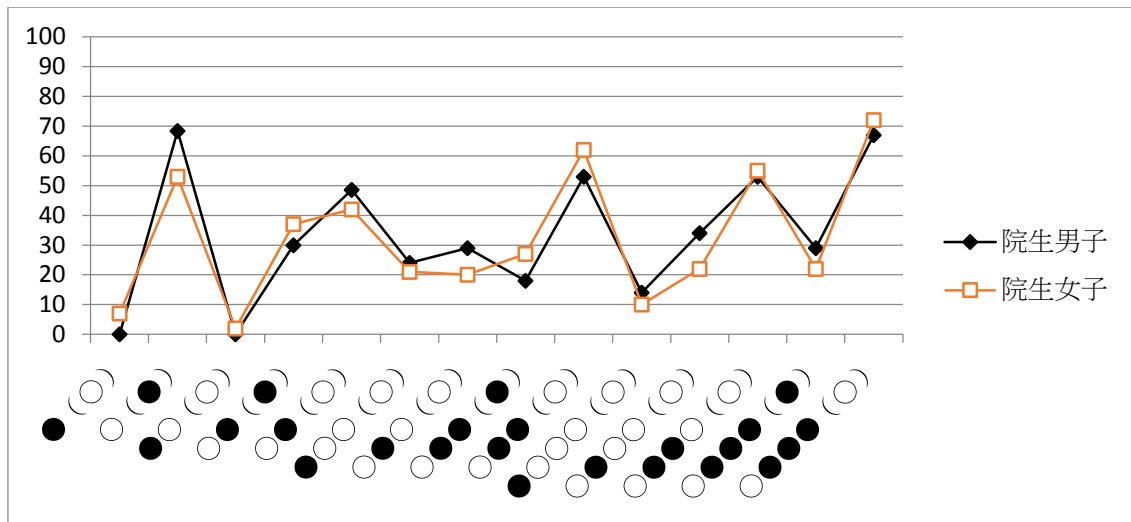
更に、不一致率が比較的高いアクセント式を見てみると、男子学生と女子学生はともに、一拍語の平板型、三拍語の尾高型、四拍語の中3高型と尾高型であることが分かった。以上述べたアクセント式について、男子学生の不一致率は5～8割で、女子学生の不一致率は4～6割である。また、これらのアクセント式はいずれも「低高低」のアクセント式であり、四年生の男女ともに「低高低」のアクセント式を苦手としていることを改めて検証できた。

図 6-9：院生の男女別による発音の不一致率（単語のみの場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

図 6-10：院生の男女別による発音の不一致率（短文に入れた場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

最後に、院生の発音の傾向について見てみる。まず、図 6-9 の単語のみの場合を見てみると、「低高低」のアクセント式以外は、男女とも不一致率を 3 割以内に抑えているのが観察される。学習歴が長い院生は、「低高低」のアクセント式以外の発音を把握できていると見られる。図 6-10 の短文に入れた場合では、少々不一致率は上がるが、やはり同じ傾向が見受けられる。詳しく検討してみると、一拍語の平板型、三拍語の尾高型、四拍語の中 3 高型と尾高型は不一致率が高いのが観察される。これは、学部の男子学生と女子学生にも見られるが、学習歴が長い院生においても、「低高低」のアクセント式の発音を把握できていないと見受けられる。

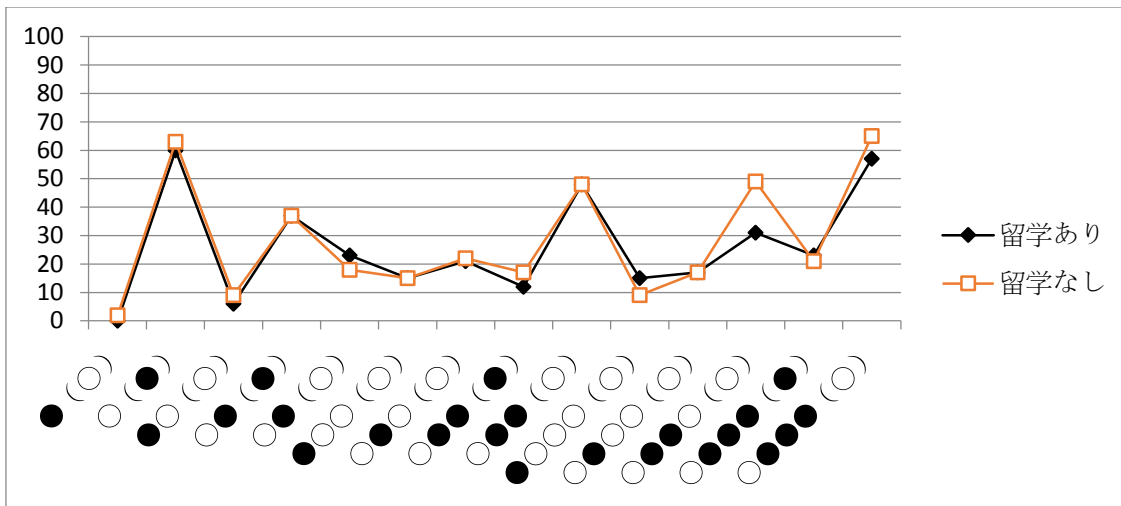
また、院生のグラフを見てみると、男子学生と女子学生のグラフの形は類似しているのが分かる。他の学年では男女に差はあるが、院生になると差は縮まっているのが観察される。

6.1.3 留学経験から見た調査結果

図 6-11 と図 6-12 は、付録の資料 20、21 をもとに、X 軸を各アクセント式の音声刺激（実験語）、Y 軸を不一致率（%）とし、留学経験の有無別に分けたグ

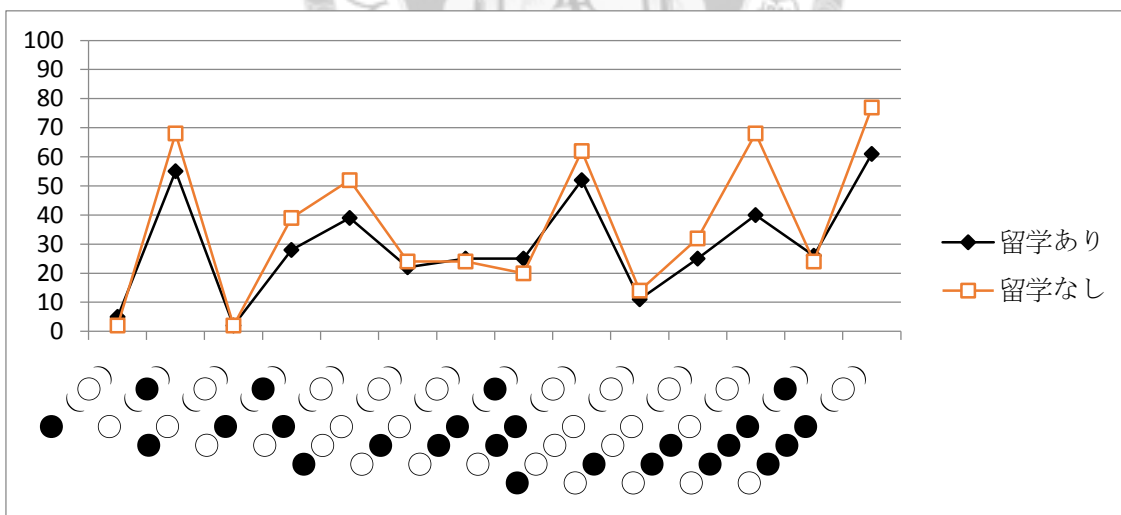
ラフである。なお、二年生と四年生の留学経験のある学習者の人数が不足なため、ここでは大学院生のみを対象とした分析を行う。

図 6-11：留学経験の有無別に見た発音の不一致率（単語のみの場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。（ ）内は助詞を示す。

図 6-12：留学経験の有無別に見た発音の不一致率（短文に入れた場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。（ ）内は助詞を示す。

まず、図 6-11 の単語のみの場合について検討してみる。グラフを見て分かるように、四拍語の中 3 高型は、留学経験のない院生の方が留学経験のある院生よりも不一致率が高いことが観察される。それ以外のアクセント式では、留学経

験のある院生と留学経験のない院生のアクセントはほぼ同じ傾向と言える。つまり、留学の経験は単語のみの発音に対して影響はそれほど大きくはないことが分かった。

次に、図 6-12 の短文に入れた場合について見てみる。短文に入れた場合では、留学経験のある院生は留学経験のない院生よりも全体的に不一致率が下回っていることが観察される。特に、前述した学習者にとって発音しにくい「低高低」のアクセント式については両者に差が見られる。以上のことから、単語のみの場合では、両者に明白な違いは見られないが、短文の発音の場合については、留学経験のある院生の方が留学経験のない院生よりも不一致率が平均的に低いことが分かった。それだけでなく、台湾人学習者にとってズレが生じやすい「低高低」のアクセント式については、1割～2割ほど不一致率が低くなっているのが観察される。

以上、見てきたように、拍数別に違いはあるものの、アクセントの種類が最も台湾人日本語学習者のアクセントの発音に影響を与えることが分かった。問題の多くはピッチの下降にあり、ピッチの下降のタイミングを把握できないため、ズレが生じるのであると思われる。そのため、「低高低」の形のアクセント式は台湾人日本語学習者にとって最も発音しにくいアクセント式の一つであると言える。

6.2 発音における傾向について

本節では、台湾人日本語学習者の発音についての傾向を考察する。それぞれのアクセント式については拍数別に示した各項で詳しく検討していく。また、理解しやすいために、図を用いて述べることにする。

6.2.1 発音における傾向についての整理

発音における傾向について、本調査の結果を次の表 6-1、6-2 にまとめてみた。表 6-1 は単語のみの場合で、表 6-2 は短文に入れた場合である。

表 6-1：台湾人日本語学習者における発音の傾向（単語のみの場合）

アクセント式	二年生	四年生	院生
一拍 頭高型	—	—	—
平板型	頭高型 (61%)	頭高型 (63%)	頭高型 (62%)
二拍 頭高型	—	—	—
平板型	尾高型 (36%)	尾高型 (35%)	尾高型 (36%)
尾高型	平板型 (39%)	平板型 (37%)	平板型 (20%)
三拍 頭高型	平板型 (29%)	平板型 (23%)	平板型 (14%)
中高型	平板型 (28%)	平板型 (25%)	平板型 (15%)
平板型	尾高型 (22%)	尾高型 (17%)	尾高型 (15%)
尾高型	平板型 (50%)	平板型 (49%)	平板型 (47%)
四拍 頭高型	平板型 (25%)	平板型 (23%)	平板型 (11%)
中2高型	平板型 (18%) 中3高型 (14%)	平板型 (13%)	—
中3高型	中2高型 (22%) 平板型 (18%)	中2高型 (37%) 平板型 (12%)	中2高型 (34%)
平板型	中2高型 (16%) 尾高型 (10%)	中2高型 (15%) 尾高型 (11%)	尾高型 (11%)
尾高型	平板型 (60%)	平板型 (58%)	平板型 (56%)

注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

表 6-2：台湾人日本語学習者における発音の傾向（短文に入れた場合）

アクセント式	二年生	四年生	院生
一拍 頭高型	—	—	—
平板型	頭高型 (69%)	頭高型 (61%)	頭高型 (61%)
二拍 頭高型	平板型 (17%) 中高型 (13%)	中高型 (10%) 平板型 (7%)	—
平板型	尾高型 (39%)	尾高型 (37%)	尾高型 (31%)
尾高型	平板型 (43%)	平板型 (37%)	平板型 (44%)
三拍 頭高型	平板型 (35%)	平板型 (21%)	平板型 (18%)
中高型	平板型 (37%)	平板型 (26%)	平板型 (25%)
平板型	尾高型 (17%)	尾高型 (17%)	尾高型 (16%)
尾高型	平板型 (59%)	平板型 (53%)	平板型 (59%)
四拍 頭高型	平板型 (29%)	平板型 (33%)	平板型 (12%)
中 2 高型	平板型 (26%) 中 3 高型 (9%)	平板型 (19%)	平板型 (21%)
中 3 高型	中 2 高型 (33%) 平板型 (19%)	中 2 高型 (40%)	中 2 高型 (45%) 平板型 (12%)
平板型	中 2 高型 (18%)	中 2 高型 (18%)	中 2 高型 (22%)
尾高型	平板型 (60%)	平板型 (62%)	平板型 (61%)

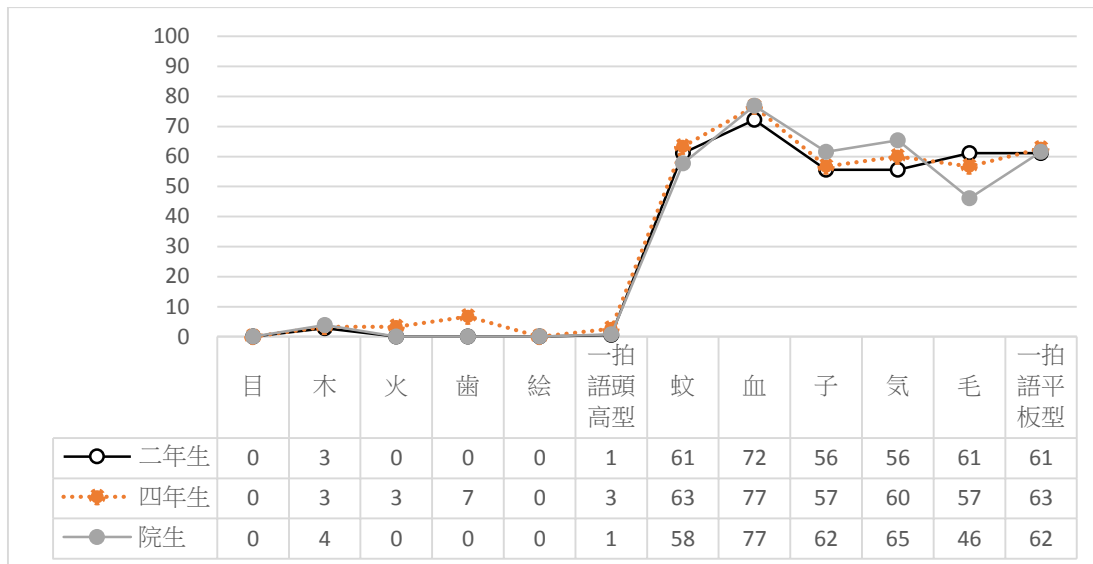
注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

上の表から分かるように、台湾人日本語学習者は発音の際、尾高型を平板型に発音してしまう傾向がしばしば見られる。拍数に関係なく、いずれも4割～7割ほどが平板型に発音するのが観察される。この傾向は、学習歴が長い院生の場合においても見られる。

次に、拍数別に見ていくとし、表 6-1 と 6-2 を用いながら詳しく検討していくことにする

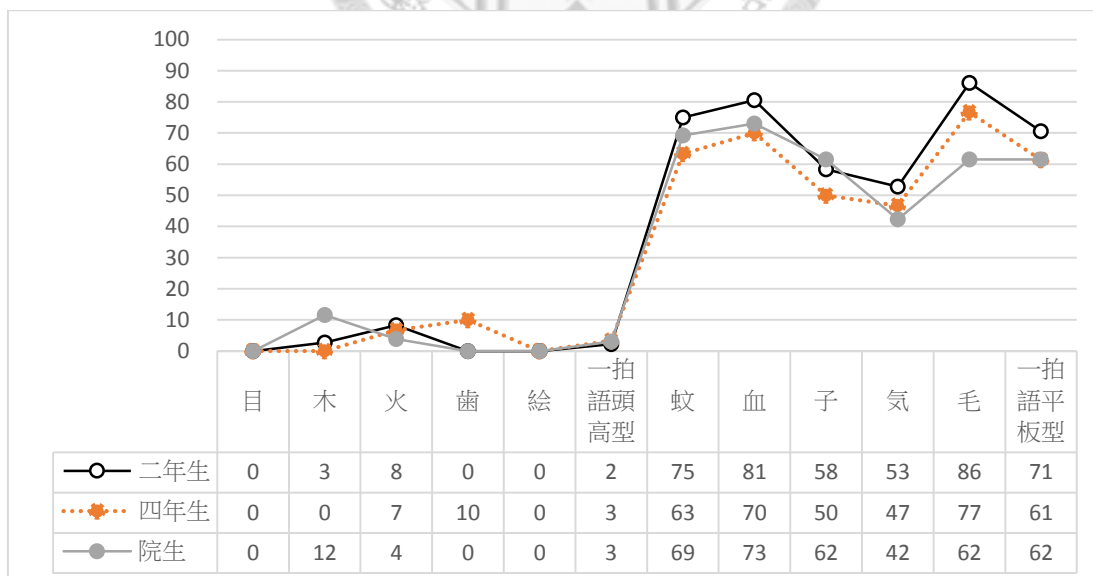
6.2.2 一拍語の傾向について

図 6-13：一拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率（単語のみの場合）



注：数字は%を示す。

図 6-14：一拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率（短文に入れた場合）



注：数字は%を示す。

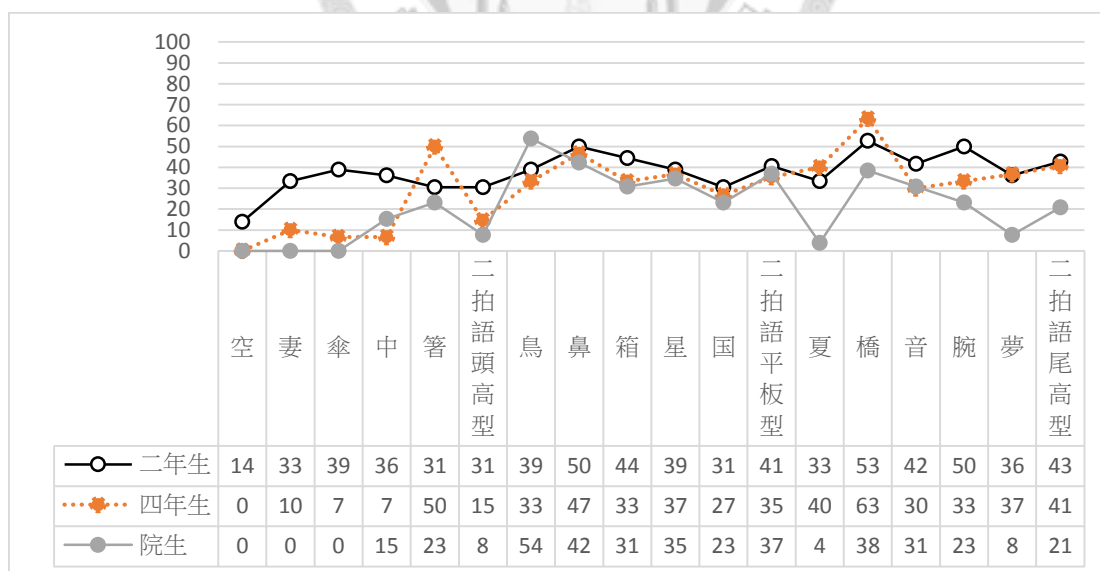
以上の図から分かるように、頭高型の不一致率は 1 割以下であることが観察

される。一方、平板型の不一致率は5割～9割を占めており、非常に高いことが観察される。これは単語のみの場合と短文に入れた場合とともに同じ傾向が見られる。つまり、学習者はとりわけ一拍語の平板型に対して、正しく発音することができないのが改めて検証できた。

また、表6-1と6-2から、平板型の発音の傾向を見てみると、三つの学年とも平板型を頭高型と発音しているのが観察される。理由としては、一拍語の頭高型はアクセントの核が前の音節にあるため、学習者にとって発音しやすいからだと思われる。第二章第三節の「先行研究」を顧みると、張（1996：4）は、一拍語は平板型が多く見られる、と述べている。それに対し、郭（2007：184）は、一拍語は常に頭高型となる、と指摘している。本研究では郭（2007）と同じ結果を呈している。

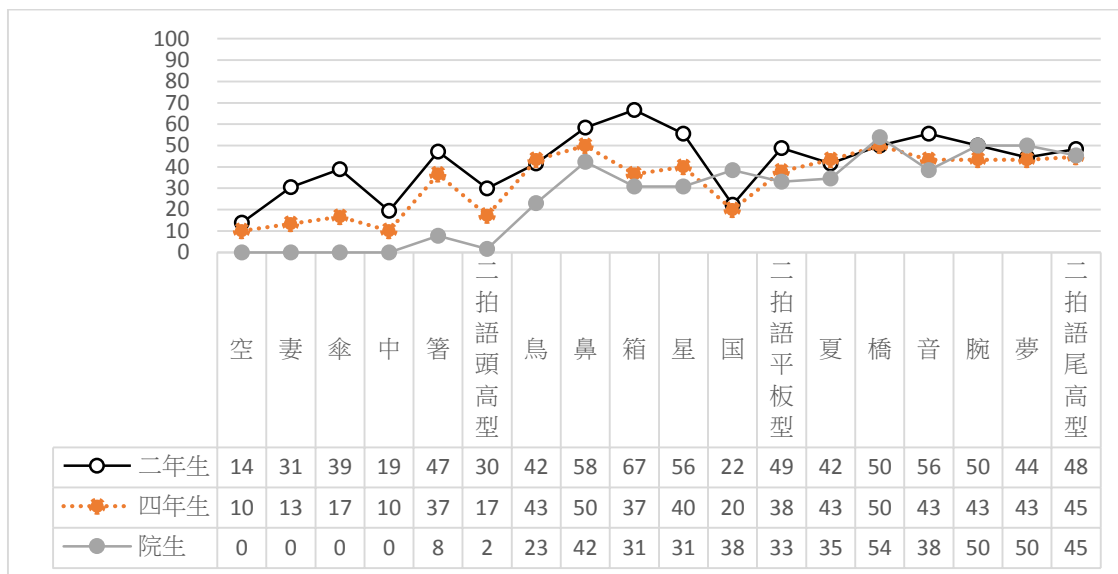
6.2.3 二拍語の傾向について

図6-15：二拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率（単語のみの場合）



注：数字は%を示す。

図 6-16：二拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率（短文に入れた場合）



注：数字は%を示す。

上の図から、頭高型は他のアクセント式と比べ不一致率が低いことが観察される。単語のみの場合（図 6-15）と短文に入れた場合（図 6-16）とともに 1 割～3 割ほど低くなっているのが分かる。これは、前述したように、頭高型は台湾人日本語学習者にとって比較的発音しやすいアクセント式の一つであることが見受けられる。

次に、表 6-1 と 6-2 より、平板型について見てみると、学習者は 3 割以上の割合で平板型を尾高型に発音する傾向が見られる。これは、第四章の「読み書き」と同じく、アクセントの核、つまりピッチの下降が分からないと推測できる。アクセントの核が分からなければ中高型、平板型と尾高型の区別ができなくなり混同が起きると思われる。

そして、図 6-16 より、二拍語の尾高型は三つのアクセント式の中で最も不一致率が高いことが見受けられる。尾高型は「低高低」の形のアクセント式であり、第四章にも述べたように、台湾人日本語学習者はこの形のアクセント式に対し

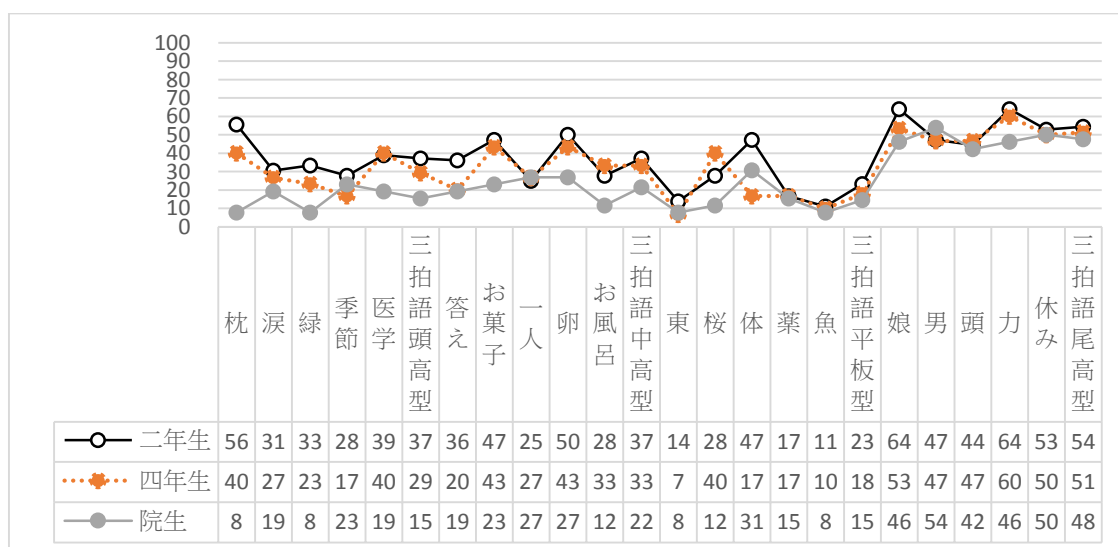
て、とりわけ弱いことが検証できた。そして、表 6-1 と 6-2 より、発音の傾向を見ても、学習者は 3 割～4 割の割合で尾高型を平板型と発音しているのが観察される。これもアクセントの核が分からないのが原因だと考えられる。

第二章第三節の「先行研究」を顧みると、二拍語の発音の傾向について、張（1996：4）は、「平板型、頭高型、尾高型のいずれも見られるが、馴染み度の高い語彙以外は自由変異が目立つ」と述べており、郭（2007：184）は、「モーラ 1 型となる」と指摘している。そして、潘（2010：30）は、頭高型に対する習得はあまり問題ないと述べている。以上から分かるように、先行研究では食い違いが見られるが、この点について、本稿の研究結果は以下のようになる。

台湾人日本語学習者にとって、頭高型は他のアクセント式よりも把握されている。そして、平板型を尾高型と発音し、尾高型を平板型と発音する傾向が見られる。これは、ピッチの下降のタイミングを正確に把握できないため、このような結果がもたらされたと考えられる。

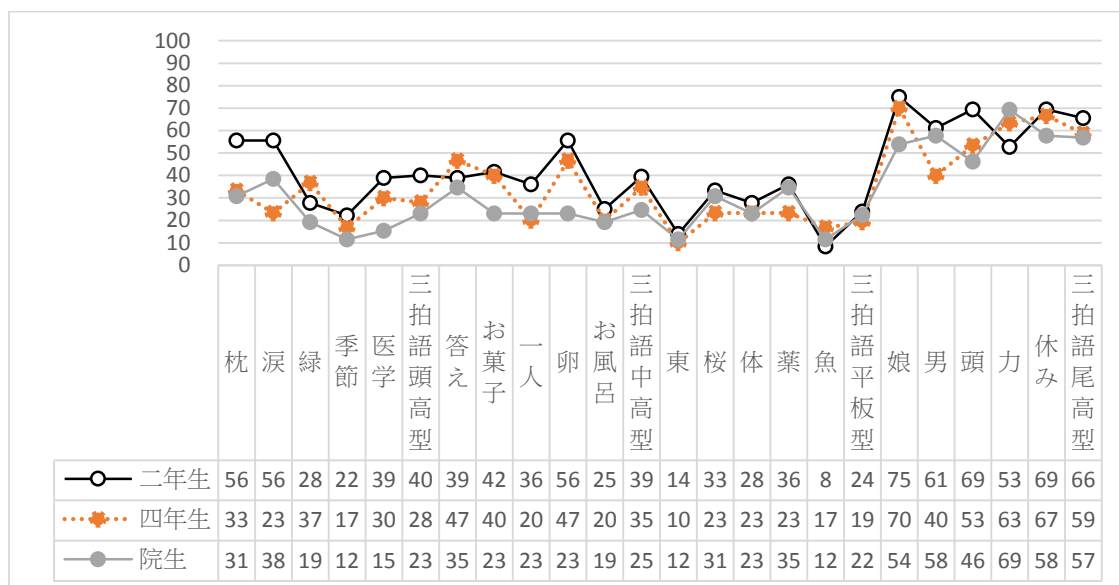
6.2.4 三拍語の傾向について

図 6-17：三拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率（単語のみの場合）



注：数字は%を示す。

図 6-18：三拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率（短文に入れた場合）



注：数字は%を示す。

まず、三拍語のアクセント式を全体的に見てみると、頭高型と中高型の不一致率は2割～4割で、平板型の不一致率は2割程度であることが観察される。そして、尾高型の不一致率は5割～6割で、比較的高いのが分かる。

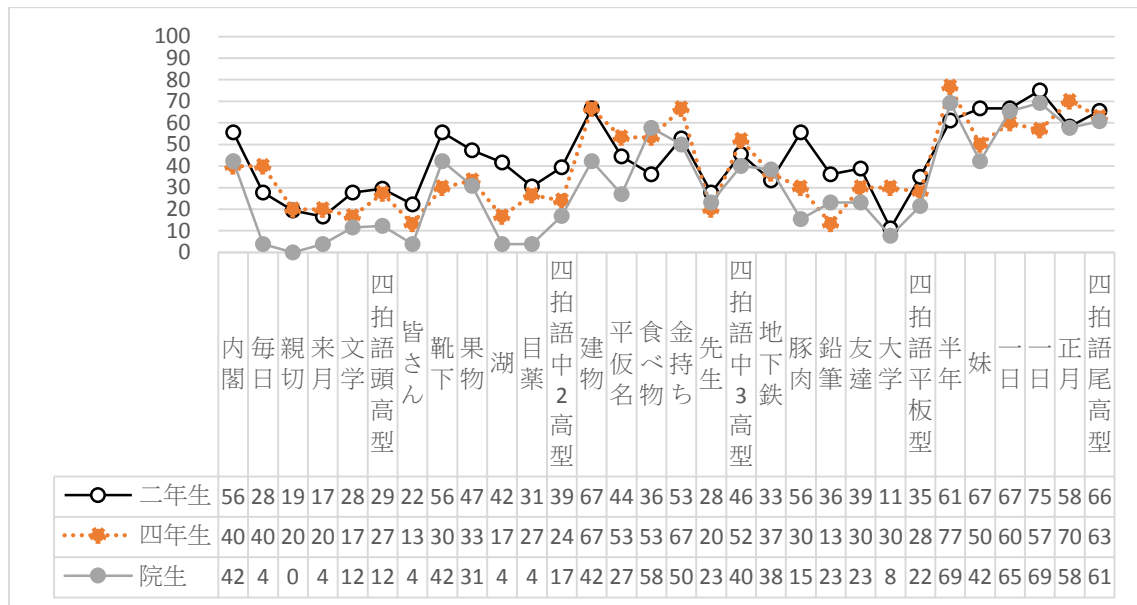
表 6-1 と 6-2 を読み合わせてみると、学習者は1割～2割の割合で平板型を尾高型と発音する傾向が見られる。一方、その他のアクセント式については、平板型と発音する傾向が観察される。特に尾高型について、単語のみの場合は約5割の割合で平板型と発音するのが分かった。短文に入れた場合も同じく、5割～6割と高い割合で平板型と発音する傾向が見られる。これは、三拍語の発音の際、学習者はピッチの下降をせず、そのまま平板型と発音してしまう傾向があると検証できた。また、実験語を見てみると、特に相違は見られない。

一方、第二章第三節の「先行研究」を顧みると、張（1996：5-6）は三拍語について中高型の出現が目立つと述べている。そして、潘（2010：30）は、平板型と中高型に対する習得はあまり問題ないと述べている。これについて、本研究の

結果は潘（2010）と類似しており、三拍語の尾高型の不一致率が一番高い結果を得た。そして、学習者は三拍語の発音の際、平板型と発音してしまう傾向があると検証できた。

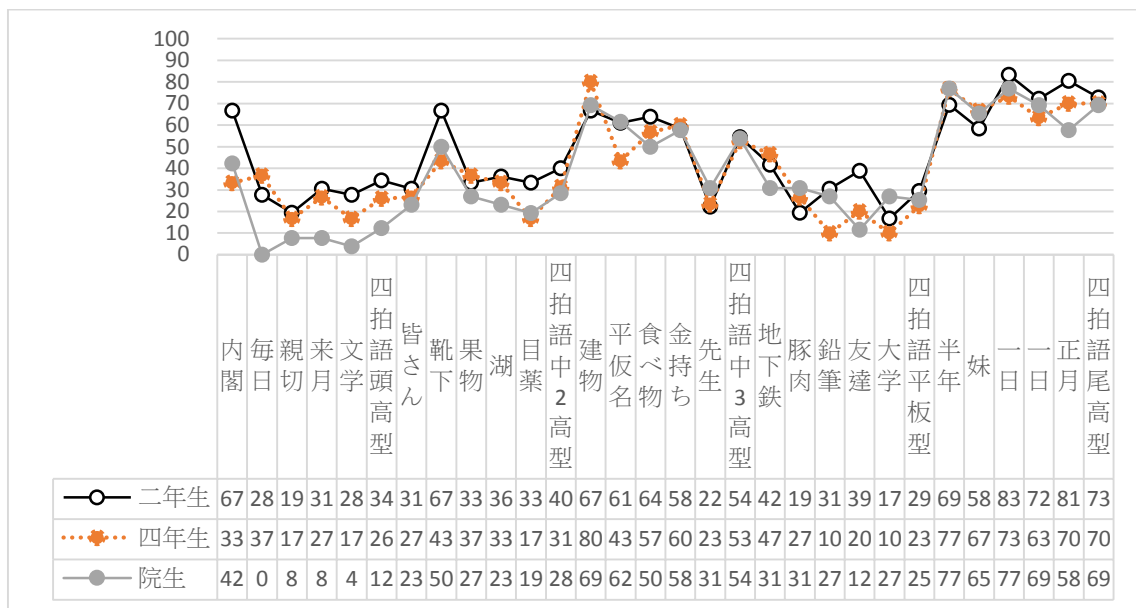
6.2.5 四拍語の傾向について

図 6-19：四拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率（単語のみの場合）



注：数字は%を示す。

図 6-20：四拍語のそれぞれの実験語における発音の不一致率（短文に入れた場合）



注：数字は%を示す。

まず、四拍語について、台湾人日本語学習者は尾高型の発音が苦手であることが検証できた。尾高型の不一致率を見てみると約6割～7割で、他のアクセント式（1割～4割）より高いことが観察される。一方、不一致率が比較的低いアクセント式は、頭高型と平板型である。つまり、「低高低」の形のアクセント式は台湾人日本語学習者にとって発音が難しいことが改めて検証できた。

表の6-1と6-2より、特に顕著な傾向が見られるのは尾高型である。台湾人日本語学習者は約6割の割合で尾高型を平板型と発音してしまうことが分かった。他のアクセント式も平板型と発音してしまう傾向はあるが、いずれも1割～4割に留まっている。

図6-19、6-20より実験語を見てみると、頭高型の場合では「内閣」の不一致率が高いことが観察される。そして、中2高型の場合では、「靴下」の不一致率が他の実験語より高いことが分かる。これについて、これらの語彙は、一度は習得してはいたが、日常生活ではあまり使われないため発音にズレが起きてしま

ったのが理由であると考えられる。一方、中3高型では、「先生」の不一致率が他のアクセント式より約2割低いことが観察される。これは、教科書や授業中での使用頻度が他の語彙と比べ比較的高いのが理由であると考えられる。

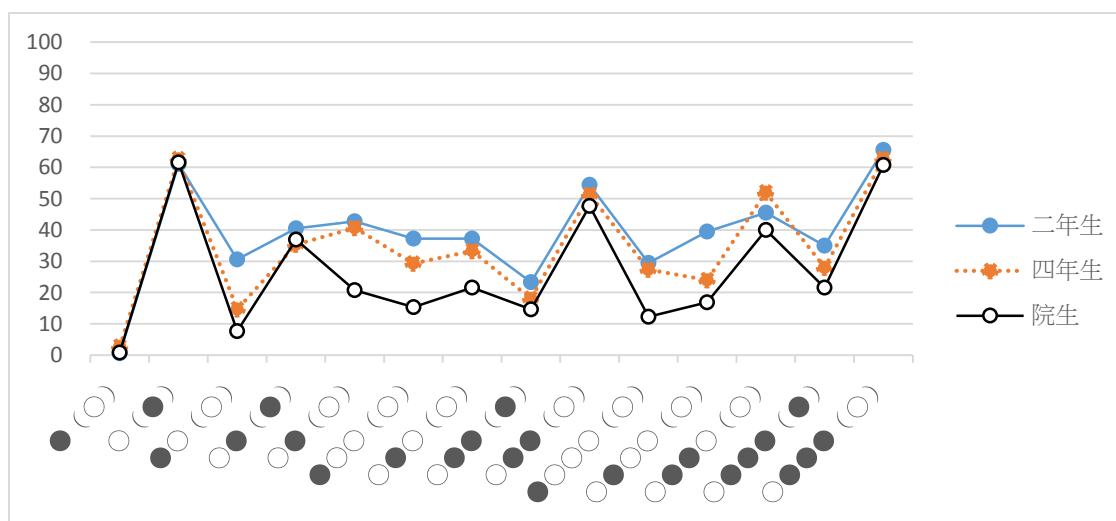
次に、先行研究を顧みてみると、張（1996：5-6）は四拍語の発音について、中2高型の出現が目立つと述べている。そして、潘（2010：30）は、平板型と中高型に対する習得はあまり問題ないと述べている。これについて、本研究の結果は、四拍語の場合、台湾人日本語学習者にとって一番苦手なアクセント式は尾高型であり、頭高型と平板型は比較的不一致率が低いことが分かった。そして、発音の傾向については、平板型と中高型に発音する傾向があることが分かった。

6.3 まとめ

本章は、台湾人日本語学習者の発音に関して、学年別、性差、留学経験の有無の三つの属性に分けて分析した。また、学習者の発音の傾向についても検討してきた。そこで、本章の研究結果を要約すると、以下ようになる。

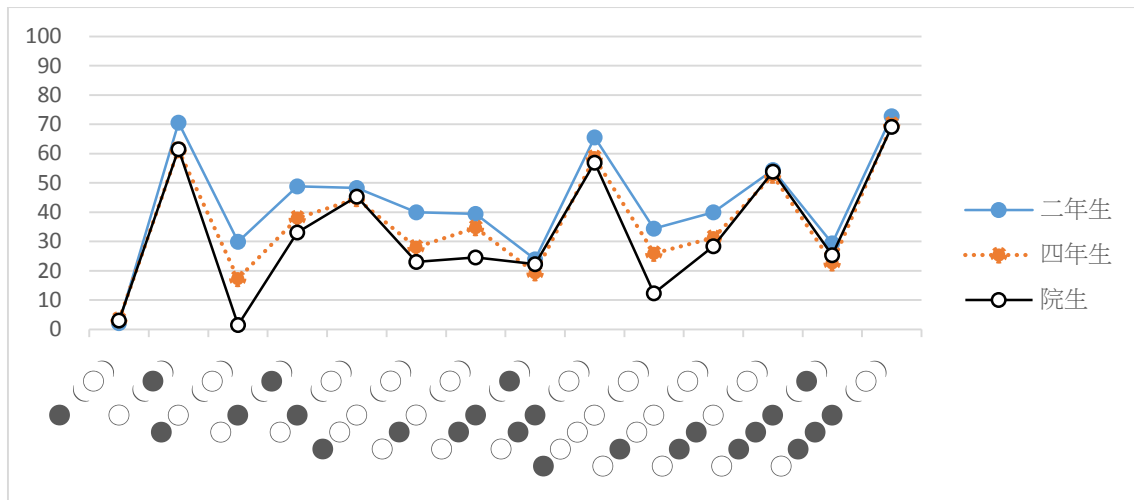
まず、学習歴別から見た結果を図に示すと次のようになる。

図 6-21：学年別の発音についての不一致率（単語のみの場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。（ ）内は助詞を示す。

図 6-22：学年別の発音についての不一致率（短文に入れた場合）



注：○は低い音節、●は高い音節を示す。（ ）内は助詞を示す。

上の図から読み取れるように、学習歴が長くなるにつれて不一致率が低くなることが分かる。これは、第四、五章にそれぞれ述べた「読み書き」と「聞き取り」と同じ傾向と見受けられる。更に、図 6-1 と図 6-2 を読み合わせると、一拍語の平板型、三拍語の尾高型と四拍語の尾高型の不一致率が突如高くなっているのが見受けられる。この三つのアクセント式は学習者にとってズレが生じやすいアクセント式ということになる。以上述べたアクセント式は「低高低」の形のアクセント式が多く、発音の場合について、「低高低」の形のアクセント式に対して習得が弱いことが検証できた。

次に、性差から見た結果については、男子学生と女子学生のグラフの形は類似しており、顕著な違いは見られない。強いて言うならば、短文に入れた場合において、若干男子学生の不一致率の方が高いことが見受けられる。しかし、その差は大きくても 1 割以内で、それほど顕著ではない。これは、発音の場合、男子学生と女子学生に明白な相違は見られないことを物語っている。

留学経験の有無別から見た結果について、単語のみの場合では、四拍語の中 3 高型は、留学経験のない院生の方が留学経験のある院生よりも不一致率が高いことが観察される。それ以外のアクセント式では、留学経験のある院生と留学経

験のない院生のアクセントはほぼ同じ傾向と言える。そして、短文に入れた場合を見てみると、留学経験のある院生は留学経験のない院生よりも全体的に不一致率が下回っていることが分かった。特に、「低高低」のアクセント式では、留学経験のある院生の不一致率は留学経験のない院生よりも1割～2割ほど低い。

最後に、台湾人日本語学習者の発音に関する先行研究は少なくないが、結果から見れば食い違いが多く見られるため、本研究で再調査し、整理してみた。学習者の発音の傾向を表にまとめると以下のようになる。

表 6-3：台湾人日本語学習者における発音の傾向（単語のみの場合）

アクセント式	二年生	四年生	院生
一拍 頭高型	—	—	—
平板型	頭高型 (61%)	頭高型 (63%)	頭高型 (62%)
二拍 頭高型	—	—	—
平板型	尾高型 (36%)	尾高型 (35%)	尾高型 (36%)
尾高型	平板型 (39%)	平板型 (37%)	平板型 (20%)
三拍 頭高型	平板型 (29%)	平板型 (23%)	平板型 (14%)
中高型	平板型 (28%)	平板型 (25%)	平板型 (15%)
平板型	尾高型 (22%)	尾高型 (17%)	尾高型 (15%)
尾高型	平板型 (50%)	平板型 (49%)	平板型 (47%)
四拍 頭高型	平板型 (25%)	平板型 (23%)	平板型 (11%)
中2高型	平板型 (18%) 中3高型 (14%)	平板型 (13%)	—
中3高型	中2高型 (22%) 平板型 (18%)	中2高型 (37%) 平板型 (12%)	中2高型 (34%)
平板型	中2高型 (16%) 尾高型 (10%)	中2高型 (15%) 尾高型 (11%)	尾高型 (11%)
尾高型	平板型 (60%)	平板型 (58%)	平板型 (56%)

注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

表 6-4：台湾人日本語学習者における発音の傾向（短文に入れた場合）

アクセント式	二年生	四年生	院生
一拍 頭高型	—	—	—
平板型	頭高型 (69%)	頭高型 (61%)	頭高型 (61%)
二拍 頭高型	平板型 (17%) 中高型 (13%)	中高型 (10%) 平板型 (7%)	—
平板型	尾高型 (39%)	尾高型 (37%)	尾高型 (31%)
尾高型	平板型 (43%)	平板型 (37%)	平板型 (44%)
三拍 頭高型	平板型 (35%)	平板型 (21%)	平板型 (18%)
中高型	平板型 (37%)	平板型 (26%)	平板型 (25%)
平板型	尾高型 (17%)	尾高型 (17%)	尾高型 (16%)
尾高型	平板型 (59%)	平板型 (53%)	平板型 (59%)
四拍 頭高型	平板型 (29%)	平板型 (33%)	平板型 (12%)
中 2 高型	平板型 (26%) 中 3 高型 (9%)	平板型 (19%)	平板型 (21%)
中 3 高型	中 2 高型 (33%) 平板型 (19%)	中 2 高型 (40%)	中 2 高型 (45%) 平板型 (12%)
平板型	中 2 高型 (18%)	中 2 高型 (18%)	中 2 高型 (22%)
尾高型	平板型 (60%)	平板型 (62%)	平板型 (61%)

注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

上の表から分かるように、学習者は高い割合で、一拍語の平板型を頭高型と発音する傾向が見られる。また、尾高型を平板型と発音する傾向も観察された。その他の傾向は、上記の表を参照されたい。

以上、本章は台湾人日本語学習者についての単語アクセントの「発音」の実態、また属性別に分けて探求した。なお、次章（第七章）からは第四章から第六章の「読み書き」、「聞き取り」と「発音」から得た情報を総合して再確認し、関連性を見出したい。

第七章 読み書き、聞き取り、発音の比較の結果

第四章から第六章まで読み書き、聞き取り、発音の調査結果を個別に見てきた。本章では、以上の三者を統合的に比較し、関連性を明らかにする。ここでは、読み書き、聞き取り、発音の三つの項目を「発音と読み書きの関係」、「発音と聞き取りの関係」、「聞き取りと読み書きの関係」のように二つずつ組んで検証する。そして、それぞれの正答とズレを統計し、関連性をより明確に示す。

また、第四章から第六章の調査結果から分かったが、発音と読み書きはアクセント式の違いが主に影響を与え、聞き取りは拍数別によって結果が異なるため、本章では、拍数別とアクセント式別に分けて考察する。そして、各アクセント式に含まれる各実験語からは、数値的な相違は見られないため、ここでは平均値を取りアクセント式別に検証する。

7.1 発音と読み書きの関係について

7.1.1 一拍語

一拍語には頭高型と平板型の二種類のアクセント式がある。この二つのアクセント式の発音と読み書きの関係の調査結果は、以下の表 7-1 に示す。また、本章で示す表内の○は学習者の回答が 1988 年に出版された『NHK 日本語発音アクセント辞典』の記載と一致しているのを意味し、×は回答のズレを意味する。それぞれのアクセント式には、「発音○と読み書き○」、「発音×と読み書き×」、「発音×と読み書き○」、「発音○と読み書き×」¹⁰の四つの組み合わせがある。

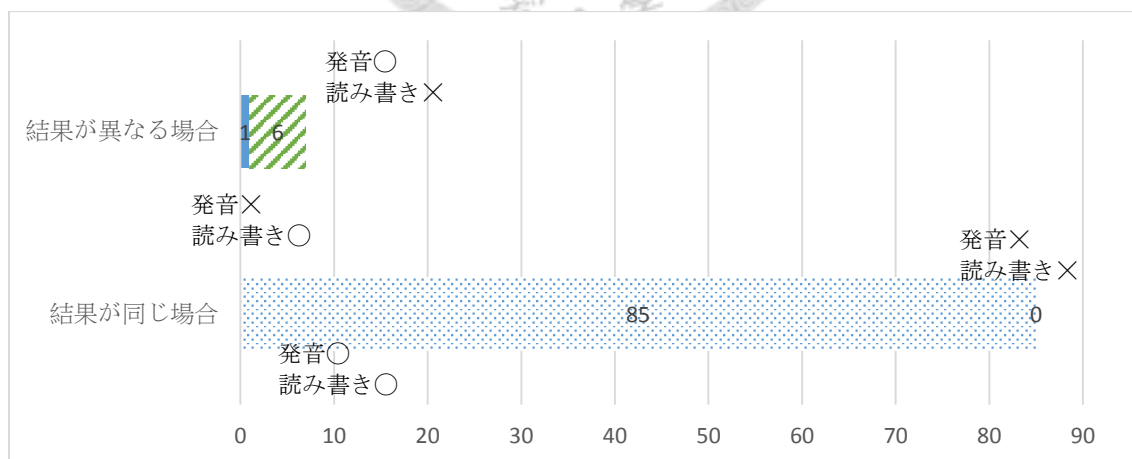
¹⁰ 本研究の実験語は日本語検定三級以下、または教科書にある単語から選出した。そのため、学習者がその単語を見たことがない、または知らないのが理由でこの結果となったことは除外できると考えられる。

表 7-1：一拍語における発音と読み書きの関係

	発音	読み書き	人数
頭高型	○	○	85
	×	○	1
	○	×	6
	×	×	0
平板型	○	○	13
	×	○	9
	○	×	23
	×	×	47

表 7-1 から、頭高型の発音と読み書きの相関性を見てみると、発音と読み書きの調査結果が一致している人数は 92 人中 86 人で高い割合を占めているのが観察される。一方、発音と読み書きの調査結果が異なる場合は合計 7 人で、比較的低いことが分かった。つまり、一拍語の頭高型の場合では、発音と読み書きは関連性があると言える。そして、理解しやすいように上の表をグラフで示すと以下のようなになる。X 軸は調査人数（92 人）である。

図 7-1：一拍語の頭高型



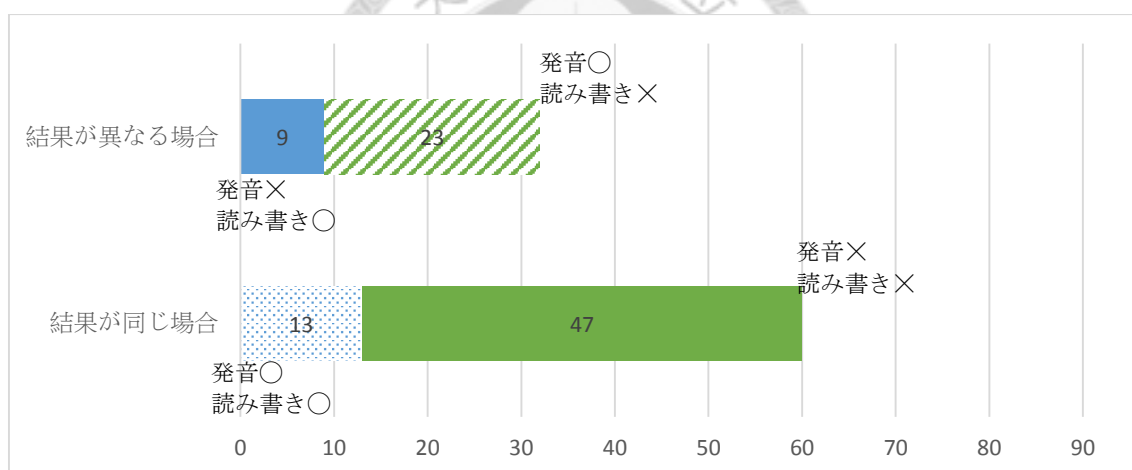
まず、上の図は発音と読み書きの回答の結果の傾向を表している。上の棒グラフは「発音と読み書きの結果が異なる場合」を示し、「発音×と読み書き○」と「発音○と読み書き×」を足し合わせたものである。下の棒グラフは「発音と読

み書きの結果が同じ場合」を示しており、「発音×と読み書き×」と「発音○と読み書き○」を足し合わせたものである。なお、以下のグラフも同じ見方である。

図 7-1 から観察されるように、発音と読み書きの回答の結果が一致している人数は、一致していない人数より多いことが分かった。

次に、平板型の場合について見てみたい。発音と読み書きの両方が合っている人数は 13 人、両方とも合っていない人数は 47 人で、発音と読み書きの結果が一致している人数は合わせて 92 人中 60 人であることが分かった。図を用いて見てみると、以下の図 7-2 になる。

図 7-2：一拍語の平板型



このことから、一拍語の平板型の場合も同じく、発音と読み書きの結果が一致している人数の方が多く、発音と読み書きに関連性があることが伺える。これは、学習者が発音に対する回答の結果と読み書きに対する回答の結果が一致している場合が高いことを意味している。更に詳しく見てみると、発音と読み書きの結果が一致している人数について、頭高型は 86 人で高い割合を占めており、平板型は 60 人でそれほど高い割合を占めているのではない。つまり、頭高型と平板型は発音と読み書きに関連性は見られるものの、関連性に強弱があることが言える。

以上から分かるように、頭高型の場合では発音と読み書きはともに正答が多く、平板型の場合では発音と読み書きは不一致の回答の方が多いた。両者のアクセント式の回答の結果は異なるが、一拍語の場合、学習者における発音と読み書きの結果は一致している人数の方が多く、発音と読み書きは回答の傾向に関連性があることを物語っていると言える。

7.1.2 二拍語

二拍語は頭高型、平板型と尾高型の三種類のアクセント式がある。この三つのアクセント式の発音と読み書きの関係の調査結果は、以下の表 7-2 に示す。

表 7-2：二拍語における発音と読み書きの関係

	発音	読み書き	人数
頭高型	○	○	52
	×	○	6
	○	×	22
	×	×	12
平板型	○	○	34
	×	○	9
	○	×	23
	×	×	26
尾高型	○	○	27
	×	○	6
	○	×	32
	×	×	27

まず、三つのアクセント式とも、発音と読み書きの結果が一致している人数は高い割合を占めているのが観察される。(それぞれ 92 人中 64 人、60 人と 54 人である。) 一方、発音と読み書きの結果が一致していない人数は一致している人数を下回っていることが観察される。図を用いて見てみると以下のようなになる。

図 7-3 : 二拍語の頭高型

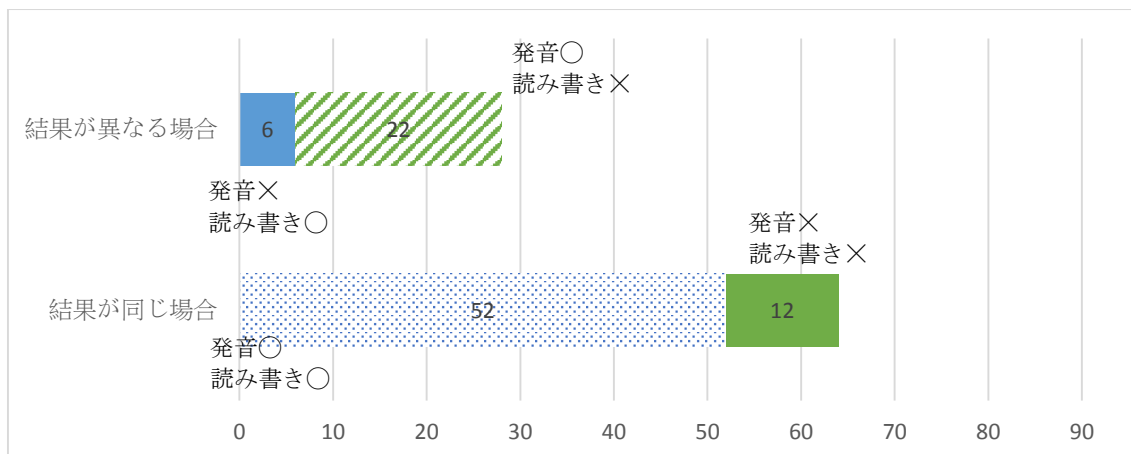


図 7-4 : 二拍語の平板型

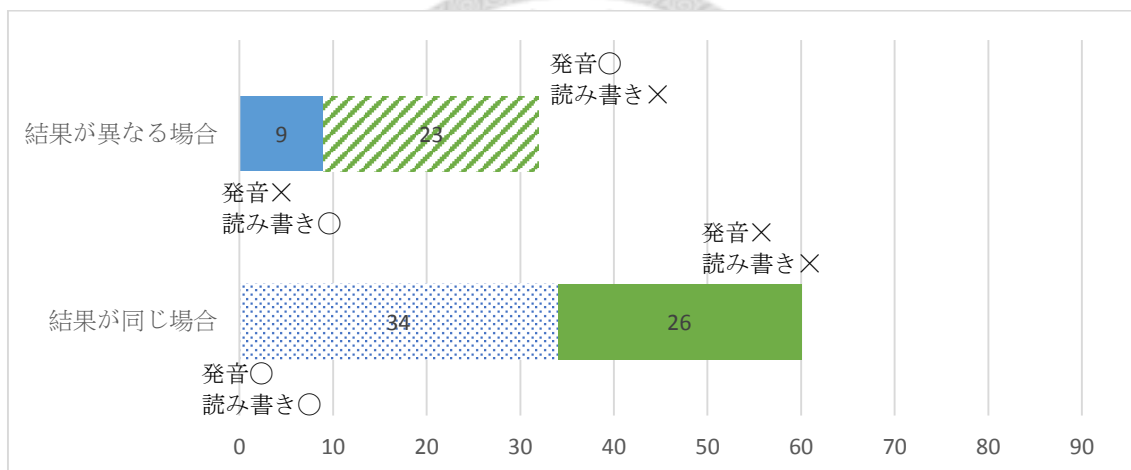
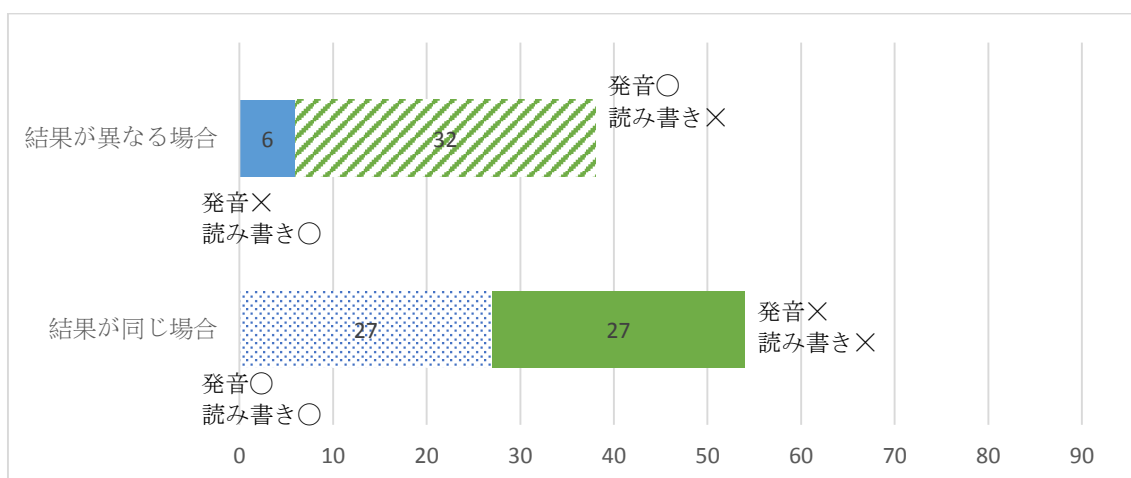


図 7-5 : 二拍語の尾高型



以上の図を見て分かるように、発音と読み書きの結果が一致している人数は一致していない人数より高いことが観察される。ここから、発音と読み書きの回答の傾向に関連性があると判断できる。

7.1.3 三拍語

三拍語には頭高型、平板型、中高型と尾高型の四種類のアクセント式がある。この四つのアクセント式の発音と読み書きの関係の調査結果は、以下の表 7-3 に示す。

表 7-3：三拍語における発音と読み書きの関係

	発音	読み書き	人数
頭高型	○	○	40
	×	○	7
	○	×	26
	×	×	19
中高型	○	○	29
	×	○	7
	○	×	34
	×	×	22
平板型	○	○	58
	×	○	6
	○	×	16
	×	×	12
尾高型	○	○	19
	×	○	7
	○	×	26
	×	×	40

上の表から観察されるように、発音と読み書きの調査結果が一致している人数は高い割合を占めている。それぞれ頭高型が 92 人中 59 人、中高型が 51 人、

平板型が 70 人、尾高型が 59 人であることが分かった。一方、発音と読み書きの調査結果が一致していない人数は、頭高型が 92 人中 33 人、中高型が 41 人、平板型が 22 人、尾高型が 33 人であり、いずれも一致している場合より低いことが見受けられる。これについては、三拍語についても、発音と読み書きは回答の傾向に関連性があることが言える。

図 7-6：三拍語の頭高型

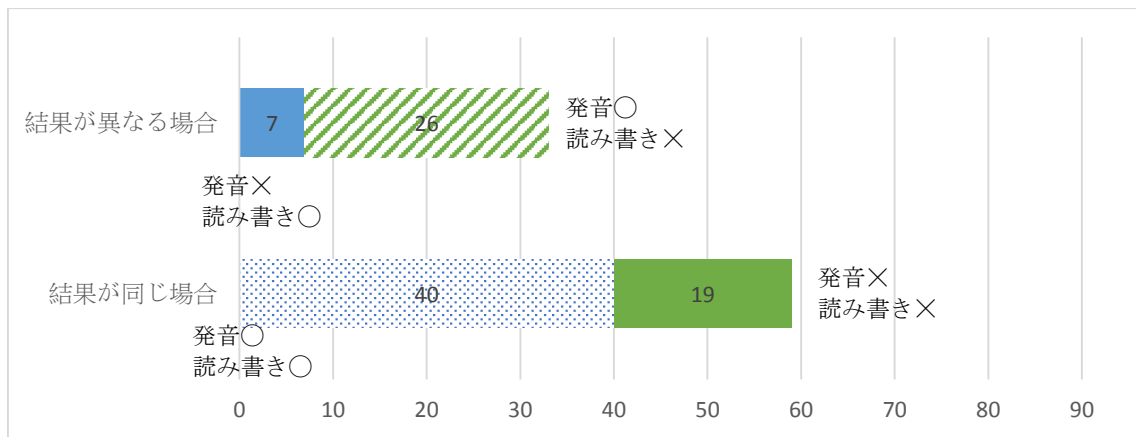


図 7-7：三拍語の中高型

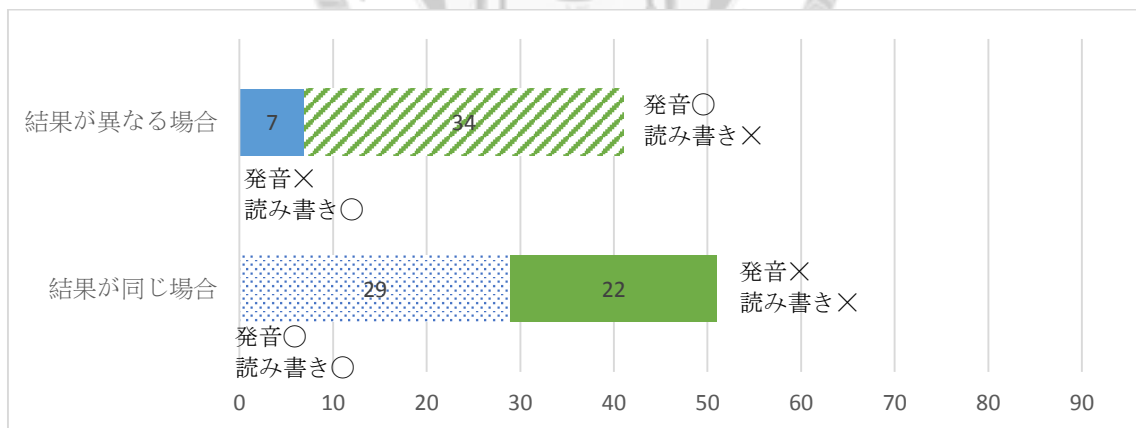


図 7-8 : 三拍語の平板型

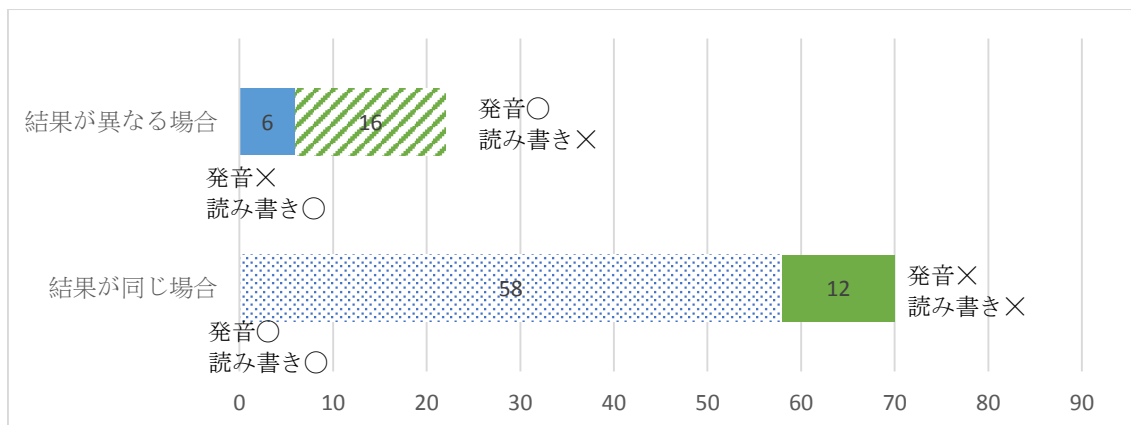
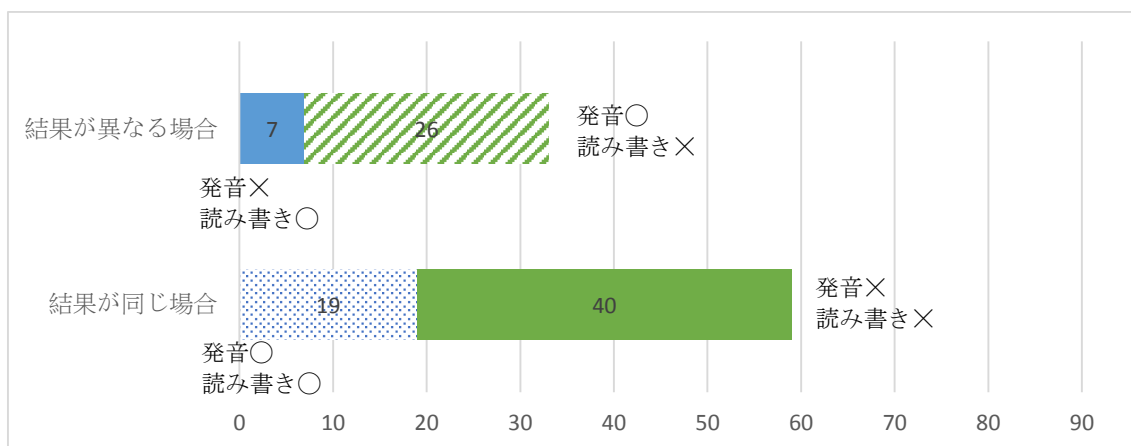


図 7-9 : 三拍語の尾高型



以上から分かるように、三拍語における発音と読み書きの結果が一致している人数は一致していない人数より多いことが観察される。これは、発音と読み書きの回答の傾向に関連性があると指摘できる。

しかし、詳しく見てみると、三拍語の四つのアクセント式の中で、中高型のみ発音と読み書きの結果が一致している人数と一致していない人数が近いことが観察される。これは、中高型の場合、発音と読み書きの回答の傾向はそれほど顕著ではないことを意味しており、回答の傾向の関連性が他のアクセント式と比べ弱いことを物語っている。

7.1.4 四拍語

四拍語は頭高型、平板型、中2高型、中3高型と尾高型の五つのアクセント式がある。そして、この五つのアクセント式の発音と読み書きの関係の調査結果は、以下の表7-4に示す。

表7-4：四拍語における発音と読み書きの関係

	発音	読み書き	人数
頭高型	○	○	39
	×	○	4
	○	×	31
	×	×	18
中2高型	○	○	31
	×	○	4
	○	×	36
	×	×	21
中3高型	○	○	25
	×	○	10
	○	×	27
	×	×	30
平板型	○	○	46
	×	○	8
	○	×	19
	×	×	19
尾高型	○	○	14
	×	○	10
	○	×	20
	×	×	48

表7-4から観察されるように、発音と読み書きの調査結果が一致している人数はそれぞれ頭高型が92人中57人、中2高型が52人、中3高型が57人、平板型が64人、尾高型が62人であることが分かった。一方、発音と読み書きの調

査結果が一致していない人数は、頭高型が 92 人中 35 人、中 2 高型が 40 人、中 3 高型が 41 人、平板型が 27 人、尾高型が 30 人であり、いずれも一致している場合より低いことが見受けられる。これは、三拍語についても発音と読み書きの回答の傾向に関連性があると言えるが、一致していない場合の数値は、拍数が増加するにつれて増えている現象が見受けられる。つまり、発音と読み書きには関連性があると見受けられるが、拍数が増加するにつれて関連性が弱まっていく傾向を見せていることが分かった。

また、発音が正答で読み書きが不一致の場合は、四拍語も同様に 2 割～3 割ほど占めているのが観察される。以上の結果について、図を用いて見てみると以下のようなになる。

図 7-10：四拍語の頭高型

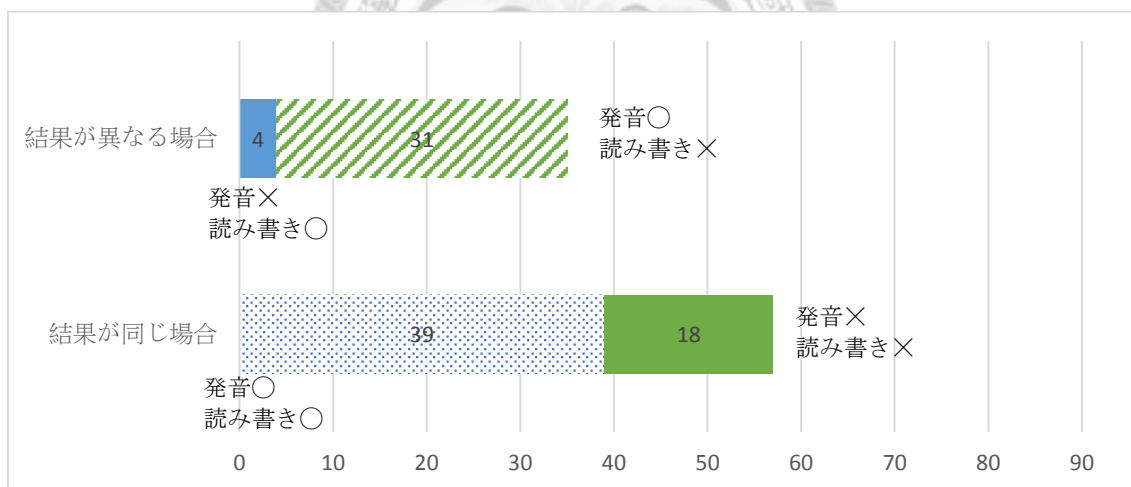


図 7-11 : 四拍語の中 2 高型

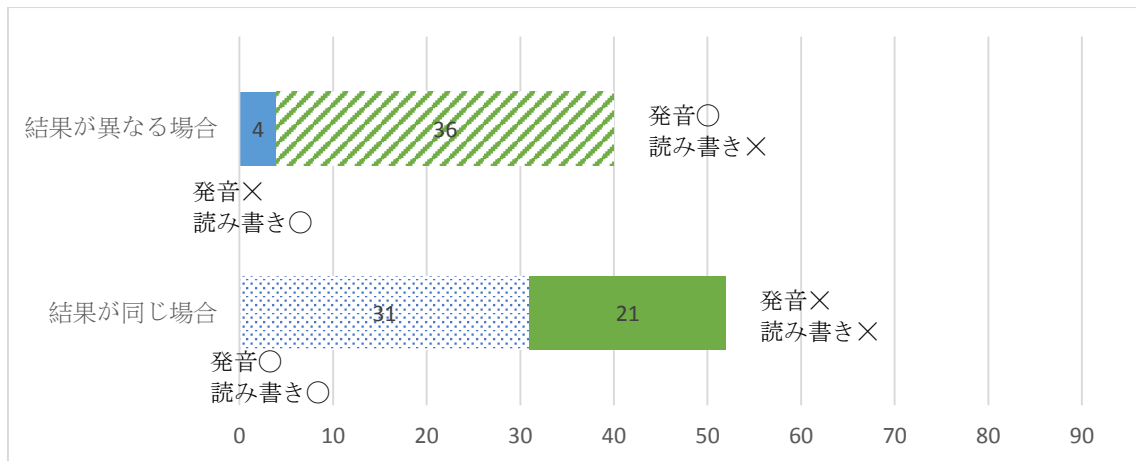


図 7-12 : 四拍語の中 3 高型

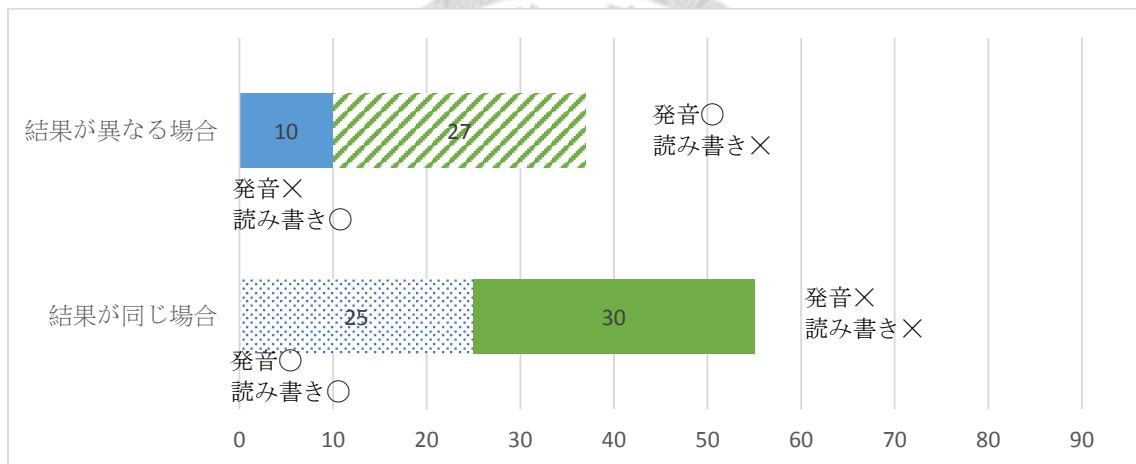


図 7-13 : 四拍語の平板型

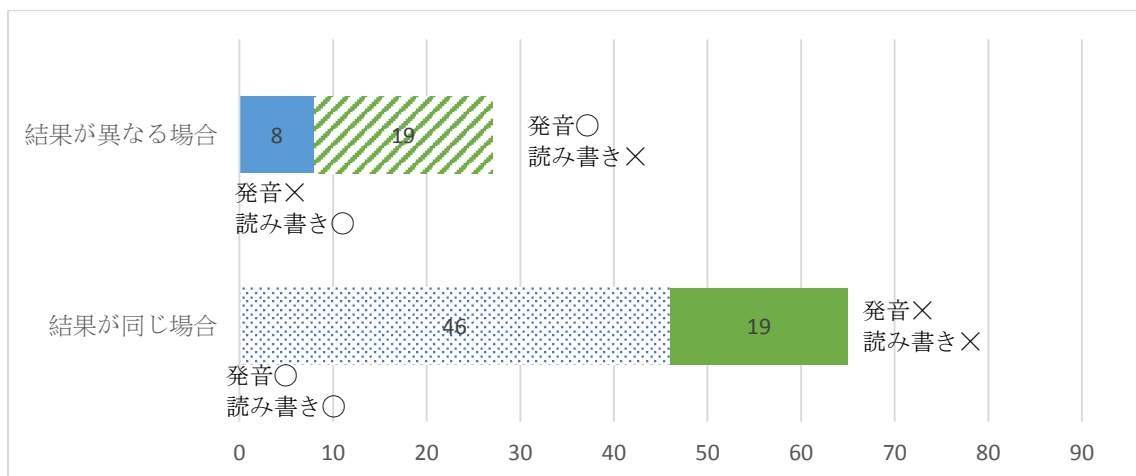
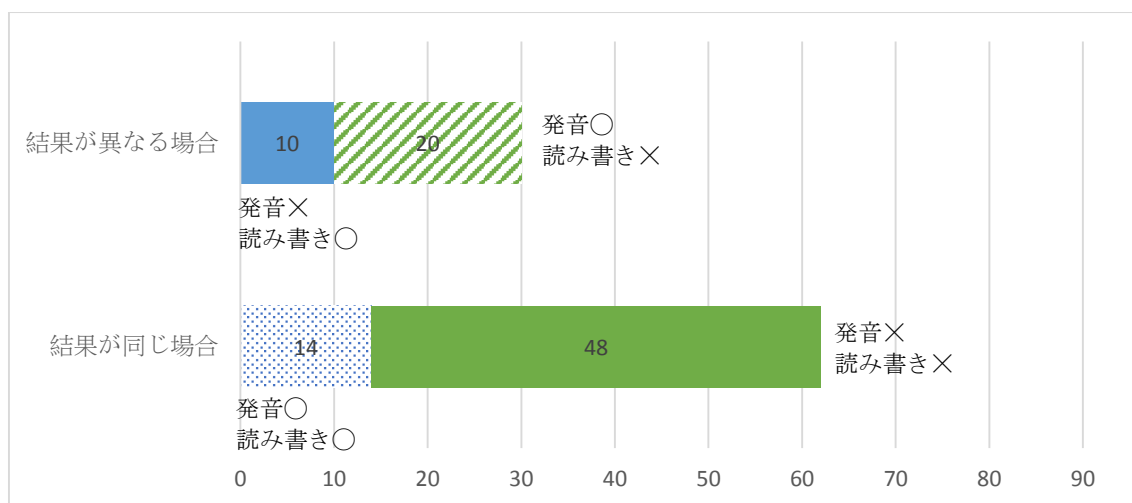


図 7-14：四拍語の尾高型



以上の図から観察されるように、発音と読み書きの結果が一致している場合は一致していない場合より多い。つまり、発音と読み書きの関係について、両者の回答の傾向は類似していることが分かった。これは発音と読み書きには関連性があるということが言える。

発音と読み書きの関係をまとめてみると、回答の結果が一致している場合は一致していない場合より多いことが分かった。これは、発音と読み書きの回答の結果に同じ傾向があることを物語っている。さらに、拍数別に回答の結果が一致していない人数を見てみると、一拍語は平均 19.5 人、二拍語は平均 32 人、三拍語は平均 32.25 人、四拍語は平均 34.6 人である。つまり、拍数が多くなるにつれて、個人差が顕になり、発音と読み書きの回答の結果が一致していない人数が増加し、発音と読み書きの関連性が薄れていくことを指摘している。

7.2 発音と聞き取りの関係について

7.2.1 一拍語

一拍語は頭高型と平板型の二種類のアクセント式がある。この二つのアクセント式の発音と聞き取りの関係の調査結果は、以下の表 7-5 に示す。

表 7-5：一拍語における発音と聞き取りの関係

	発音	聞き取り	人数
頭高型	○	○	89
	×	○	1
	○	×	2
	×	×	0
平板型	○	○	35
	×	○	56
	○	×	0
	×	×	1

表 7-5 から、一拍語の頭高型について、発音と聞き取りの調査結果が一致している人数は 92 人中 87 人で、高い割合を占めているのが観察される。一方、平板型については、聞き取りが正答で発音が不一致の人数の方が多いことが分かった。つまり、平板型では発音と聞き取りの調査結果が一致していない人数の方が高い。理解しやすいように図を用いて示すと以下のようなになる。

図 7-15：一拍語の頭高型

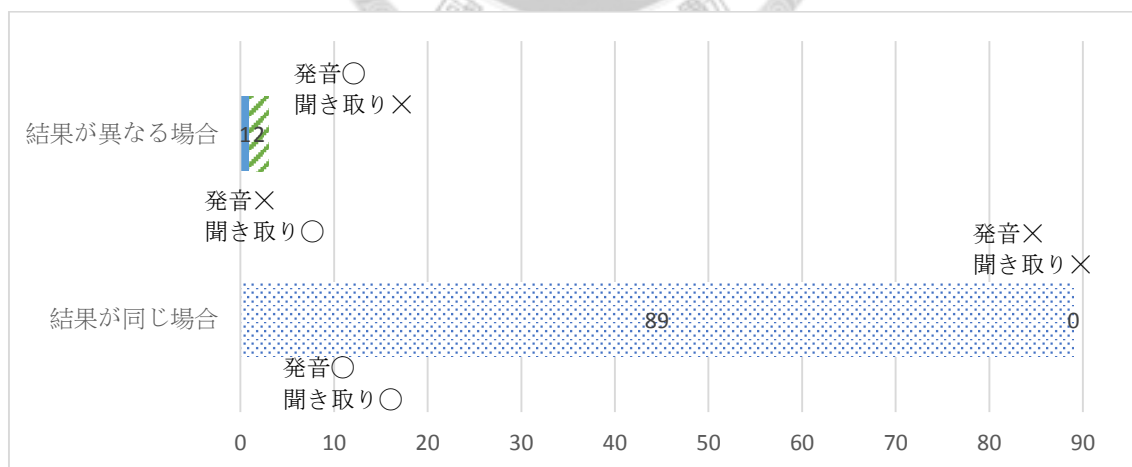


図 7-16：一拍語の平板型

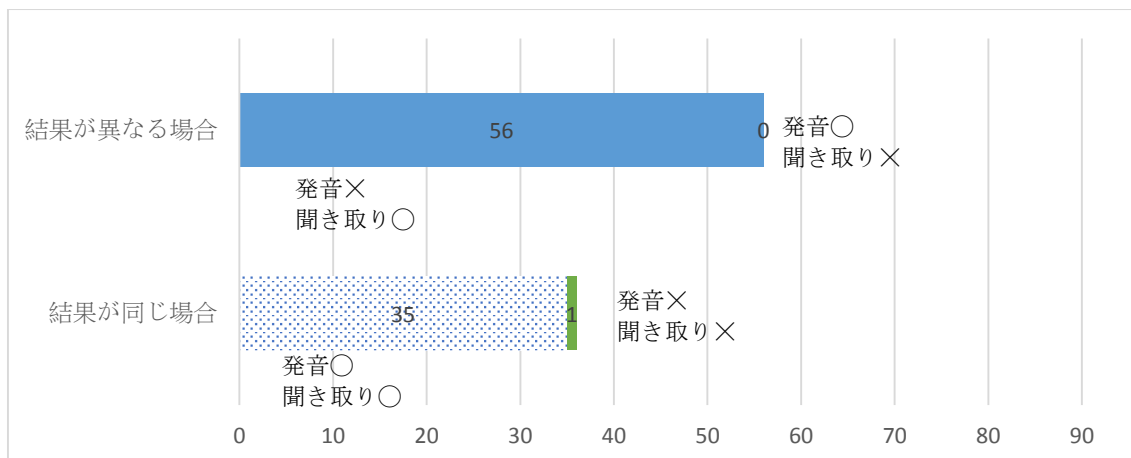


図 7-15 から観察されるように、頭高型の場合では、発音と聞き取りの回答の結果は一致しており、正答した人数が多いことが見られる。一方、図 7-16 の平板型になると、発音における不一致の人数が増加し、発音と聞き取りの結果が一致していない方が上回った。

以上をまとめると、頭高型では発音と聞き取りに関連性は見られるが、平板型の場合では、発音の方に誤答が目立っているのが観察される。つまり、一拍語について、発音と聞き取りに関連性はあるとは言い難い。

7.2.2 二拍語

二拍語は頭高型、平板型と尾高型の三種類のアクセント式がある。この三つのアクセント式の発音と聞き取りの関係の調査結果は、以下の表 7-6 に示す。

表 7-6：二拍語における発音と聞き取りの関係

	発音	聞き取り	人数
頭高型	○	○	70
	×	○	14
	○	×	6
	×	×	2
平板型	○	○	53
	×	○	31
	○	×	4
	×	×	4
尾高型	○	○	55
	×	○	29
	○	×	4
	×	×	4

まず、三つのアクセント式とも、発音と聞き取りの結果が一致している人数は高い割合を占めているのが観察される。(それぞれ 92 人中 71 人、57 人と 59 人である。) 一方、発音と読み書きの結果が一致していない人数は一致している人数を下回っていることが観察される。図を用いて見てみると以下のようなになる。

図 7-17：二拍語の頭高型

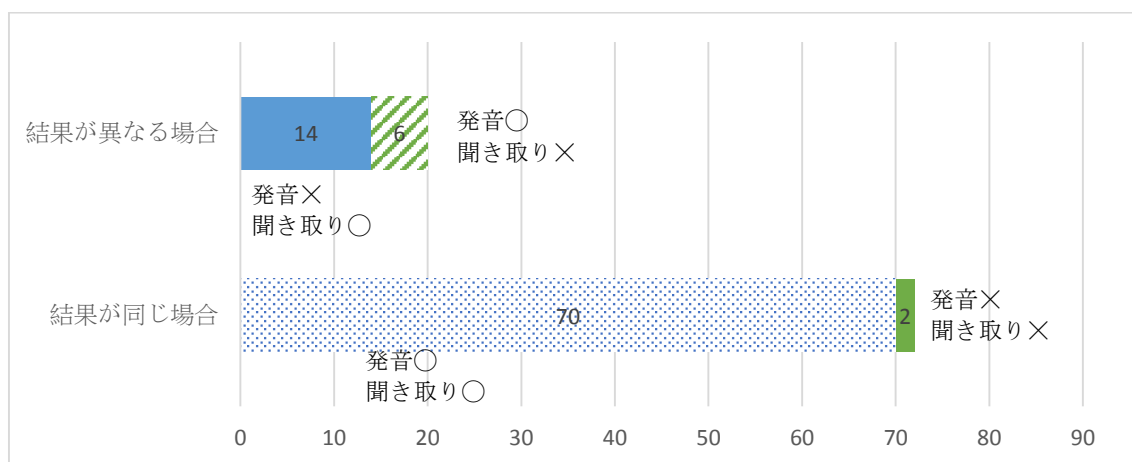


図 7-18：二拍語の平板型

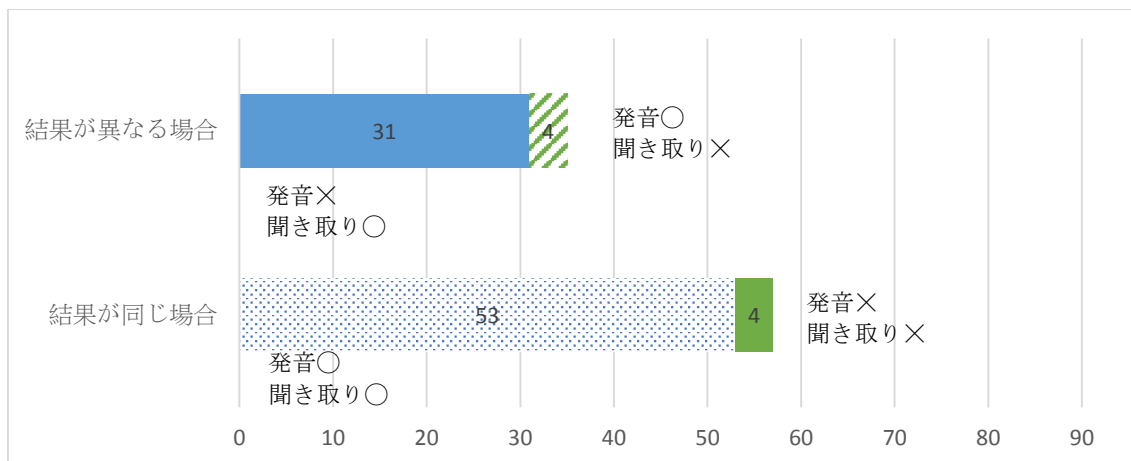
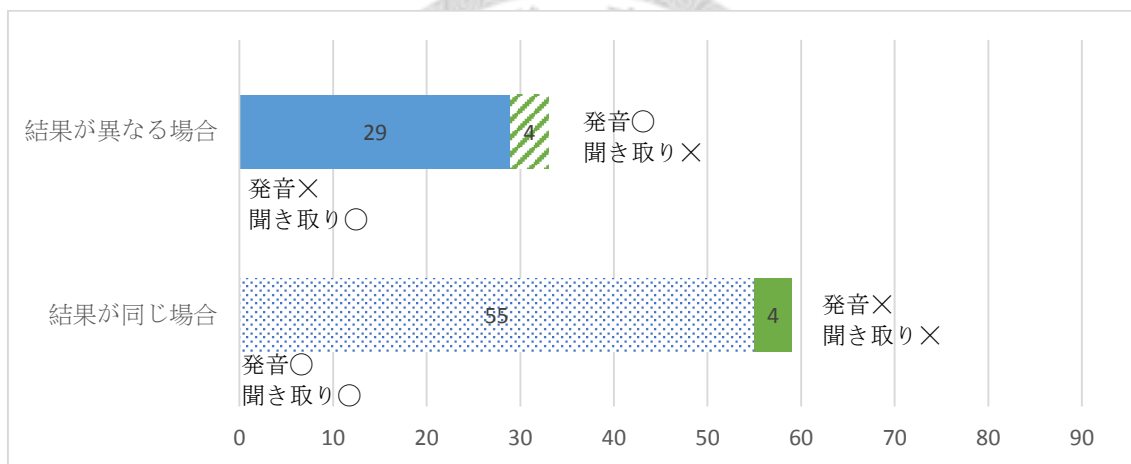


図 7-19：二拍語の尾高型



以上の図から分かるように、発音と聞き取りの結果が一致している場合は約6割~7割を占めている。二拍語の場合、発音と聞き取りの結果が一致している人数の方が一致していない人数よりも多く、発音と聞き取りは回答の傾向に関連性があると考えられる。

7.2.3 三拍語

三拍語には頭高型、平板型、中高型と尾高型の四種類のアクセント式がある。この四つのアクセント式の発音と聞き取りの関係の調査結果は、以下の表 7-7 に示す。

表 7-7：四拍語における発音と聞き取りの関係

	発音	聞き取り	人数
頭高型	○	○	60
	×	○	22
	○	×	6
	×	×	4
中高型	○	○	51
	×	○	20
	○	×	12
	×	×	9
平板型	○	○	65
	×	○	14
	○	×	9
	×	×	4
尾高型	○	○	42
	×	○	42
	○	×	3
	×	×	5

表 7-7 から観察されるように、発音と聞き取りの調査結果が一致している人数は、それぞれ頭高型が 92 人中 64 人、中高型が 60 人、平板型が 69 人、尾高型が 47 人であることが分かった。一方、一致していない人数は、頭高型が 92 人中 29 人、中高型が 32 人、平板型が 23 人、尾高型が 45 人である。以上の結果について、図を用いて見てみると以下のようなになる。

図 7-20：三拍語の頭高型

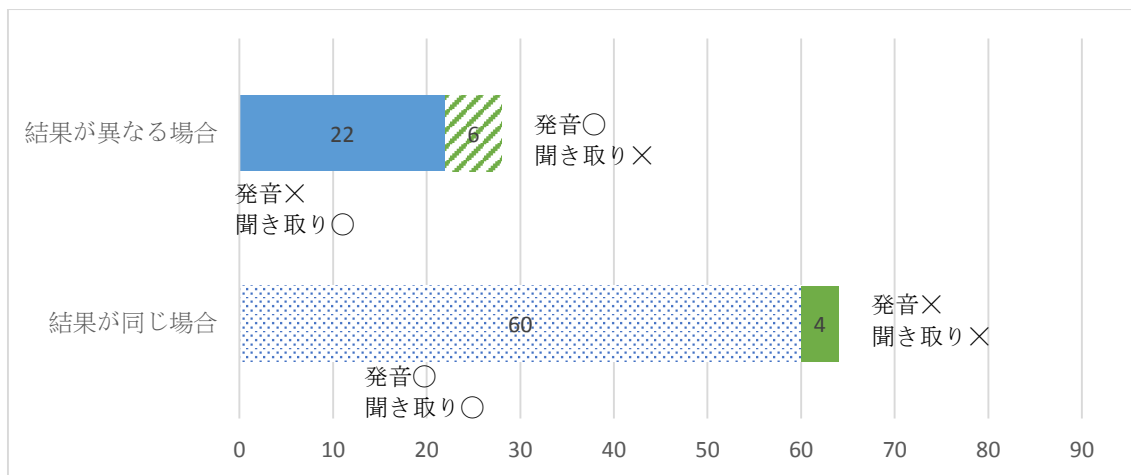


図 7-21：三拍語の中高型

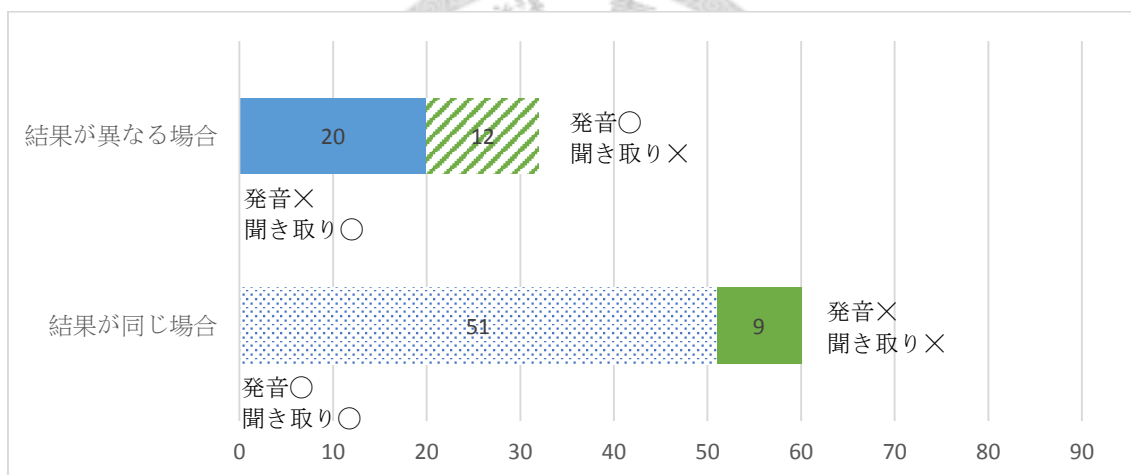


図 7-22：三拍語の平板型

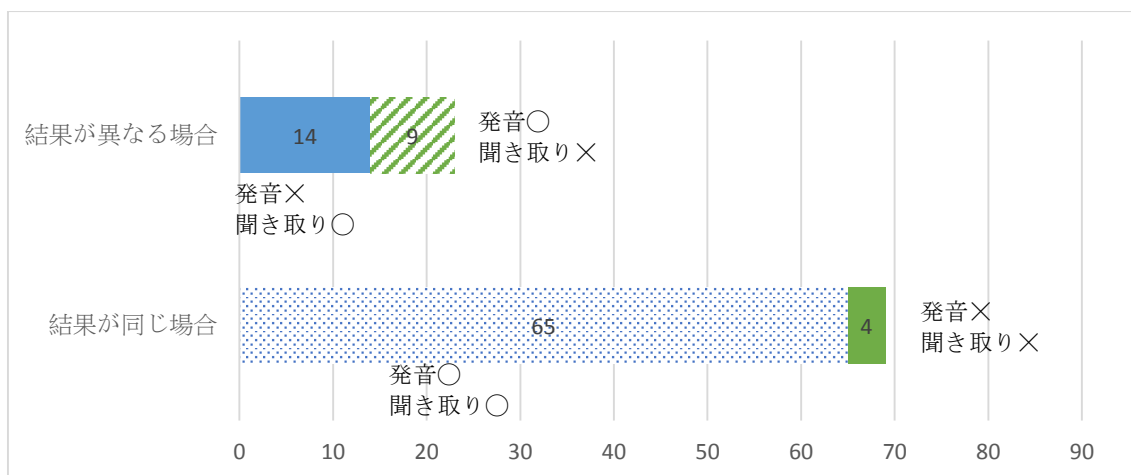
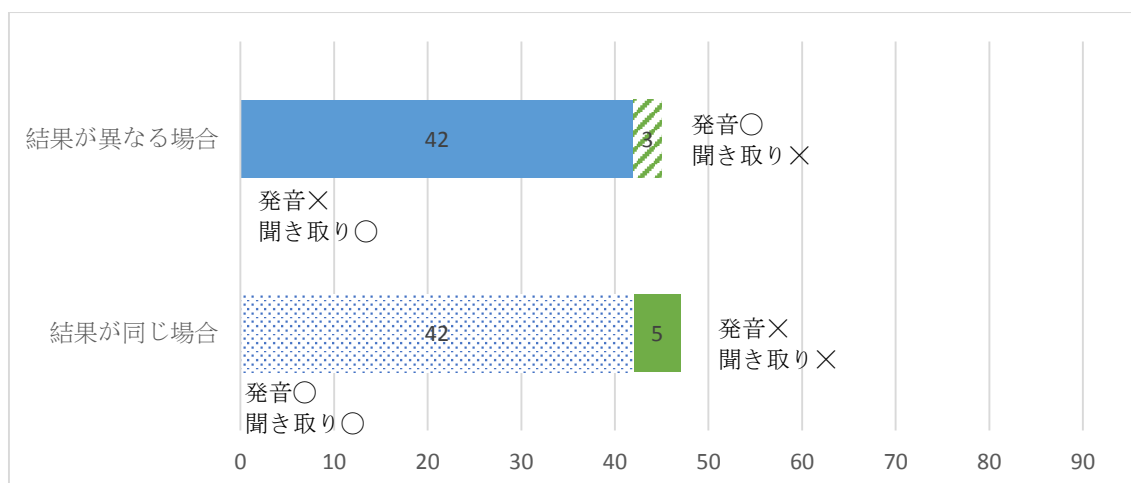


図 7-23：三拍語の尾高型



以上の図 7-20～7-23 から分かるように、三拍語の頭高型、中高型と平板型について、発音と聞き取りの結果が一致している場合は高い割合を占めており、発音と聞き取りの回答の傾向に関連性が見られることが分かった。

しかし、三拍語の尾高型については、聞き取りが正答で発音が誤答の人数が 92 人中 42 人と高い割合を占めているのが観察される。これは、第六章でも述べたが、三拍語の尾高型は「低高低」のアクセント式の形であり、台湾人日本語学習者が苦手としているアクセント式の一つである。一方、同じく「低高低」のアクセント式の形である中高型については、結果が同じ場合の方が高いのが観察される。これは、尾高型の方が中高型よりも発音にズレが生じやすいことが考えられる。以上、三拍語について、発音と聞き取りの回答の傾向に関連性は見られるものの、学習者にとってズレが生じやすいアクセント式では、関連性は非常に薄いことが伺える。

7.2.4 四拍語

四拍語は頭高型、平板型、中 2 高型、中 3 高型と尾高型の五つのアクセント式がある。この四つのアクセント式の発音と聞き取りの関係の調査結果は、以下の表 7-8 に示す。

表 7-8：四拍語における発音と聞き取りの関係

	発音	聞き取り	人数
頭高型	○	○	58
	×	○	18
	○	×	12
	×	×	4
中2高型	○	○	54
	×	○	20
	○	×	13
	×	×	5
中3高型	○	○	40
	×	○	30
	○	×	10
	×	×	12
平板型	○	○	60
	×	○	24
	○	×	5
	×	×	3
尾高型	○	○	31
	×	○	50
	○	×	3
	×	×	8

表 7-8 から観察されるように、発音と聞き取りの調査結果が一致している人数はそれぞれ頭高型が 92 人中 62 人、中 2 高型が 58 人、中 3 高型が 52 人、平板型が 63 人、尾高型が 39 人であることが分かった。一方、発音と聞き取りの調査結果が一致していない人数は、頭高型が 92 人中 30 人、中 2 高型が 33 人、中 3 高型が 40 人、平板型が 29 人、尾高型が 53 人であることが観察される。図を用いて見てみると次のようになる。

図 7-24：四拍語の頭高型

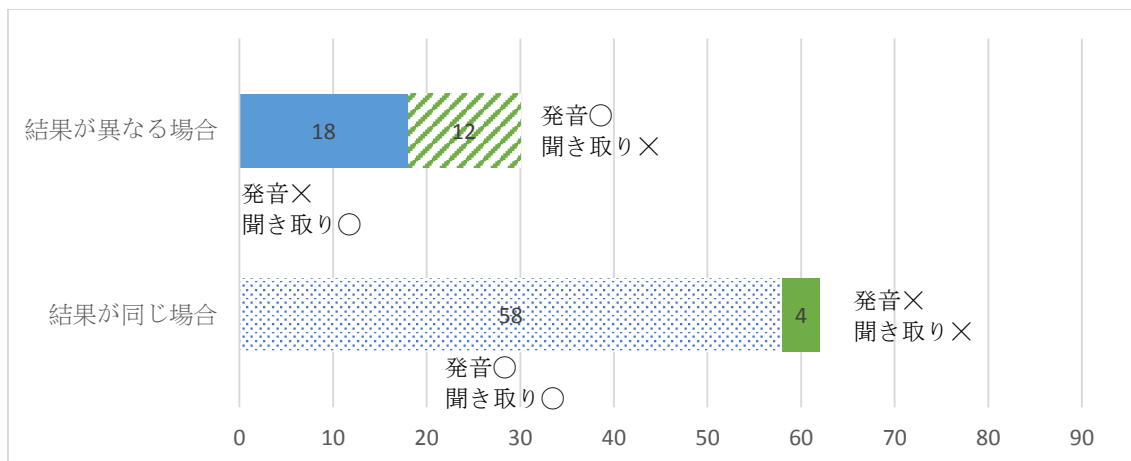


図 7-25：四拍語の中2高型

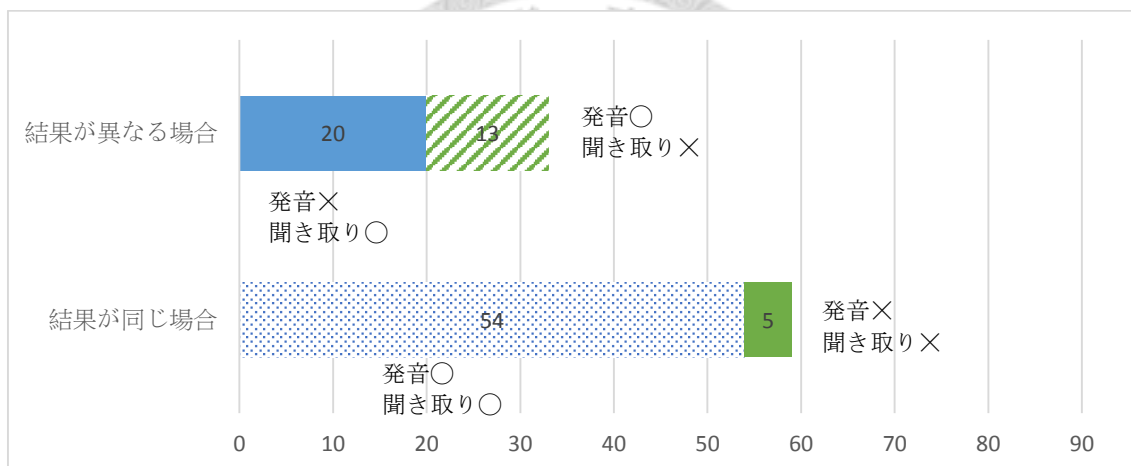


図 7-26：四拍語の中3高型

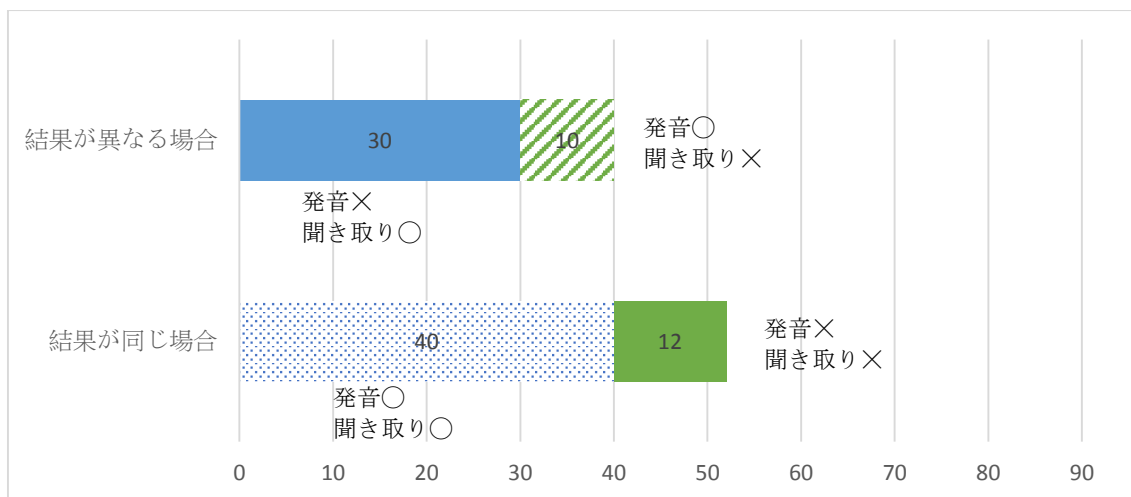


図 7-27：四拍語の平板型

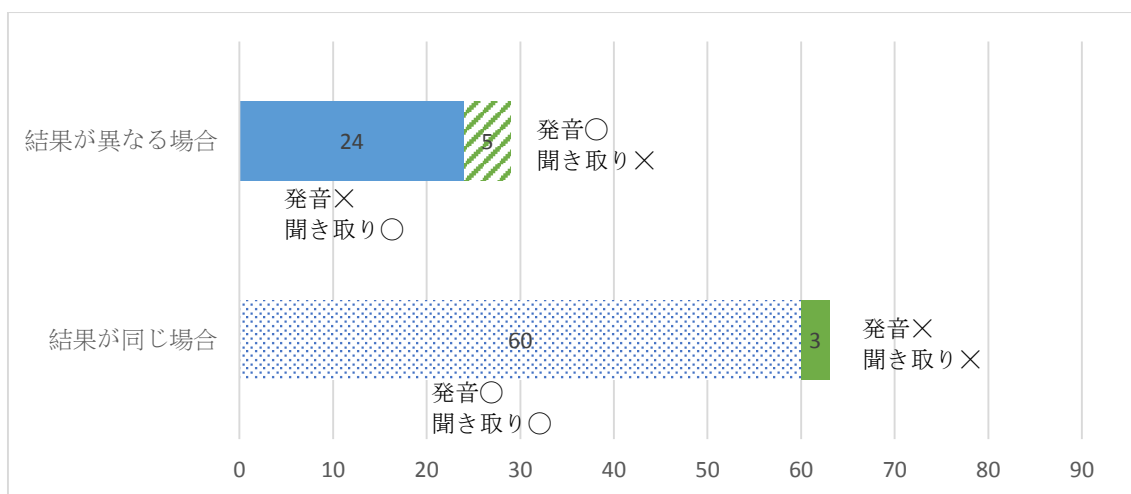
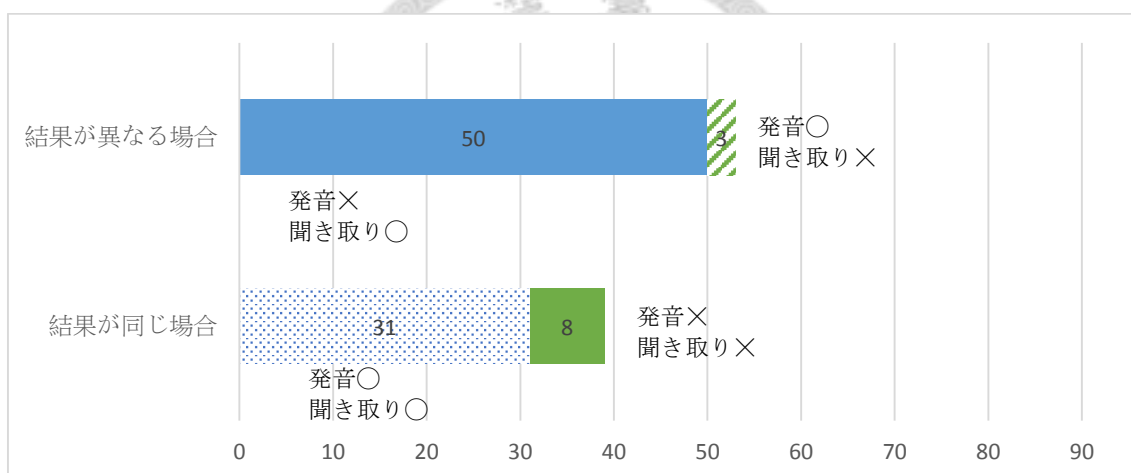


図 7-28：四拍語の尾高型



上の図から分かるように、四拍語の頭高型、中 2 高型と平板型の三つのアクセント式について、発音と聞き取りの結果が一致している場合は高い割合を占めており、発音と聞き取りの回答の傾向に関連性が見られることが分かった。

しかし、四拍語の尾高型では、発音と聞き取りの結果が一致していない人数が高い割合を占めているのが観察される。つまり、四拍語では発音と聞き取りの回答の傾向に関連性は見られるものの、中 3 高型や尾高型といった台湾人日本語学習者が苦手としているアクセント式では関連性は顕著ではないことが明らかになった。

最後に、拍数別に回答の結果が一致していない人数を見てみると、一拍語は平均 29 人、二拍語は平均 29.3 人、三拍語は平均 32.25 人、四拍語は平均 37 人である。これは、拍数が多くなるにつれて、回答の結果が一致していない人数が増加し、発音と聞き取りの関連性が薄れていくことを指摘している。

以上をまとめてみると、発音と聞き取りについて、回答の傾向に関連性は見られるものの、台湾人日本語学習者が苦手としているアクセント式では関連性は顕著ではない。また、拍数が多くなるにつれて、発音と聞き取りの関連性が薄れていくことが明らかになった。

7.3 聞き取りと読み書きの関係について

7.3.1 一拍語

一拍語は頭高型と平板型の二種類のアクセント式がある。この二つのアクセント式の聞き取りと読み書きの関係の調査結果は、以下の表 7-9 に示す。

表 7-9：一拍語における聞き取りと読み書きの関係

	聞き取り	読み書き	人数
頭高型	○	○	85
	×	○	1
	○	×	5
	×	×	1
平板型	○	○	22
	×	○	0
	○	×	69
	×	×	1

以上の表から、一拍語の頭高型は、聞き取りと読み書きの調査結果が一致している人数が高い割合を占めているのが観察される。一方、平板型では、聞き取りが正答で読み書きが誤答の人数の方が多いことが分かった。理解しやすいように図を用いて示すと以下のようなになる。

図 7-29：一拍語の頭高型

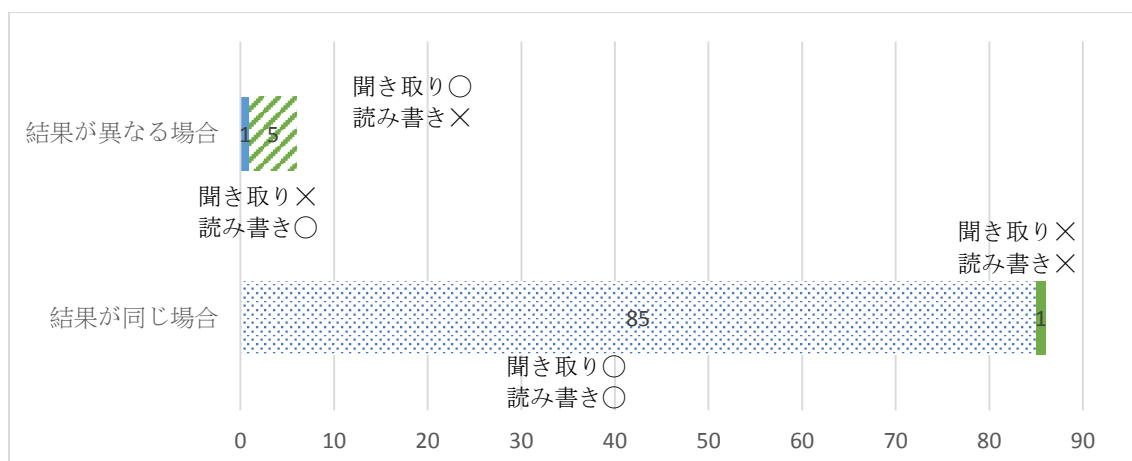
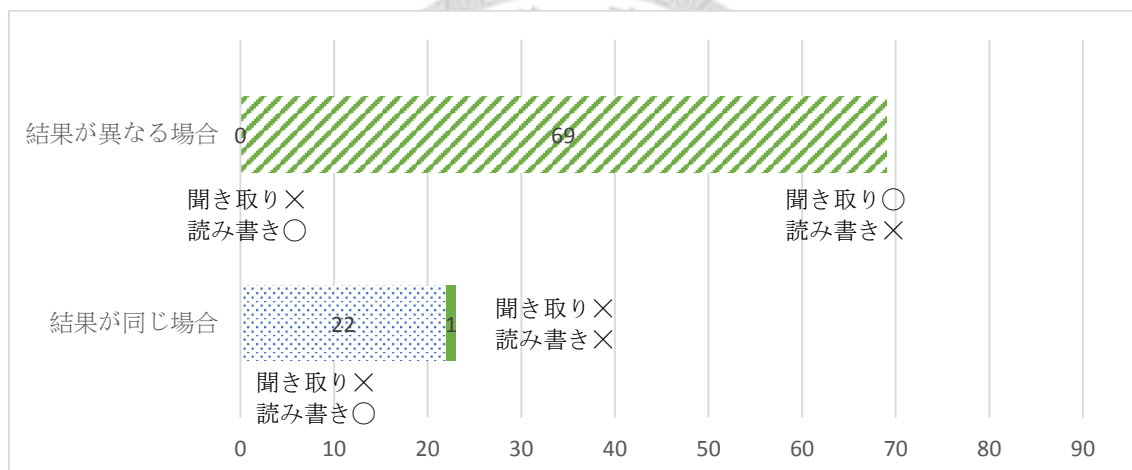


図 7-30：一拍語の平板型



以上の図から観察されるように、頭高型の場合では、聞き取りと読み書きの回答の結果が一致している人数の方が多いことが見受けられる。一方、平板型の場合では、聞き取りと読み書きの結果が一致している人数は23人で、一致していない人数は69人で、一致していない人数の方が上回った。以上のことから、聞き取りと読み書きの回答の傾向に関連性があるとは言い難い。

7.3.2 二拍語

二拍語は頭高型、平板型と尾高型の三種類のアクセント式がある。この三つのアクセント式の聞き取りと読み書きの関係の調査結果は以下の表 7-10 に示す。

表 7-10：二拍語における聞き取りと読み書きの関係

	聞き取り	読み書き	人数
頭高型	○	○	54
	×	○	4
	○	×	30
	×	×	4
平板型	○	○	40
	×	○	2
	○	×	44
	×	×	6
尾高型	○	○	31
	×	○	1
	○	×	53
	×	×	7

まず、三つのアクセント式とも、聞き取りと読み書きの結果が一致していない人数は高い割合を占めているのが観察される。(それぞれ頭高型は92人中34人、平板型は46人、尾高型は54人である。)以下に図を用いて示す。

図 7-31：二拍語の頭高型

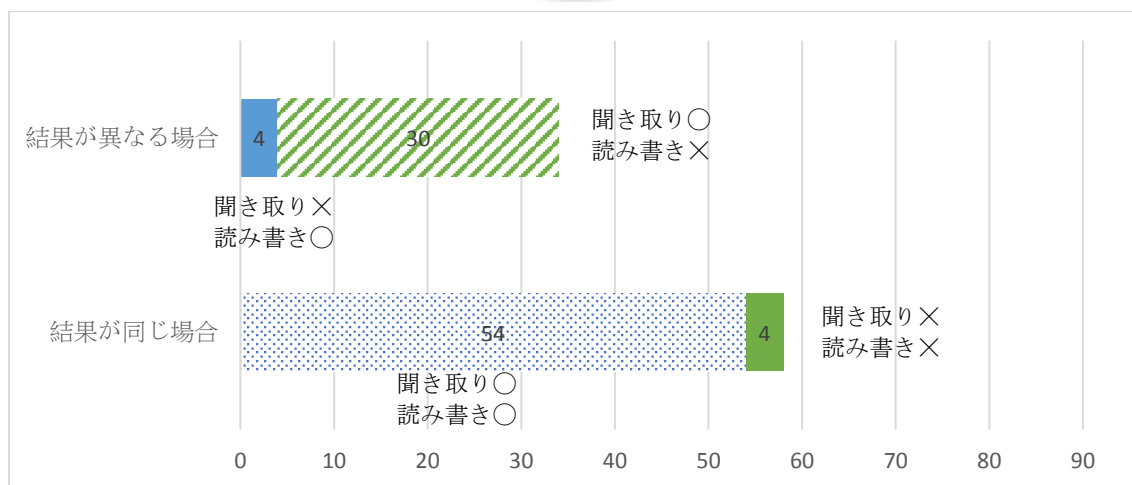


図 7-32：二拍語の平板型

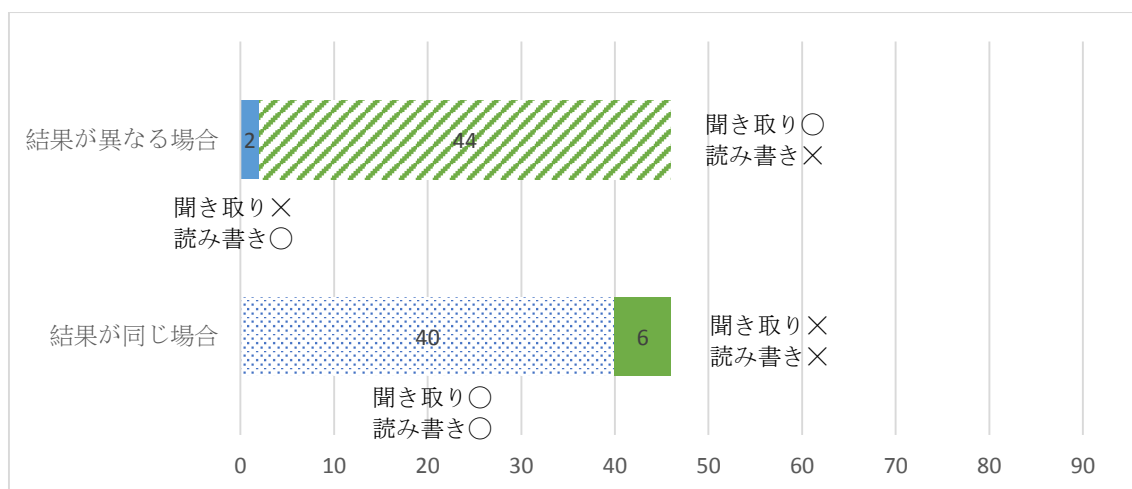


図 7-33：二拍語の尾高型

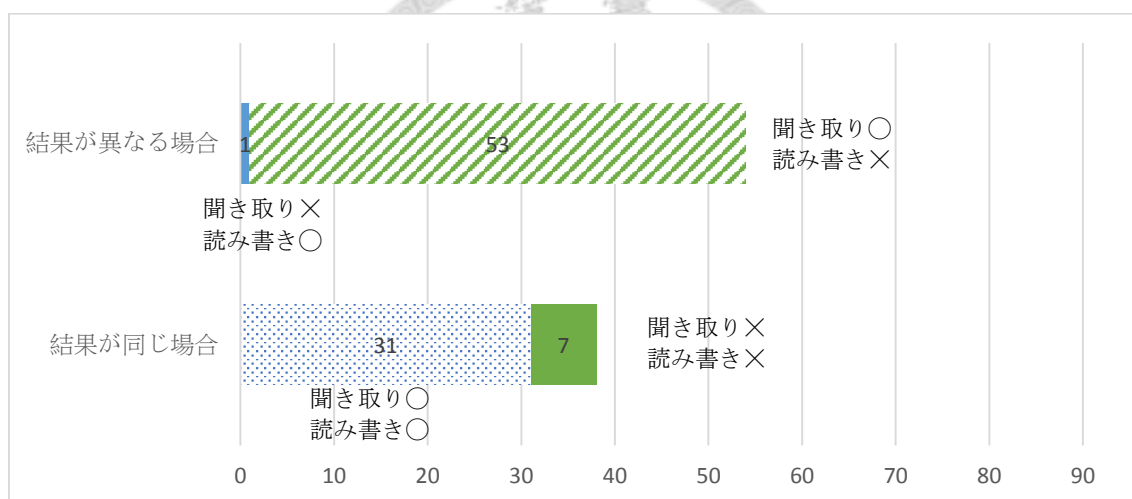


図 7-31～7-33 から分かるように、聞き取りと読み書きの結果が一致していない人数は高い割合を占めている。いずれも約 3 割～6 割であることが観察される。それに加え、二拍語の中で、聞き取りと読み書きの結果が一致していないアクセント式は三つのうち二つあり、高い割合を占めているのが観察される。

以上のことから、二拍語の場合、聞き取りと読み書きの結果が一致していない人数の方が一致している人数よりも多く、聞き取りと読み書きの回答の傾向に関連性が薄いと判断できる。

7.3.3 三拍語

三拍語には頭高型、平板型、中高型と尾高型の四種類のアクセント式がある。この四つのアクセント式の聞き取りと読み書きの関係の調査結果は、以下の表 7-11 に示す。

表 7-11：三拍語における聞き取りと読み書きの関係

	聞き取り	読み書き	人数
頭高型	○	○	42
	×	○	4
	○	×	40
	×	×	6
中高型	○	○	30
	×	○	6
	○	×	40
	×	×	16
平板型	○	○	59
	×	○	5
	○	×	20
	×	×	8
尾高型	○	○	24
	×	○	2
	○	×	60
	×	×	6

上の表 7-11 から観察されるように、聞き取りと読み書きの調査結果が一致している人数は、それぞれ頭高型が 92 人中 48 人、中高型が 47 人、平板型が 66 人、尾高型が 30 人であることが分かった。一方、一致していない人数は、頭高型が 92 人中 44 人、中高型が 46 人、平板型が 25 人、尾高型が 62 人である。以上の結果について、図を用いて見てみると以下のようなになる。

図 7-34：三拍語の頭高型

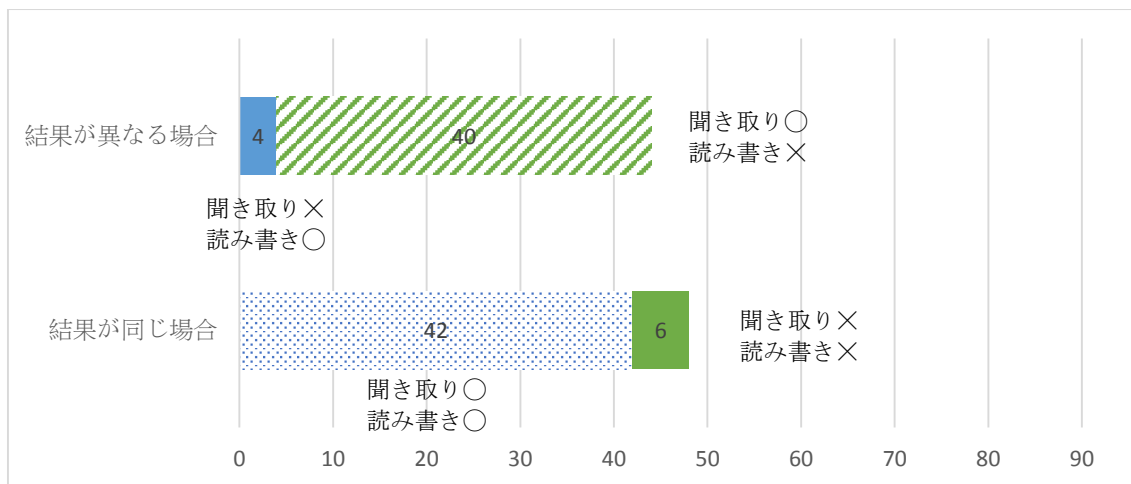


図 7-35：三拍語の中高型

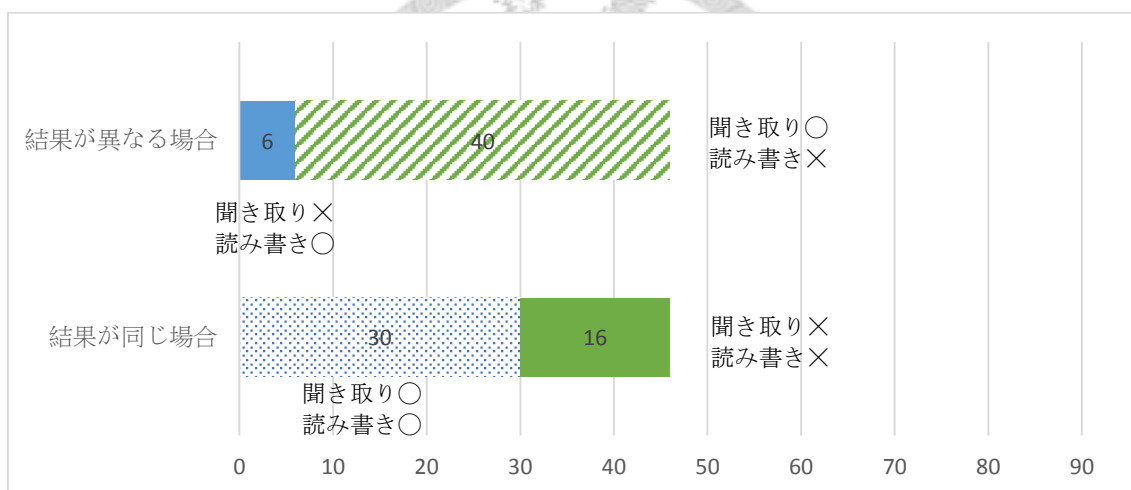


図 7-36：三拍語の平板型

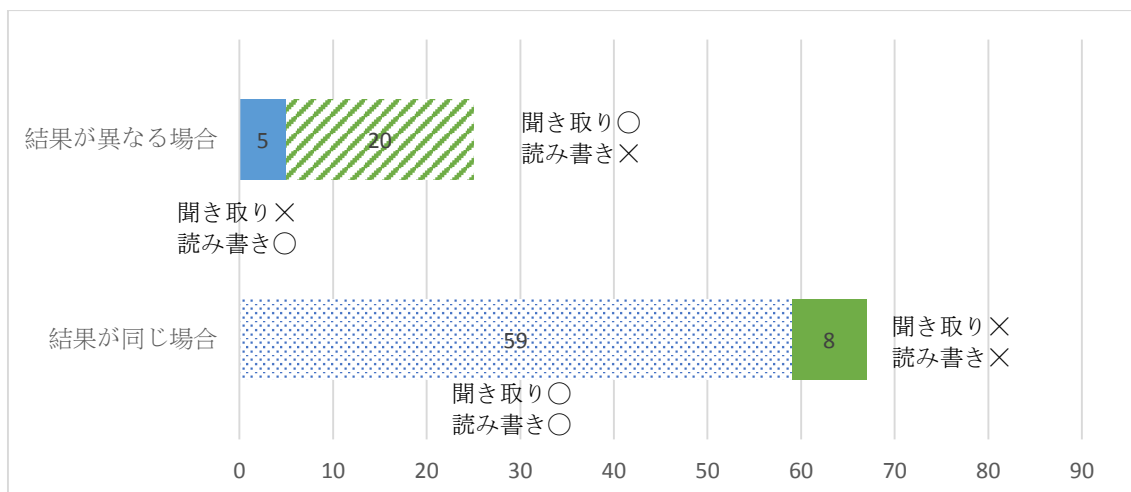


図 7-37：三拍語の尾高型

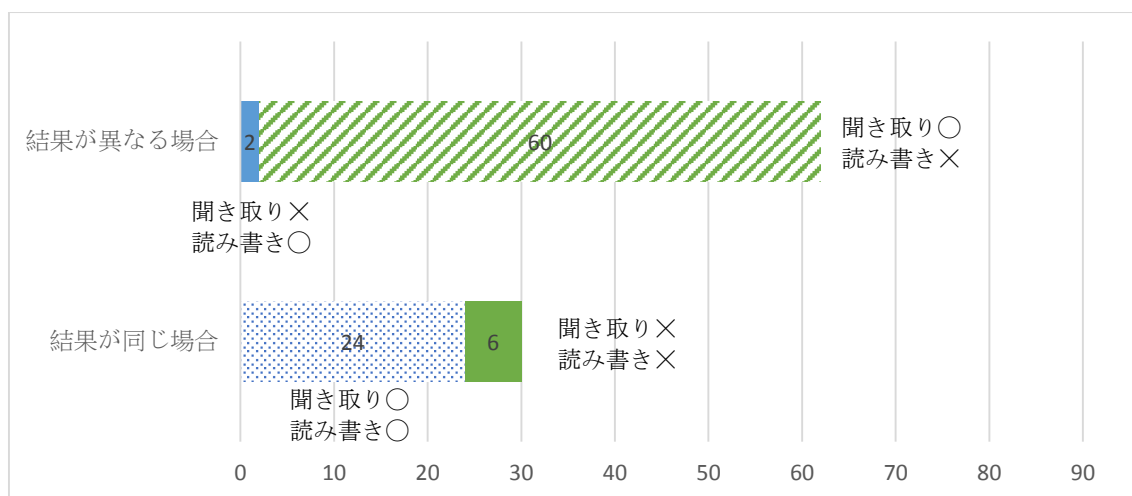


図 7-34～7-37 から分かるように、三拍語の平板型の場合、聞き取りと読み書きの結果が一致している人数の方が多くことが観察される。しかしながら、その他の頭高型、中高型と尾高型については、聞き取りと読み書きの結果が一致していない人数の方が多くことが分かった。

以上のことから、三拍語の場合、聞き取りと読み書きの結果が一致していない人数の方が一致している人数よりも多く、聞き取りと読み書きの回答の傾向に関連性が薄いという結果が得られた。

7.3.4 四拍語

四拍語は頭高型、平板型、中2高型、中3高型と尾高型の五つのアクセント式がある。この五つのアクセント式の聞き取りと読み書きの関係の調査結果は、以下の表 7-12 に示す。

表 7-12：四拍語における聞き取りと読み書きの関係

	聞き取り	読み書き	人数
頭高型	○	○	36
	×	○	3
	○	×	37
	×	×	16
中2高型	○	○	31
	×	○	4
	○	×	43
	×	×	14
中3高型	○	○	26
	×	○	3
	○	×	44
	×	×	19
平板型	○	○	53
	×	○	2
	○	×	31
	×	×	6
尾高型	○	○	21
	×	○	15
	○	×	47
	×	×	9

表 7-12 から観察されるように、聞き取りと読み書きの調査結果が一致している人数はそれぞれ頭高型が 92 人中 47 人、中 2 高型が 44 人、中 3 高型が 45 人、平板型が 59 人、尾高型が 30 人であることが分かった。一方、聞き取りと読み書きの調査結果が一致していない人数は、頭高型が 92 人中 39 人、中 2 高型が 47 人、中 3 高型が 47 人、平板型が 33 人、尾高型が 62 人であることが観察される。

以上から分かるように、四拍語では聞き取りと読み書きの調査結果が一致し

ていない人数の方が多いたことが観察される。図を用いて表示すると以下のようにになる。

図 7-38 : 四拍語の頭高型

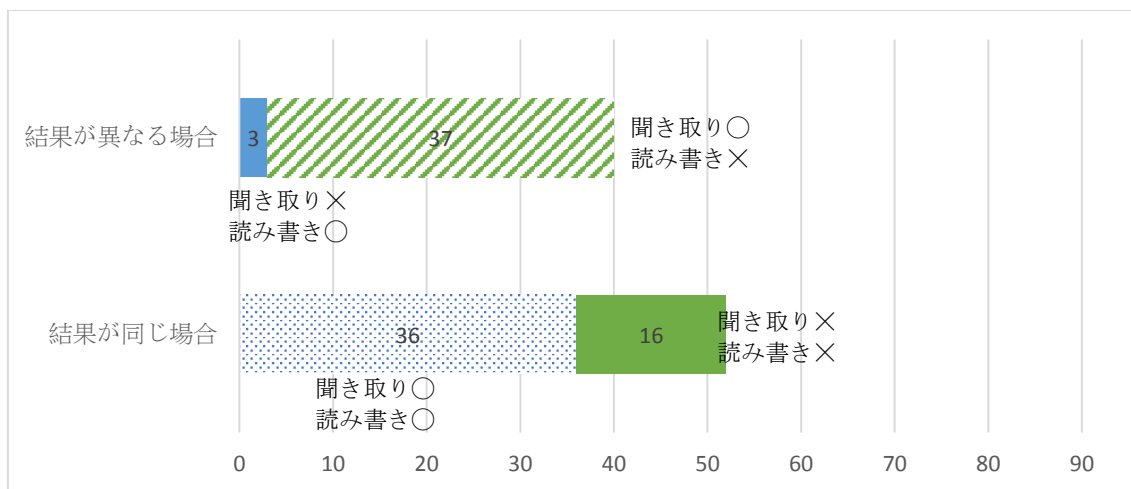


図 7-39 : 四拍語の中 2 高型

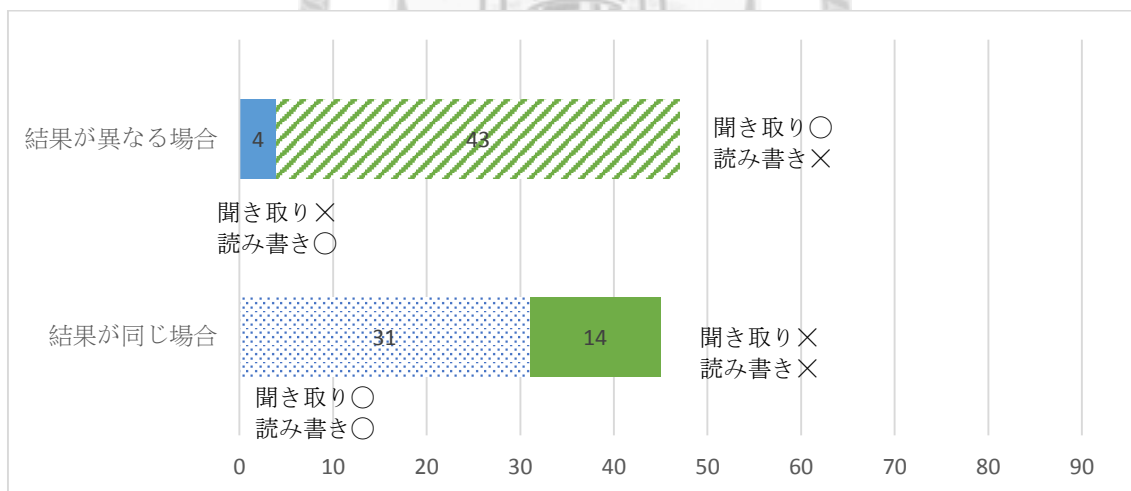


図 7-40：四拍語の中3高型

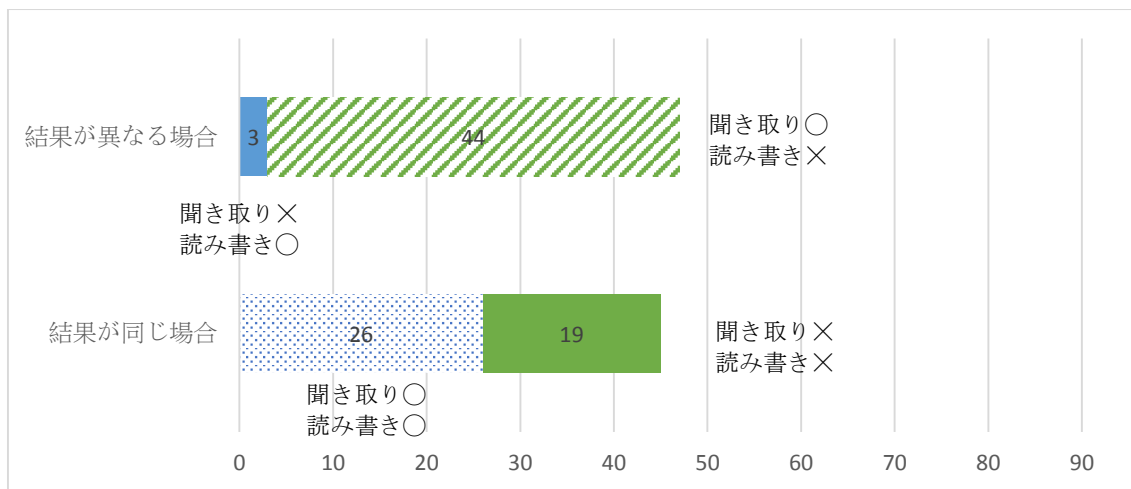


図 7-41：四拍語の平板型

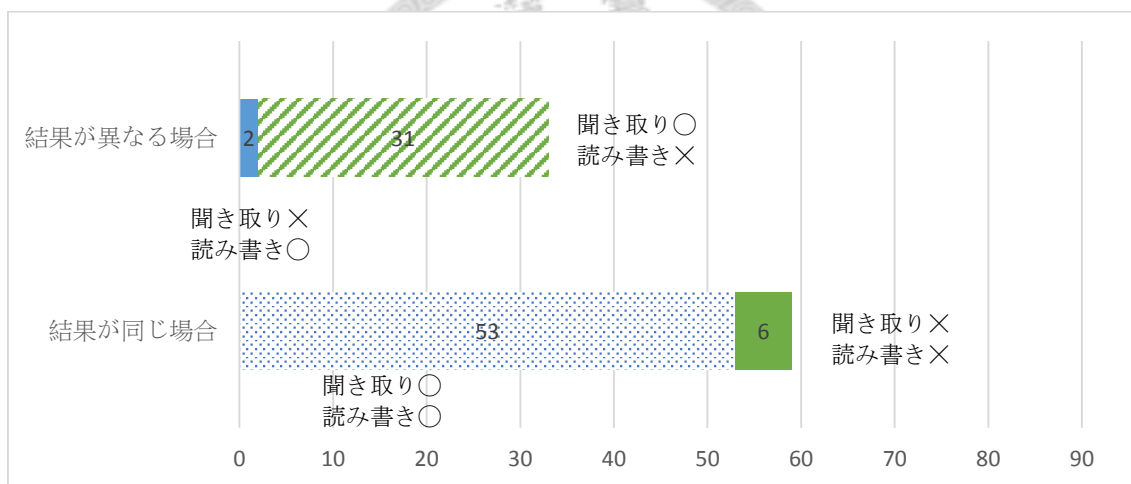


図 7-42：四拍語の尾高型

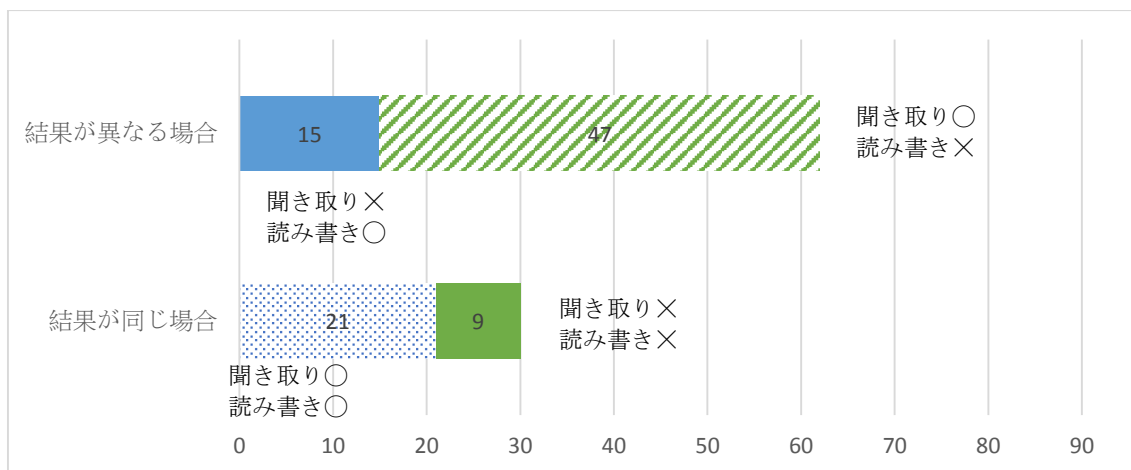


図 7-38～7-42 から分かるように、聞き取りと読み書きの調査結果が一致していない場合は約 3 割～6 割を占めているのが分かる。特に、聞き取りが正答で読み書きが誤答の場合が高く、両者の調査結果が一致していないことが分かった。聞き取りと読み書きの調査結果が一致している人数の方が高かったのは、四拍語の平板型のみであることが観察される。その他は、一致していない人数の方が高いことが分かった。

以上のことから、四拍語について、聞き取りと読み書きには関連性が薄いことが分かった。

7.4 まとめ

本章では、「発音と読み書きの関係」、「発音と聞き取りの関係」、「聞き取りと読み書きの関係」の回答の傾向に関連性はないかを検証した。

まず、「発音と読み書き」について述べたい。分析の結果、「発音と読み書き」の回答の結果が一致している人数は一致していない人数を常に上回っている。つまり、台湾人日本語学習者は発音と読み書きの際、高い割合で同じ回答をする傾向があることが分かった。これは、上記の二つの回答の傾向に関連性があることを物語っている。

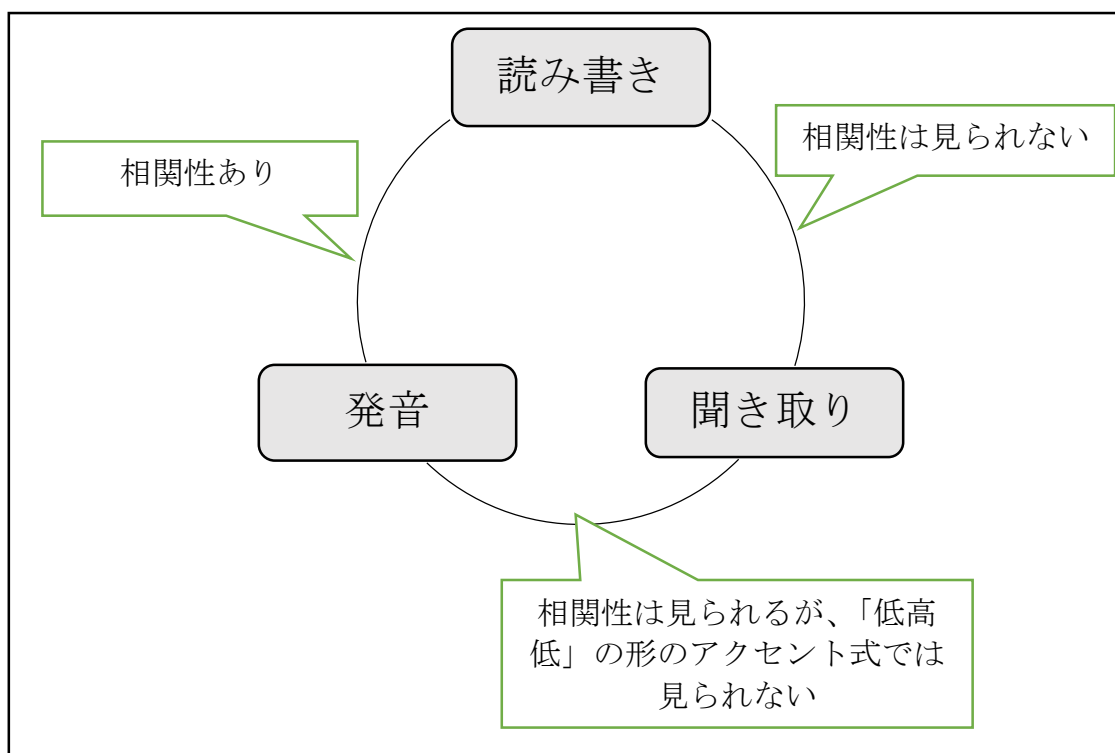
次に、「発音と聞き取り」については、回答の結果が一致している人数の方が多く見られるが、「低高低」の形のアクセント式や、台湾人日本語学習者にとって苦手なアクセント式になると、回答の結果が一致していない人数が増加し、または回答の結果が一致していない人数の方が多い場合が見られる。そのため、「発音と聞き取り」の回答の傾向に関連性は見られるが、あまり顕著でないことが明らかになった。

最後に、「聞き取りと読み書き」を見てみると、回答の結果が一致していない人数の方が多く見られる。よって、「聞き取りと読み書き」については、回答の

傾向に関連性はあまり見られないことが分かった。

以上の結果をまとめると次の図 7-43 のようになる。

図 7-43 : 読み書き、聞き取りと発音の相関性



第一章で言及した小河原 (1997) を顧みると、聞きとり能力とアクセントやイントネーション・プロミネンスにおける発音においては、有意な相関が見られたと指摘している。つまり、「音の高低」という基準を学習者はどの程度持っているかが実際のアクセントの発音に大きく関わってくるということを指摘している。また、第二章の「先行研究」で述べた鮎澤 (1998 : 71) では「習得すべき韻律パターンが聞き取れなければ、その産出は困難であり、聴取能力が韻律習得の前提条件といえるだろう」と述べている。これについては筆者も同意見を持ち、アクセントの聞き分けができなければ、アクセントの理解に欠け、その産出は困難である。

しかし、本研究で得た結果を見てみると、学習者にとって「聞き取り」は「読

み書き」と「発音」より把握できており、不一致率も3割以下に抑えているのが観察される。また、第七章から得た結果からは、聞き取りと発音では、回答の傾向に相関性は見られるが、苦手なアクセント式では相関性は薄いことが見受けられる。先述した小河原（1997）と鮎澤（1998）で言及されているように、聞きとり能力はアクセントの発音に大きく関わっていることや、聞きとり能力は韻律習得の前提条件であることは否めないが、より深く探求すると、アクセントの聞き分けができないとその産出は難しいが、聞き分けができて産出が出来るとは限らない、という結果が本研究で明らかになった。つまり、アクセントの聞き取り能力はアクセントの発話の最低必要条件であることが言える。



第八章 まとめ及び今後の課題

8.1 まとめ

まず、第一章第一節で述べたように、鮎澤（2004：4）は「学習者の習得困難点について、単語ごとのアクセント式を覚えるのが難しいのか、アクセント式を聞き取ることが難しいのか、アクセントを生成するのが難しいのかを区別し、このような共通する問題点について整理しなければならない。」というように述べている。筆者はこれと同じ意見を持ち、本研究では、台湾人日本語学習者のアクセントの能力を支える三つの要因（それぞれ読み書き能力、聞き取り能力、発音能力）からアクセントの傾向について考察してみた。台湾北部の計92人の学習者から得た調査結果を、属性別に分けて分析・検討した。本研究によって明らかになった結論を以下に要約する。

第四章では学習者のアクセントにおける読み書きについて論じた。台湾人日本語学習者におけるアクセントの知識・読み書き能力についての先行研究はほとんど見当たらないようで、本研究はその第一歩として着手した。本章で分かったことは、アクセントの読み書きの場合、学習歴が長くなるにつれて不一致率が低くなる傾向があると見受けられる。しかし、二年生と四年生の差は顕著ではなく、不一致率が5割以上のアクセント式が多数ある。一方、院生になると不一致率は比較的低くなり、不一致率が4割以下に留まっているのが多く見られる。また、性差から見た結果については、男子学生と女子学生の読み書きの傾向は類似しており、相違は顕著ではないことが分かった。そして、留学経験の有無別から見た結果について、留学経験のある院生の不一致率は留学経験のない院生より低いことが見受けられる。一拍語と二拍語では、両者に顕著な差は見られないが、三拍語と四拍語になると、留学経験のある院生の不一致率が下回っているのが観察される。一方、読み書きの場合では、拍数ではなく、アクセント式の方が台湾人日本語学習者にとって影響が大きいことが分かった。属性によって不一致率に違いはあるものの、巨視的に見て、いずれも「低高低」の形であるアクセント式、つまり中高型と尾高型にズレが集中していることが分かった。これは、

台湾人日本語学習者は「低高低」のアクセント式を苦手としていることを意味している。また、台湾人日本語学習者は読み書きの際、高い割合で平板型と書く傾向が明らかになった。(詳しくは表 4-2 を参照されたい。)

次に、第五章では学習者のアクセントにおける聞き取りについて論じた。その結果として、次のようなことを指摘することが出来る。まず、学習歴別に見てみると、学習歴が長くなるにつれて、聞き取りの不一致率が低くなることが分かった。それに加え、いずれも不一致率が約 3 割以下で、台湾人日本語学習者の聞き取りについて、顕著な問題は見られない。性差から見た研究結果について、若干男子学生の方が女子学生より不一致率が低いことが分かった。それほど顕著ではないが、全体的に 1 割ほど男子学生の方が女子学生より不一致率が低いのが観察される。そして、留学経験の有無別から見た結果については、留学経験の有無に関係なく、不一致率を 1 割程度に抑えており、顕著な相違は見られない。また、属性によって不一致率に違いはあるものの、巨視的に見て、台湾人日本語学習者の聞き取りに影響する要素は、第一に拍数、第二にアクセント式であることが分かった。つまり、拍数が増えるにつれて不一致率が高くなり、また、同じ拍数の中でとりわけ「低高低」のアクセント式の把握が弱いことが明らかになった。最後に、聞き取りの傾向について述べると、二年生の場合では、第一音節と第二音節のピッチの違いを聞き分けるのが難しいのが観察される。四年生になるとこの現象は緩和し、院生になるとピッチの上昇部分を聞き分けることができるが見受けられる。しかし、前述したように、台湾人日本語学習者の聞き取り能力は顕著な問題はなく、誤答率を低く抑えているのが観察される。第二章第二節の「先行研究」で述べた潘 (2003 : 15) を顧みると、「台湾人日本語学習者における日本語アクセントの知覚上の特徴はピッチ曲線によって示される音響的最高点及びその最高点を含む近隣にある。そして、ピッチの下降のタイミングを正確に把握しきれないため、最高点の近隣に下降もマークをつける」というように指摘している。この点に関しては、先述したように、本章の研究結果では、台湾人日本語学習者の聞き取りに最も影響を与えるのは、第一に拍数で、第二にアクセント式であることが分かった。詳しく見てみると、学習者は聞き取りの際「低高

低」の形であるアクセント式、つまり中高型と尾高型にズレが集中していることが明らかになった。つまり、これは潘（2003）が述べた「台湾人日本語学習者における日本語アクセントの知覚上の特徴はピッチ曲線によって示される音響的
最高点及びその最高点を含む近隣にある。」と同じ結論を表しているのが分かる。

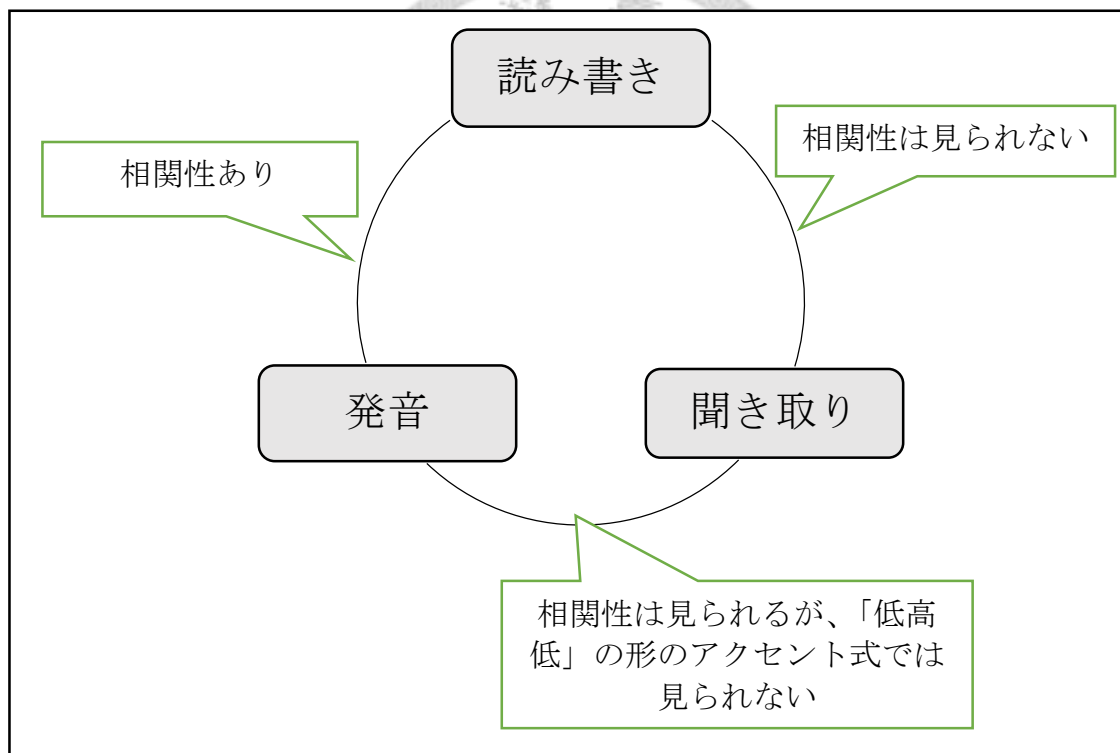
第六章では、台湾人日本語学習者の発音について考察した。学習歴別に見てみると、学習歴が長くなるにつれて、発音の不一致率が低くなることが分かった。また、第四章の「読み書き」と同じように、発音の場合について「低高低」のアクセント式に対して発音の際、ズレが生じやすいことが検証できた。性差から見た結果については、男子学生と女子学生のグラフの形は類似しており、明白な顕著な違いは見られない。留学経験の有無別から見た結果について、単語のみの場合では、四拍語の中 3 高型は、留学経験のない院生の方が留学経験のある院生よりも不一致率が高いことが観察される。それ以外のアクセント式では、留学経験のある院生と留学経験のない院生のアクセントに相違は見られない。また、短文に入れた場合を見てみると、留学経験のある院生は留学経験のない院生に比べ、全体的に不一致率が低いことが分かった。第二章第三節の「先行研究」で述べたように、発音に関しての先行研究は少なくないが、結果から見れば食い違いが多く見られる。本章では台湾人日本語学習者における発音の傾向について再検討した。結果は以下のように指摘できる。学習者は高い割合で、一拍語の平板型を頭高型と発音し、三、四拍語の尾高型を平板型と発音する傾向が見られる。また、その他のアクセント式については、2割～4割の割合でアクセントの核にズレが生じる。（詳しくは表 6-1 と 6-2 を参照されたい。）

最後に、第七章では、「読み書き」、「聞き取り」、「発音」の三つの項目を「発音と読み書きの関係」、「発音と聞き取りの関係」、「聞き取りと読み書きの関係」のように二つずつに組んで、それぞれ回答の傾向に関連性はないか検証した。まず、「発音と読み書き」について分析した結果、「発音と読み書き」の回答の結果が一致している人数は一致していない人数より多いことが観察される。拍数やアクセント式別に関係なく、回答の結果が一致している人数のほうが多い。これ

は、上記の二つの回答の傾向に関連性があることを物語っている。次に、「発音と聞き取り」については、回答の結果が一致している人数の方が多く見られるが、「低高低」の形のアクセント式になると、回答の結果が一致していない人数が増加し、時には回答の結果が一致していない人数の方が多い場合が見られ、上記の二つに関連性はあるが、あまり顕著でないことが明らかになった。最後に、「聞き取りと読み書き」を見てみると、回答の結果が一致していない人数の方が多く、「聞き取りと読み書き」では、回答の傾向に関連性は見られないことが分かった。

以上の結果を図で示すと次のようになる。

図 8-1：読み書き、聞き取りと発音の相関性



そこで、第一章で言及した小河原（1997）によると、聞きとり能力とアクセントやイントネーション・プロミネンスにおける発音においては、有意な相関が見られたと指摘している。また、第二章の「先行研究」で述べた鮎澤（1998：71）では「習得すべき韻律パターンが聞き取れなければ、その産出は困難であり、聴取能力が韻律習得の前提条件といえるだろう」と言及している。そして、本研究

で得た結果を見てみると、学習者にとって「聞き取り」は他の項目と比べ把握できており、不一致率も3割以下になっているのが観察される。また、第七章から得た結果からは、聞き取りと発音では、回答の傾向に相関性は見られるが、苦手なアクセント式では相関性は極めて薄いことが見受けられる。先述した小河原（1997）と鮎澤（1998）と照らし合わせると、以下のようなことが言える。アクセントの聞き分けができないとその産出は難しいが、聞き分けができて産出が出来るとは限らない、という結果が本研究で明らかになった。つまり、アクセントの聞き取り能力はアクセントの発話の最低必要条件である。

8.2 今後の課題

本研究は、台湾人日本語学習者のアクセントに関わる三つの要因（それぞれ読み書き、聞き取り、発音）を考察してきた。それぞれ各属性に分けて分析し、回答の傾向を明らかにした。しかし、本研究では解決されていない問題は多々残っており、今まで以上に再認識し検証していく必要がある。以下に、今後の考究を委ねなければならない重要な課題について述べておきたい。

まず、本研究では三つの属性（それぞれ学習歴別、性差、留学経験の有無別）しか検討しておらず、他の属性も考慮に入れる必要があると思われる。学習者の学習動機、学習環境や多言語使用者¹¹であるかなどといった学習者の背景的な要素も取り入れるなど、より細かく設定する必要性が強く求められる。

さらに、実験語に関しては、本研究は名詞しか扱っておらず、形容詞や動詞、または活用形なども取り入れることが今後の課題の一つに挙げられる。また、1拍語～4拍語のみならず、5拍語以上の語彙も調査が必要だと考えられる。

次に、二年生の男女別による発音において、本研究では一定な傾向は見られなかった。これについては、学習環境や個人差などといった学習者の背景も考慮に入れて、再分析する必要があると考えられる。また、読み書きについて、二年生

¹¹ 台湾は多言語社会で、共通語の北京語以外にも閩南語や客家語が使用されている。

男子学生は女子学生より不一致率が低いですが、その原因についてなお究明を要とする。これについては、先行研究がないため比較できないが、今後また、より詳しく調査して行きたい。そして、本研究で取り上げた留学経験の有無別の調査対象は院生のみで、他の学年の調査はしていない。今後は更に調査対象や属性を増やして、詳しく検証したい。

今後、台湾人日本語学習者のアクセント研究を発展させるには、更なる研究が必要であると考えられる。最後に、この方面の検討を進めるとともに、後述のような課題を発音の研究の一つの重要な論点として今後の究明が待たれるところである。

本研究では、学習者が知っている単語、つまり馴染み度の高い実験語を用いて調査を行った。しかし、今後は学習者が知らない単語についても調査し、台湾人日本語学習者の語彙アクセントの直感的な予測を明らかにしたい。学習者自身の判断で未知の語彙のアクセントを推測する。こうすることで、学習者が持っているアクセントへの予測・感覚が明らかになると思われる。

さらに、今後は日本語母語話者も調査の対象に取り入れて、台湾人日本語学習者と比較をする必要があると思われる。あるいは、他の母語話者の学習者も取り入れて比較する余地が残されている。

以上の諸問題点に関する考察を今後の課題として考究していきたい。

参考文献（五十音順）

- 鮎澤孝子 (1998) 「日本語学習者にとっての東京語アクセント」『月間言語』第 27 号 (1)、p. 70-75
- 鮎澤孝子 (2004) 「音声教育の研究と実践」早稲田大学第二回日本語教育と音声研究会
- 磯村一弘 (1966) 「アクセント式の意識化が外国人日本語学習者の韻律に与える影響」『日本語国際センター紀要』第 6 号、国際交流基金日本語国際センター、p. 1-18
- 上野和昭 (2003) 「日本語アクセント史研究とアクセント観」『音声研究』第 7 巻第 1 号、日本音声学会、p. 47-57
- 小河原義朗 (1997) 「発音矯正場面における学習者の発音と聴き取りの関係について」『日本語教育』第 92 号、p. 83-94
- 郭獻尹 (2007) 「台湾における日本語音声教育の調査－南部地区の非専攻学習者を中心に－」『南台科技大学応用日語研究所修士論文』
- 郭獻尹 (2008) 「台湾人日本語学習者に対する日本語音声教育の考察－台湾国内における日本語音声教育の現状をめぐって－」『2008 年日語教育與人文觀光國際學術研討會』、義守大學應用日語學系
- 郭獻尹 (2011) 「日本語音声習得段階論における指導項目の再考」『台湾日語習得研究國際學術研討會』、東吳大学 LARP at SCU 研究工作坊 (五)
- 木部暢子 (2010) 「方言アクセントの誕生」国語研プロジェクトレビュー第 2 号、国立国語研究所
- 蔡茂豊 (1977) 「中国人の日本語における音声教育」『東吳日本語教育』第 2 号、p. 4-117
- 定延利之 (2004) 「音声コミュニケーション教育の必要性和障害」『日本語教育第 123 号』日本語教育学会
- 佐藤友則 (1995) 「単音と韻律が日本語音声の評価に与える影響力の比較」『世界の日本語教育』第 5 号、国際交流基金

- 佐藤友則 (2000) 「日本語学習経験と音声評価基準との関連性について」『信州大学留学生センター紀要』第1号
- 謝逸朗 (2000) 『中国人日本語学習者における日本語学習上の諸問題—台湾人日本語学習者を中心に—』、桜花村出版社
- 高井収 (1995) 「外国人にことばを教える」『言語センター広報』第3号、小樽商科大学言語センター
- 田中真一、窪園晴夫 (1999) 『日本語の発音教室—理論と練習—』くろしお出版
- 張雪玉 (1996) 「台湾人日本語学習者のアクセントについて—非日本語専攻者の場合—」『日中言語文化比較研究』第4号
- 戸田貴子 (2003) 「外国人学習者の日本語特殊拍の習得」『音声研究』第7巻2号、日本音声学会、p. 70-83
- 轟木靖子・山下直子 (2009) 「日本語学習者に対する音声教育についての考え方—教師への質問紙調査より—」『香川大学教育実践総合研究』第18号
- 潘心瑩 (2003) 「台湾人における日本語アクセントの知覚—音響音声学的観点から—」『言語学論叢』第22号、筑波大学
- 潘心瑩 (2010) 「北京語の声調特徴から予測する北京語話者におけるアクセント習得の問題点」言語学論争オンライン版第3号、p. 18-32
- フォード丹羽順子 (1996) 「日本語学習者による聴解ディクテーションに現われた誤りの分析—文法及び音声的側面に焦点を当てて—」『筑波大学留学生センター 日本語教育論集』第11号
- 福井貴代美 (2007) 「日本語学習者の発音能力に関する一考察」『早稲田大学日本語教育研究』第10号
- 前川喜久雄 (2009) 「日本語学習者音声研究の課題」『日本語教育』第142号
- 楊曉安 (2006) 「中日の語音と文法・語義との関係」『北海道文教大学論集』第7号
- 楊文瑾 (2011) 「台湾人日本語学習者のアクセント—アクセントの実態・習得に関わる要因・教育への要望—」『方言・音声研究』第5号、方言音声研究会

林嘉惠 (2010) 「中・上級日本語学習者への音声教育－東海大学日本語文学系を例に－」『2010年台湾日本語習得研究国際シンポジウム予稿集』東呉大学外国語文学院日本語文学系

楼晶晶 (2009) 「中国人日本語学習者の標準語アクセントと関西アクセント」『方言・音声研究』第2号、方言音声研究会



附録

<資料1>小調査の調査文

野生の鷹は怖いですね。人慣れた鷹だといいいんですけど。
耳元で呼ぶのはやめて下さい。耳元で呼ぶと怒りますよ。
死ぬのが怖いです。誰でも死ぬときは来ます。
寒くなりましたね、焚き火でもしますか？焚き火をしながら話しましょう。
薦める本があったら教えてください。あなたが薦める本を読みますよ。
授業が始まるよ。どうしよう。宿題やっていないのに授業が始まるよ。
すみません。冷たいお水を下さい。それと冷たいうどんもおかわりお願いします。
夏休みは海に行かないとね！海で焼肉しよう！
明日の試験は日本の地理と、東洋の地理だ！地理は得意科目だから大丈夫！
箸の持ち方はわかりますか？このような箸の持ち方はダメですよ。
大きな波が来るぞ！波に飲み込まれるな！
寿司が食べたいな、それとも自分で寿司を作っちゃう？
私は味が濃いラーメンが好きなの、特に濃いスープに目がないんです。
都会の空気は汚いな、村の空気とぜんぜん違う。
明日のテスト相当難しいらしいよ。もしテスト不合格だったらどうしよう。
この鏡どう？綺麗でしょう。前からこの鏡が欲しかったの。
この店の刺身おいしいよ。新鮮な刺身なんて久しぶりでしょ。
これは旨い！こんなに旨い納豆食べたことがない！本当に旨いよ！
歩く時は物を食べない。歩く時はきちんと歩く！
給料が低い、地位が低い、そして僕の背も低いです。
明日韓国へ行くんです。そこへついたら韓国のお土産買ってきます。
遠足に持って行くおにぎりを作っています。何個のおにぎりが必要だと思いますか？
小学生の算数も解けないなんてダメですよ。算数の次は数学が待っています。

<資料 2> 小調査の各被験者の調査結果

被験者 1

実験語	単語のみ	短文（一個目）	短文（二個目）	NHK
鷹	●○	●○	●○	○●
呼ぶ	○●	●○	●○	○●
死ぬ	○●	●●	○●	○●
焚き火	○●●	○●●	○●●	○●●
薦める	○●●○	○●●○	○●●●	○●●●
始まる	○●●○	○●●○	○●●●	○●●●
冷たい	○●●○	○●●○	○●●○	○●●●
海	●○	●○	●○	●○
地理	●○	●○	●○	●○
箸	○●	○●	●○	●○
波	○●	○●	○●	○●
寿司	●○	●○	●○	○●
濃い	●○	●○	○●	●○
空気	●○○	●○○	●○○	●○○
テスト	●○○	●○○	●○○	●○○
鏡	○●●	○●●	○●●	○●●
刺身	○●●	○●●	○●●	○●●
歩く	○●○	○●○	○●○	○●○
旨い	○●○	○●○	○●○	○●○
低い	○●○	○●○	○●○	○●○
韓国	●○○○	●○○○	○●●●	●○○○
おにぎり	○●●●	○●●●	○●●●	○●○○
算数	●○○○	○●●●	●○○○	○●●○

注：○は低い音節、●は高い音節を示す。

被験者 2

実験語	単語のみ	短文（一個目）	短文（二個目）	NHK
鷹	○●	○●	○●	○●
呼ぶ	●○	●○	●○	○●
死ぬ	○●	●○	○●	○●
焚き火	○●●	○●●	○●●	○●●
薦める	○●●○	○●●●	○●●●	○●●●
始まる	○●●○	○●●○	○●●○	○●●●
冷たい	○●●○	○●●○	○●●○	○●●●
海	●○	●○	●○	●○
地理	●○	●○	●○	●○
箸	●○	●○	●○	●○
波	○●	●○	●○	○●
寿司	○●	●○	○●	○●
濃い	●○	●○	●○	●○
空気	●○○	●○○	●○○	●○○
テスト	●○○	●○○	●○○	●○○
鏡	○●●	○●●	○●●	○●●
刺身	○●●	○●●	○●●	○●●
歩く	●○○	○●●	○●●	○●○
旨い	○●○	○●○	○●○	○●○
低い	○●○	○●○	○●○	○●○
韓国	●○○○	●○○○	●○○○	●○○○
おにぎり	○●○○	○●○○	○●●●	○●○○
算数	○●●●	○●●●	○●●○	○●●○

注：○は低い音節、●は高い音節を示す。

被験者 3

実験語	単語のみ	短文（一個目）	短文（二個目）	NHK
鷹	●○	●○	●○	○●
呼ぶ	●○	●○	○●	○●
死ぬ	○●	○●	○●	○●
焚き火	○●●	○●●	○●●	○●●
薦める	○●●○	○●●○	○●●●	○●●●
始まる	○●●○	○●●○	○●●○	○●●●
冷たい	○●●○	○●●○	○●●○	○●●●
海	○●	●○	●○	●○
地理	●○	●○	●○	●○
箸	●○	●○	●○	●○
波	○●	○●	○●	○●
寿司	●○	●○	●○	○●
濃い	●○	●○	●○	●○
空気	●○○	●○○	●○○	●○○
テスト	●○○	●○○	●○○	●○○
鏡	○●●	○●●	○●●	○●●
刺身	○●●	○●●	○●●	○●●
歩く	○●○	●○○	●○○	○●○
旨い	○●○	○●○	○●○	○●○
低い	○●○	○●○	○●○	○●○
韓国	●○○○	●○○○	●○○○	●○○○
おにぎり	○●●●	○●○○	○●○○	○●○○
算数	○●●●	○●●○	○●●○	○●●○

注：○は低い音節、●は高い音節を示す。

<資料3> 実験語表

	名詞
1拍	
● (○)	目、木、火、歯、絵
○ (●)	蚊、血、子、気、毛
2拍	
●○ (○)	空、妻、傘、中、箸
○● (●)	鳥、鼻、箱、星、国
○● (○)	夏、橋、音、腕、夢
3拍	
●○○ (○)	枕、涙、緑、季節、医学
○●○ (○)	答え、お菓子、一人、卵、お風呂
○●● (●)	東、桜、体、薬、魚
○●● (○)	娘、男、頭、力、休み
4拍	
●○○○ (○)	内閣、毎日、親切、来月、文学
○●○○ (○)	皆さん、靴下、果物、湖、目薬
○●●○ (○)	建物、平仮名、食べ物、金持ち、先生
○●●● (●)	地下鉄、豚肉、鉛筆、友達、大学
○●●● (○)	半年、妹、 ^{ついたり} 一日、 ^{いちにち} 一日、正月

注：○は低い音節、●は高い音節を示す。()内は助詞を示す。

<資料4> 単語アクセントの読み書きテスト

さかな 1 魚が	さかなが	だいがく 2 大学へ	だいがくへ	とり 3 鳥が	とりが
たもの 4 食べ物が	たべものが	ないかく 5 内閣が	ないかくが	ひがし 6 東に	ひがしに
きせつ 7 季節に	きせつに	き 8 木が	きが	いちにち 9 一日に	いちにちに
くに 10 国へ	くにへ	えんぴつ 11 鉛筆を	えんぴつを	ひ 12 火が	ひが
ほし 13 星が	ほしが	かねもち 14 金持ちに	かねもちに	いがく 15 医学を	いがくを
ち 16 血が	ちが	はし 17 橋を	はしを	たてもの 18 建物を	たてものを
しんせつ 19 親切に	しんせつに	くつした 20 靴下は	くつしたは	いもうと 21 妹が	いもうとが
かさ 22 傘は	かさは	ひとり 23 一人で	ひとりで	そら 24 空は	そらは
せんせい 25 先生に	せんせいに	むすめ 26 娘が	むすめが	おと 27 音が	おとが
は 28 歯が	はが	かし 29 お菓子を	おかしを	まいにち 30 毎日が	まいにちが
め 31 目が	めが	ちかてつ 32 地下鉄が	ちかてつが	こ 33 子が	こが
くすり 34 薬を	くすりを	こた 35 答えは	こたえは	ひらがな 36 平仮名で	ひらがなで
なみだ 37 涙を	なみだを	からだ 38 体が	からだが	らいげつ 39 来月は	らいげつは
まくら 40 枕は	まくらは	はし 41 箸は	はしは	めぐすり 42 目薬は	めぐすりは
おとこ 43 男は	おとこは	なつ 44 夏が	なつが	みどり 45 緑が	みどりが
ふろ 46 お風呂で	おふろで	え 47 絵を	えを	ついたち 48 一日に	ついたちに
はんとし 49 半年で	はんとしで	みずうみ 50 湖で	みずうみで	つま 51 妻が	つまが
か 52 蚊が	かが	くだもの 53 果物は	くだものは	はこ 54 箱が	はこが
ちから 55 力は	ちからは	ぶたにく 56 豚肉を	ぶたにくを	さくら 57 桜が	さくらが
はな 58 鼻が	はなが	ともだち 59 友達が	ともだちが	ゆめ 60 夢が	ゆめが
たまご 61 卵が	たまごが	やす 62 休みを	やすみを	うで 63 腕を	うでを
き 64 気を	きを	しょうがつ 65 正月は	しょうがつは	なか 66 中が	なかが
け 67 毛が	けが	ぶんがく 68 文学を	ぶんがくを	みな 69 皆さんは	みなさんは
あたま 70 頭が	あたまが				

<資料 5> 単語発音テスト及び聞き取りテスト

さかな 1 魚が	だいがく 2 大学へ	とり 3 鳥が	た もの 4 食べ物が	ないかく 5 内閣が
ひがし 6 東に	きせつ 7 季節に	き 8 木が	いちにち 9 一日に	くに 10 国へ
えんぴつ 11 鉛筆を	ひ 12 火が	ほし 13 星が	かねも 14 金持ちに	いがく 15 医学を
ち 16 血が	はし 17 橋を	たてもの 18 建物を	しんせつ 19 親切に	くつした 20 靴下は
いもうと 21 妹が	かさ 22 傘は	ひとり 23 一人で	そら 24 空は	せんせい 25 先生に
むすめ 26 娘が	おと 27 音が	は 28 歯が	かし 29 お菓子を	まいにち 30 毎日が
め 31 目が	ちかてつ 32 地下鉄が	こ 33 子が	くすり 34 薬を	こた 35 答えは
ひらがな 36 平仮名で	なみだ 37 涙を	からだ 38 体が	らいげつ 39 来月は	まくら 40 枕は
はし 41 箸は	めぐすり 42 目薬は	おとこ 43 男は	なつ 44 夏が	みどり 45 緑が
ふる 46 お風呂で	え 47 絵を	ついたち 48 一日に	はんとし 49 半年で	みずうみ 50 湖で
つま 51 妻が	か 52 蚊が	くだもの 53 果物は	はこ 54 箱が	ちから 55 力は
ぶたにく 56 豚肉を	さくら 57 桜が	はな 58 鼻が	ともだち 59 友達が	ゆめ 60 夢が
たまご 61 卵が	やす 62 休みを	うで 63 腕を	き 64 気を	しょうがつ 65 正月は
なか 66 中が	け 67 毛が	ぶんがく 68 文学を	みな 69 皆さんは	あたま 70 頭が

<資料6>短文発音テスト及び聞き取りテスト

1	ねこ さかな す 猫は魚が好きです。	2	はる だいがく い 春から大学へ行きます。
3	チュンチュンと鳥が鳴いています。	4	やわ た もの す 軟らかい食べ物が好きです。
5	ないかく そうじしょく オランダの内閣が総辞職しました。	6	ほんしゅう ひがし うご 本州が東に動きました。
7	はなみ きせつ お花見の季節になりました。	8	にほん さくら き 日本には桜の木がたくさんあります。
9	わたし いちにち じかんべんきょう 私は一日に2時間勉強します。	10	がつ くに もど 4月に国へ戻ります。
11	こども えんぴつ 子供に鉛筆をプレゼントしました。	12	しり ひ きぶん お尻に火がついた気分です。
13	きょう ほし み 今日はよく星が見える。	14	どりよく かねも 努力して金持ちになりたいです。
15	だいがく いがく べんきょう 大学で医学を勉強したいです。	16	おんがく き ち さわ 日本の音楽を聞くと血が騒ぎます。
17	あそこ はし わた あそこの橋を渡ります。	18	わたし たてもん た 私がこの建物を建てました。
19	いつも ひと には しんせつ いつも人には親切にしています。	20	しろ くつした わたし あの白い靴下は私のです。
21	わたし いもうと い 私の妹がハワイに行きます。	22	あか かさ わたし その赤い傘は私のです。
23	ひとり 一人 だけで サッカーの 練習 を して います。	24	きょう そら 今日の空はきれいです。
25	がっこう せんせい しか 学校の先生に叱られました。	26	こうこうせい むすめ まんび 高校生の娘が万引きをしました。
27	テレビの音が小さいです。	28	なんにち は いた 何日も歯が痛いです。
29	かれ よく お菓子 を 食べ ます。	30	やきゅう まいにち たの 野球があるから毎日が楽しいです。
31	みぎ め いた 右の目が痛いです。	32	ちかてつ はや バスより地下鉄が速いです。
33	あなたの子が泣いています。	34	かぜ くすりの 風邪の薬を飲みます。
35	この問題の答えはわかりません。	36	ひらがな なまえ か ここに平仮名で名前を書いて下さい。
37	あの人は涙を流しています。	38	なつ からだ 夏になると体がだるくなりやすいです。
39	ついに来月はクリスマスです。	40	わたし まくら 私の枕はとてもやわらかいです。
41	この箸はとても長いです。	42	めぐすり こうか この目薬は効果があります。
43	あの村の男は背が高いです。	44	ことし なつ 今年も夏がやってきました。
45	花と緑が好きです。	46	わたし ふろ ほん よ 私はよくお風呂で本を読みます。
47	公園で絵を描きます。	48	はちがつ ついたち 八月の一日にパーティーがあります。
49	あと半年で日本へ行きます。	50	いなか みずうみ およ 田舎の湖で泳ぎました。
51	これは妻が作ったお弁当です。	52	へや か と 部屋に蚊が飛んでいます。
53	台湾の果物はおいしいです。	54	もっと おお はこ ひつよう もっと大きい箱が必要です。

55	だれ せいこう ちから 誰でも成功する力があります。	56	こんばん ぶたにく つか りょうり 今晚は豚肉を使って料理します。
57	きょうと さくら 京都の桜がとてもきれいです。	58	ぞう はな なが 象は鼻が長いです。
59	ぼく ともだち すく 僕は友達が少ない。	60	わたし ゆめ 私には夢がある。
61	はんじゅく たまご す 半熟の卵が好きです。	62	ぶか やす ようきゅう 部下が休みを要求してきました。
63	しあい うで お 試合で腕を折ってしまいました。	64	おうだんほどう わた き 横断歩道を渡るときは気をつけます。
65	ことし しょうがつ にぎ 今年の正月は賑やかです。	66	あたま なか ま しろ 頭の中が真っ白になりました。
67	うで け こ 腕の毛がとても濃いです。	68	にほん ぶんがく けんきゅう 日本で文学を研究しています。
69	このクラスの皆さんはとてもいい子です	70	あさ あたま いた 朝から頭が痛いです。



<資料7> 学年別の読み書きについての平均不一致率

読み書き	二年生	四年生	院生
目	6	0	0
木	14	10	15
火	3	17	0
歯	6	0	4
絵	11	10	0
● (○)	8	7	4
蚊	89	77	69
血	89	87	85
子	81	70	58
気	83	60	62
毛	89	77	54
○ (●)	86	74	65
空	33	20	15
妻	47	43	27
傘	56	30	15
中	67	47	15
箸	56	50	8
●○ (○)	52	38	16
鳥	56	53	46
鼻	81	60	50
箱	53	63	35
星	75	70	46
国	25	53	23
○● (●)	58	60	40
夏	53	73	42
橋	92	90	62
音	78	70	38
腕	69	73	31
夢	75	67	38
○● (○)	73	75	42
枕	67	50	38
涙	58	43	35
緑	47	43	35
季節	64	50	31
医学	67	60	38
●○○ (○)	61	49	35
答え	64	77	77

お菓子	53	70	54
一人	69	60	50
卵	69	70	50
お風呂	56	60	23
○●○ (○)	62	67	51
東	33	23	15
桜	39	23	31
体	47	37	27
薬	44	30	27
魚	22	33	19
○●● (●)	37	29	24
娘	81	77	58
男	83	87	69
頭	75	63	54
力	67	77	54
休み	81	77	62
○●● (○)	77	76	59
内閣	72	87	54
毎日	50	57	23
親切	72	67	35
来月	50	47	15
文学	72	60	12
●○○○ (○)	63	63	28
皆さん	58	63	23
靴下	83	73	65
果物	69	57	46
湖	89	67	54
目薬	72	63	31
○●○○ (○)	74	65	44
建物	81	73	35
平仮名	94	83	42
食べ物	94	83	65
金持ち	78	83	58
先生	56	53	19
○●●○ (○)	81	75	44
地下鉄	44	27	42
豚肉	58	27	35
鉛筆	83	33	15
友達	64	40	12
大学	47	37	15

○●●● (●)	59	33	24
半年	83	77	62
妹	69	73	54
ツイタチ 一日	97	80	58
イチニチ 一日	89	80	62
正月	67	73	69
○●●● (○)	81	77	61



<資料 8> 男女別の読み書きについての平均不一致率

読み書き	二年生 男子	四年生 男子	院生 男子	男子 学生	二年生 女子	四年生 女子	院生 女子	女子 学生
目	0	0	0	0	11	0	0	4
木	18	7	7	11	11	13	25	16
火	0	13	0	4	5	20	0	8
歯	6	0	7	4	5	0	0	2
絵	6	0	0	2	16	20	0	12
● (○)	6	4	3	4	10	11	5	8
蚊	82	67	57	69	95	87	83	88
血	76	93	79	83	100	80	92	91
子	71	73	43	62	89	67	75	77
気	71	60	71	67	95	60	50	68
毛	82	73	50	68	95	80	58	78
○ (●)	76	73	60	70	95	75	72	80
空	41	33	21	32	26	7	8	14
妻	41	53	29	41	53	33	42	43
傘	65	47	0	37	47	13	0	20
中	88	53	36	59	47	40	8	32
箸	24	53	7	28	84	47	8	46
●○ (○)	52	48	19	39	51	28	13	31
鳥	53	40	79	57	58	40	92	63
鼻	76	80	29	62	84	67	58	70
箱	59	67	14	47	47	60	25	44
星	71	60	29	53	79	80	42	67
国	24	53	36	38	26	53	8	29
○● (●)	57	60	37	51	59	60	45	55
夏	47	87	57	64	58	67	42	56
橋	94	87	43	75	89	80	50	73
音	65	80	50	65	89	60	42	64
腕	47	60	36	48	89	93	25	69
夢	71	73	36	60	79	60	42	60
○● (○)	65	77	44	62	81	72	40	64
枕	47	60	29	45	84	73	50	69
涙	41	53	36	46	74	33	33	47
緑	47	67	43	52	47	20	25	31
季節	71	27	36	47	58	40	25	41
医学	47	53	29	43	84	67	50	67
●○○ (○)	51	52	35	46	69	47	37	51
答え	41	80	79	67	84	73	75	77

お菓子	29	73	64	55	74	67	42	61
一人	47	73	57	59	89	47	42	59
卵	53	67	29	50	84	73	75	77
お風呂	29	60	14	34	79	60	33	57
○●○ (○)	40	71	49	53	82	64	53	67
東	18	27	21	22	47	20	8	25
桜	29	13	29	24	47	33	50	43
体	47	33	14	31	47	40	42	43
薬	41	40	29	37	47	20	25	31
魚	12	13	14	13	32	53	17	34
○●● (●)	29	25	21	25	44	33	28	35
娘	76	73	64	71	84	80	50	71
男	88	87	79	85	79	87	58	75
頭	71	67	57	65	79	60	50	63
力	41	67	64	57	89	87	42	73
休み	71	73	50	65	89	80	75	81
○●● (○)	69	73	63	68	84	79	55	73
内閣	53	80	36	56	89	80	75	81
毎日	53	80	29	54	47	33	17	32
親切	82	87	29	66	63	40	42	48
来月	59	47	21	42	42	47	8	32
文学	65	73	0	46	79	67	25	57
●○○○ (○)	62	73	23	53	64	53	33	50
皆さん	41	73	21	45	74	53	25	51
靴下	71	67	64	67	95	80	67	81
果物	82	67	50	66	58	47	42	49
湖	88	67	36	64	89	67	75	77
目薬	71	53	29	51	74	73	33	60
○●○○ (○)	71	65	40	59	78	64	48	64
建物	65	60	21	49	95	87	50	77
平仮名	94	80	36	70	95	87	50	77
食べ物	100	87	57	81	89	80	75	81
金持ち	82	87	50	73	74	80	67	74
先生	29	47	7	28	79	60	33	57
○●●○ (○)	74	72	34	60	86	79	55	73
地下鉄	35	27	50	37	53	27	33	38
豚肉	71	33	36	47	47	20	17	28
鉛筆	82	33	29	48	84	33	0	39
友達	65	40	21	42	63	40	0	34
大学	53	40	0	31	42	33	50	42

○●●● (●)	61	35	27	41	59	31	20	36
半年	71	87	64	74	95	67	42	68
妹	53	73	50	59	84	73	58	72
ツイタチ 一日	94	87	36	72	100	73	83	85
イチニチ 一日	88	80	57	75	89	80	67	79
正月	41	60	64	55	89	87	92	89
○●●● (○)	69	77	54	67	91	76	68	79



<資料 9> 院生の留学経験の有無別に見た読み書きの平均不一致率

読み書き	留学経験あり	留学経験なし
目	0	0
木	0	31
火	0	0
齒	0	8
繪	0	0
● (○)	0	8
蚊	69	69
血	85	85
子	54	62
氣	62	62
毛	54	54
○ (●)	65	66
空	8	23
妻	31	38
傘	0	0
中	15	31
箸	8	8
●○ (○)	12	20
鳥	69	100
鼻	54	31
箱	15	23
星	38	31
国	23	23
○● (●)	40	42
夏	46	54
橋	46	46
音	38	54
腕	31	31
夢	46	31
○● (○)	41	43
枕	38	38
涙	38	31
緑	38	31
季節	38	23
医学	46	31
●○○ (○)	40	31
答え	54	100



お菓子	46	62
一人	46	54
卵	31	69
お風呂	31	15
○●○ (○)	42	60
東	15	15
桜	38	38
体	8	46
薬	23	31
魚	8	15
○●● (●)	18	29
娘	62	54
男	69	69
頭	54	54
力	31	77
休み	54	69
○●● (○)	54	65
内閣	69	38
毎日	15	31
親切	38	31
来月	8	23
文学	15	8
●○○○ (○)	29	26
皆さん	15	31
靴下	62	69
果物	38	54
湖	31	77
目薬	38	23
○●○○ (○)	37	51
建物	31	38
平仮名	38	46
食べ物	54	77
金持ち	46	69
先生	8	31
○●●○ (○)	35	52
地下鉄	38	46
豚肉	38	15
鉛筆	15	15
友達	23	0

大学	23	23
○●●● (●)	27	20
半年	69	38
妹	38	69
ツイタチ 一日	54	62
イチニチ 一日	54	69
正月	77	77
○●●● (○)	58	63



<資料 10> 学年別の聞き取りについての平均不一致率（単語のみの場合）

聞き取り（単）	二年生	四年生	院生
目	6	0	0
木	6	3	0
火	6	0	0
歯	3	3	0
絵	3	0	4
●（○）	4	1	1
蚊	6	0	0
血	0	0	0
子	8	0	0
気	0	3	0
毛	6	0	0
○（●）	4	1	0
空	19	7	0
妻	19	3	12
傘	17	0	4
中	17	7	4
箸	8	7	0
●○（○）	16	5	4
鳥	14	13	0
鼻	11	10	0
箱	6	10	0
星	11	20	4
国	14	10	0
○●（●）	11	13	1
夏	11	7	0
橋	14	7	0
音	14	17	12
腕	17	7	0
夢	8	7	8
○●（○）	13	9	4
枕	17	7	0
涙	22	10	4
緑	19	10	0
季節	22	3	4
医学	11	7	8
●○○（○）	18	7	3
答え	28	17	8
お菓子	25	27	23
一人	39	27	35
卵	25	23	15
お風呂	19	13	15
○●○（○）	27	21	19
東	25	7	0

桜	22	3	4
体	28	27	0
薬	31	10	0
魚	17	23	4
○●● (●)	24	14	2
娘	8	13	4
男	11	3	8
頭	11	10	12
力	17	10	0
休み	6	7	4
○●● (○)	11	9	5
内閣	17	17	0
毎日	19	23	12
親切	25	23	8
来月	31	17	4
文学	25	17	4
●○○○ (○)	23	19	5
皆さん	28	23	8
靴下	19	27	19
果物	33	20	12
湖	22	13	4
目薬	28	17	12
○●○○ (○)	26	20	11
建物	25	17	27
平仮名	25	23	12
食べ物	42	27	12
金持ち	42	30	8
先生	19	30	4
○●●○ (○)	31	25	12
地下鉄	11	10	0
豚肉	8	3	4
鉛筆	19	17	12
友達	6	7	8
大学	14	10	0
○●●● (●)	12	9	5
半年	14	7	8
妹	19	10	4
ツイタチ			
一日	4	13	8
イチニチ			
一日	22	13	15
正月	8	10	15
○●●● (○)	14	11	10

<資料 11> 学年別の聞き取りについての平均不一致率（短文に入れた場合）

聞き取り（文）	二年生	四年生	院生
目	6	3	4
木	0	3	0
火	0	3	0
歯	3	3	0
絵	3	0	15
●（○）	2	3	4
蚊	3	0	0
血	3	0	0
子	8	7	0
気	3	3	0
毛	6	3	0
○（●）	4	3	0
空	19	3	0
妻	31	13	8
傘	17	10	4
中	22	13	4
箸	14	0	0
●○（○）	21	8	3
鳥	11	7	0
鼻	11	0	8
箱	14	3	4
星	14	10	0
国	6	10	0
○●（●）	11	6	2
夏	11	3	0
橋	11	7	19
音	11	7	8
腕	11	0	4
夢	3	0	4
○●（○）	9	3	7
枕	11	7	23
涙	25	7	8
緑	14	7	19
季節	17	7	4
医学	17	13	8
●○○（○）	17	8	12
答え	28	30	15
お菓子	22	20	4
一人	25	23	31
卵	28	17	4
お風呂	25	10	15
○●○（○）	26	20	14
東	19	10	0

桜	14	7	0
体	14	7	0
薬	14	10	4
魚	6	7	4
○●●● (●)	13	8	2
娘	11	10	4
男	31	10	19
頭	31	13	4
力	22	10	12
休み	11	13	12
○●●● (○)	21	11	10
内閣	39	10	0
毎日	19	13	4
親切	28	23	12
来月	19	13	4
文学	22	20	4
●○○○ (○)	26	16	5
皆さん	22	17	4
靴下	19	23	4
果物	25	27	12
湖	22	30	19
目薬	19	23	15
○●○○ (○)	22	24	11
建物	25	17	31
平仮名	31	33	12
食べ物	36	33	19
金持ち	50	20	4
先生	31	37	8
○●●○ (○)	34	28	15
地下鉄	17	3	4
豚肉	19	3	4
鉛筆	25	10	15
友達	17	7	8
大学	11	10	4
○●●● (●)	18	7	7
半年	25	13	12
妹	19	17	4
ツイタチ			
一日	28	10	27
イチニチ			
一日	22	10	19
正月	17	10	8
○●●● (○)	22	12	14

<資料 12> 男女別の聞き取りについての平均不一致率（単語のみの場合）

聞き取り単語	二年生 男子	四年生 男子	院生 男子	男子 学生	二年生 女子	四年生 女子	院生 女子	女子 学生
目	0	0	0	0	11	0	0	4
木	6	0	0	2	5	7	0	4
火	12	0	0	4	0	0	0	0
歯	0	0	0	0	5	7	0	4
絵	0	0	0	0	5	0	8	4
● (○)	4	0	0	1	5	3	2	3
蚊	6	0	0	2	5	0	0	2
血	0	0	0	0	0	0	0	0
子	12	0	0	4	5	0	0	2
気	0	0	0	0	0	7	0	2
毛	6	0	0	2	5	0	0	2
○ (●)	5	0	0	2	3	1	0	2
空	12	7	0	6	26	7	0	11
妻	18	0	14	11	37	7	8	17
傘	6	0	7	4	11	0	0	4
中	18	0	0	6	16	13	8	12
箸	12	0	0	4	5	13	0	6
●○ (○)	13	1	4	6	19	8	3	10
鳥	0	7	0	2	26	20	0	15
鼻	6	13	0	6	16	7	0	8
箱	12	13	0	8	0	7	0	2
星	18	33	7	19	5	7	0	4
国	12	13	0	8	16	7	0	8
○● (●)	10	16	1	9	13	10	0	7
夏	6	0	0	2	16	13	0	10
橋	6	7	0	4	21	7	0	9
音	6	27	7	13	21	20	17	19
腕	12	7	0	6	21	7	0	9
夢	0	0	0	0	16	0	17	11
○● (○)	6	8	1	5	19	9	7	12
枕	18	7	0	8	16	7	0	8
涙	6	13	0	6	37	7	8	17
緑	12	20	0	11	26	0	0	9
季節	24	7	0	10	21	0	8	10
医学	12	7	0	6	11	7	17	12
●○○ (○)	14	11	0	8	22	4	7	11
答え	24	13	7	15	32	20	8	20
お菓子	6	20	21	16	42	33	25	33
一人	35	40	29	35	42	13	42	32
卵	29	33	7	23	21	13	25	20
お風呂	12	7	14	11	26	20	17	21
○●○ (○)	21	23	16	20	33	20	23	25
東	12	7	0	6	37	7	0	15

桜	12	0	0	4	32	7	8	16
体	29	33	0	21	47	20	0	22
薬	6	13	0	6	32	7	0	13
魚	12	20	0	11	21	20	8	16
○●●● (●)	14	15	0	10	34	12	3	16
娘	0	13	0	4	16	13	8	12
男	6	0	7	4	16	7	8	10
頭	18	7	14	13	5	13	8	9
力	12	13	0	8	21	7	0	9
休み	0	0	0	0	11	13	8	11
○●●● (○)	7	7	4	6	14	11	6	10
内閣	6	13	0	6	26	20	0	15
毎日	18	33	7	19	21	13	17	17
親切	29	33	7	23	21	13	8	14
来月	29	27	7	21	32	7	0	13
文学	18	20	0	13	32	13	8	18
●○○○ (○)	20	25	4	16	26	13	7	15
皆さん	24	13	7	15	32	33	8	24
靴下	6	20	14	13	32	33	25	30
果物	35	13	14	21	32	27	8	22
湖	18	7	0	8	26	20	8	18
目薬	12	7	0	6	42	27	17	29
○●○○ (○)	19	12	7	13	33	28	13	25
建物	18	20	29	22	32	13	25	23
平仮名	18	27	7	17	32	20	17	23
食べ物	47	33	21	34	37	20	0	19
金持ち	35	27	7	23	47	33	8	29
先生	12	20	0	11	26	40	8	25
○●●○ (○)	26	25	13	21	35	25	12	24
地下鉄	6	7	0	4	11	13	0	8
豚肉	6	0	0	2	11	7	0	6
鉛筆	12	13	7	11	21	20	25	22
友達	0	7	7	5	11	7	8	9
大学	0	0	0	0	37	20	0	19
○●●● (●)	5	5	3	4	18	13	7	13
半年	6	7	7	7	11	7	8	9
妹	0	7	7	5	37	13	0	17
ツイタチ 一日	12	13	14	13	16	13	0	10
イチニチ 一日	18	13	29	20	37	13	33	28
正月	6	7	0	4	11	13	0	8
○●●● (○)	8	9	11	10	22	12	8	14

<資料 13>男女別の聞き取りについての平均不一致率（短文に入れた場合）

聞き取り短文	二年生 男子	四年生 男子	院生 男子	男子 学生	二年生 女子	四年生 女子	院生 女子	女子 学生
目	0	0	0	0	11	7	8	9
木	0	7	0	2	0	0	0	0
火	0	0	0	0	0	7	0	2
歯	0	7	0	2	5	0	0	2
絵	0	0	21	7	5	0	8	4
● (○)	0	3	4	2	4	3	3	3
蚊	0	0	0	0	5	0	0	2
血	0	0	0	0	5	0	0	2
子	6	7	0	4	11	7	0	6
気	6	7	0	4	0	0	0	0
毛	6	0	0	2	5	7	0	4
○ (●)	4	3	0	2	5	3	0	3
空	6	7	0	4	32	0	0	11
妻	35	13	0	16	42	13	17	24
傘	18	13	7	13	16	7	0	8
中	18	13	7	13	32	13	0	15
箸	6	0	0	2	0	0	0	0
●○ (○)	17	9	3	10	24	7	3	11
鳥	6	0	0	2	16	13	0	10
鼻	12	0	0	4	11	0	17	9
箱	24	7	7	13	5	0	0	2
星	12	13	0	8	16	7	0	8
国	6	13	0	6	5	7	0	4
○● (●)	12	7	1	7	11	5	3	6
夏	6	0	0	2	16	7	0	8
橋	0	0	21	7	21	13	17	17
音	0	7	7	5	21	7	8	12
腕	12	0	7	6	11	0	0	4
夢	6	0	7	4	0	0	0	0
○● (○)	5	1	8	5	14	5	5	8
枕	6	0	14	7	16	13	33	21
涙	29	7	7	14	37	7	8	17
緑	18	7	14	13	11	7	25	14
季節	18	7	0	8	0	7	8	5
医学	18	13	0	10	16	13	17	15
●○○ (○)	18	7	7	11	16	9	18	15
答え	24	27	21	24	32	33	8	24
お菓子	12	20	7	13	32	20	0	17
一人	12	27	36	25	37	20	25	27
卵	18	13	7	13	37	20	0	19
お風呂	18	0	14	11	32	20	17	23
○●○ (○)	17	17	17	17	34	23	10	22
東	24	13	0	12	16	7	0	8

桜	12	7	0	6	16	7	0	8
体	12	13	0	8	16	0	0	5
薬	6	7	0	4	21	13	8	14
魚	0	0	0	0	11	13	8	11
○●● (●)	11	8	0	6	16	8	3	9
娘	6	0	7	4	16	20	0	12
男	29	13	21	21	32	7	25	21
頭	35	20	0	18	26	7	0	11
力	12	7	7	9	32	13	17	21
休み	0	7	14	7	21	20	8	16
○●● (○)	16	9	10	12	25	13	10	16
内閣	35	7	0	14	42	13	0	18
毎日	18	13	0	10	21	13	8	14
親切	18	27	7	17	37	20	17	25
来月	18	13	7	13	21	13	0	11
文学	18	13	0	10	26	27	8	20
●○○○ (○)	21	15	3	13	29	17	7	18
皆さん	24	7	0	10	21	27	8	19
靴下	12	20	0	11	26	27	8	20
果物	24	20	7	17	26	33	17	25
湖	12	27	14	18	32	33	25	30
目薬	12	20	7	13	26	27	25	26
○●○○ (○)	17	19	6	14	26	29	17	24
建物	18	20	14	17	32	13	8	18
平仮名	24	40	21	28	37	27	8	24
食べ物	35	40	21	32	37	27	50	38
金持ち	35	13	0	16	37	27	8	24
先生	24	20	0	15	63	53	17	44
○●●○ (○)	27	27	11	22	41	29	18	30
地下鉄	6	0	0	2	26	7	8	14
豚肉	12	0	7	6	26	7	0	11
鉛筆	24	7	7	13	26	13	25	21
友達	24	7	0	10	11	7	17	12
大学	0	0	0	0	21	20	8	16
○●●● (●)	13	3	3	6	22	11	2	15
半年	18	7	7	11	32	20	17	23
妹	18	7	7	11	21	27	0	16
ツイタチ 一日	41	7	29	26	16	13	25	18
イチニチ 一日	24	0	14	13	21	20	25	22
正月	12	0	7	6	21	20	8	16
○●●● (○)	23	4	13	13	22	20	15	19

<資料 14>院生の留学経験の有無別に見た聞き取りの平均不一致率（単語のみの場合）

聞き取り単語	留学経験あり	留学経験なし
目	0	0
木	0	0
火	0	0
歯	0	0
絵	0	8
● (○)	0	2
蚊	0	0
血	0	0
子	0	0
気	0	0
毛	0	0
○ (●)	0	0
空	0	0
妻	0	23
傘	0	8
中	0	8
箸	0	0
●○ (○)	0	8
鳥	0	0
鼻	0	0
箱	0	0
星	8	0
国	0	0
○● (●)	2	0
夏	0	0
橋	0	0
音	8	15
腕	0	0
夢	8	8
○● (○)	3	5
枕	0	0
涙	0	8
緑	0	0
季節	0	8
医学	8	8
●○○ (○)	2	5
答え	15	0
お菓子	8	38
一人	31	38
卵	8	23
お風呂	0	31
○●○ (○)	12	26
東	0	0

桜	0	8
体	0	0
薬	0	0
魚	0	8
○●●● (●)	0	3
娘	0	0
男	0	8
頭	15	15
力	0	0
休み	0	0
○●●● (○)	3	5
内閣	0	0
毎日	15	8
親切	15	0
来月	0	8
文学	8	0
●○○○ (○)	8	3
皆さん	8	8
靴下	23	15
果物	8	15
湖	0	8
目薬	15	8
○●○○ (○)	11	11
建物	8	6
平仮名	8	15
食べ物	15	8
金持ち	15	0
先生	8	0
○●●○ (○)	11	6
地下鉄	0	0
豚肉	0	0
鉛筆	23	8
友達	8	8
大学	0	0
○●●● (●)	6	3
半年	0	15
妹	0	8
ツイタチ		
一日	8	8
イチニチ		
一日	23	38
正月	0	0
○●●● (○)	6	14



<資料 15>院生の留学経験の有無別に見た聞き取りの平均不一致率（短文に入れた場合）

聞き取り短文	留学経験あり	留学経験なし
目	0	8
木	0	0
火	0	0
歯	0	0
絵	8	23
● (○)	2	6
蚊	0	0
血	0	0
子	0	0
気	0	0
毛	0	0
○ (●)	0	0
空	0	0
妻	0	15
傘	0	8
中	8	0
箸	0	0
●○ (○)	2	5
鳥	0	0
鼻	0	15
箱	0	8
星	0	0
国	0	0
○● (●)	0	5
夏	0	0
橋	15	23
音	8	8
腕	0	8
夢	0	8
○● (○)	5	9
枕	8	38
涙	8	8
緑	15	23
季節	0	8
医学	8	8
●○○ (○)	8	17
答え	8	23
お菓子	0	8
一人	8	54
卵	0	8
お風呂	8	23
○●○ (○)	5	23
東	0	0

桜	0	0
体	0	0
薬	8	0
魚	8	0
○●● (●)	3	0
娘	0	8
男	38	8
頭	0	0
力	15	8
休み	15	8
○●● (○)	14	6
内閣	0	0
毎日	8	0
親切	23	0
来月	8	0
文学	8	0
●○○○ (○)	9	0
皆さん	0	8
靴下	8	0
果物	15	8
湖	23	15
目薬	23	8
○●○○ (○)	14	8
建物	8	15
平仮名	15	15
食べ物	46	23
金持ち	8	0
先生	15	0
○●●○ (○)	18	11
地下鉄	8	0
豚肉	0	8
鉛筆	31	0
友達	8	8
大学	8	0
○●●● (●)	11	3
半年	8	15
妹	0	8
ツイタチ		
一日	31	23
イチニチ		
一日	23	15
正月	15	0
○●●● (○)	15	12



<資料 16> 学年別の発音についての平均不一致率（単語のみの場合）

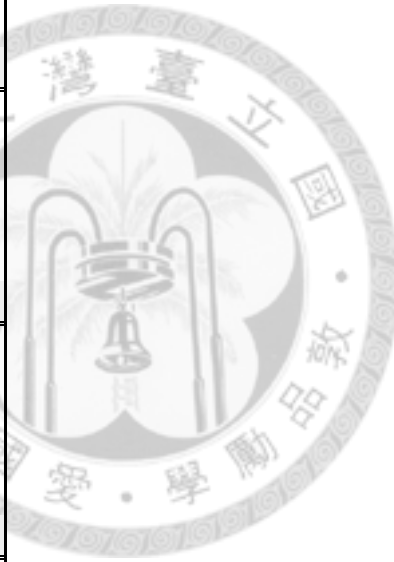
発音（単）	二年生	四年生	院生
目	0	0	0
木	3	3	4
火	0	3	0
歯	0	7	0
絵	0	0	0
●（○）	1	3	1
蚊	61	63	58
血	72	77	77
子	56	57	62
気	56	60	65
毛	61	57	46
○（●）	61	63	62
空	14	0	0
妻	33	10	0
傘	39	7	0
中	36	7	15
箸	31	50	23
●○（○）	31	15	8
鳥	39	33	54
鼻	50	47	42
箱	44	33	31
星	39	37	35
国	31	27	23
○●（●）	41	35	37
夏	33	40	4
橋	53	63	38
音	42	30	31
腕	50	33	23
夢	36	37	8
○●（○）	43	41	21
枕	56	40	8
涙	31	27	19
緑	33	23	8
季節	28	17	23
医学	39	40	19
●○○（○）	37	29	15
答え	36	20	19
お菓子	47	43	23
一人	25	27	27
卵	50	43	27
お風呂	28	33	12
○●○（○）	37	33	22
東	14	7	8

桜	28	40	12
体	47	17	31
薬	17	17	15
魚	11	10	8
○●●● (●)	23	18	15
娘	64	53	46
男	47	47	54
頭	44	47	42
力	64	60	46
休み	53	50	50
○●●● (○)	54	51	48
内閣	56	40	42
毎日	28	40	4
親切	19	20	0
来月	17	20	4
文学	28	17	12
●○○○ (○)	29	27	12
皆さん	22	13	4
靴下	56	30	42
果物	47	33	31
湖	42	17	4
目薬	31	27	4
○●○○ (○)	39	24	17
建物	67	67	42
平仮名	44	53	27
食べ物	36	53	58
金持ち	53	67	50
先生	28	20	23
○●●○ (○)	46	52	40
地下鉄	33	37	38
豚肉	56	30	15
鉛筆	36	13	23
友達	39	30	23
大学	11	30	8
○●●● (●)	35	28	22
半年	61	77	69
妹	67	50	42
ツイタチ			
一日	67	60	65
イチニチ			
一日	75	57	69
正月	58	70	58
○●●● (○)	66	63	61

<資料 17> 学年別の発音についての平均不一致率（短文に入れた場合）

発音（文）	二年生	四年生	院生
目	0	0	0
木	3	0	12
火	8	7	4
歯	0	10	0
絵	0	0	0
●（○）	2	3	3
蚊	75	63	69
血	81	70	73
子	58	50	62
気	53	47	42
毛	86	77	62
○（●）	71	61	62
空	14	10	0
妻	31	13	0
傘	39	17	0
中	19	10	0
箸	47	37	8
●○（○）	30	17	2
鳥	42	43	23
鼻	58	50	42
箱	67	37	31
星	56	40	31
国	22	20	38
○●（●）	49	38	33
夏	42	43	35
橋	50	50	54
音	56	43	38
腕	50	43	50
夢	44	43	50
○●（○）	48	45	45
枕	56	33	31
涙	56	23	38
緑	28	37	19
季節	22	17	12
医学	39	30	15
●○○（○）	40	28	23
答え	39	47	35
お菓子	42	40	23
一人	36	20	23
卵	56	47	23
お風呂	25	20	19
○●○（○）	39	35	25

東	14	10	12
桜	33	23	31
体	28	23	23
薬	36	23	35
魚	8	17	12
○●● (●)	24	19	22
娘	75	70	54
男	61	40	58
頭	69	53	46
力	53	63	69
休み	69	67	58
○●● (○)	66	59	57
内閣	67	33	42
毎日	28	37	0
親切	19	17	8
来月	31	27	8
文学	28	17	4
●○○○ (○)	34	26	12
皆さん	31	27	23
靴下	67	43	50
果物	33	37	27
湖	36	33	23
目薬	33	17	19
○●○○ (○)	40	31	28
建物	67	80	69
平仮名	61	43	62
食べ物	64	57	50
金持ち	58	60	58
先生	22	23	31
○●●○ (○)	54	53	54
地下鉄	42	47	31
豚肉	19	27	31
鉛筆	31	10	27
友達	39	20	12
大学	17	10	27
○●●● (●)	29	23	25
半年	69	77	77
妹	58	67	65
ツイタチ			
一日	83	73	77
イチニチ			
一日	72	63	69
正月	81	70	58
○●●● (○)	73	70	69



<資料 18>男女別の発音についての平均不一致率（単語のみの場合）

発音単語	二年生 男子	四年生 男子	院生 男子	男子 学生	二年生 女子	四年生 女子	院生 女子	女子 学生
目	0	0	0	0	0	0	0	0
木	6	0	0	2	0	7	8	5
火	0	0	0	0	0	7	0	2
歯	0	7	0	2	0	7	0	2
絵	0	0	0	0	0	0	0	0
● (○)	1	1	0	1	0	4	2	2
蚊	47	67	57	57	74	73	58	68
血	53	73	86	71	89	80	67	79
子	47	73	71	64	63	33	50	49
気	47	53	64	55	63	67	67	66
毛	41	47	64	51	79	60	25	55
○ (●)	47	63	68	59	74	63	53	63
空	18	0	0	6	11	0	0	4
妻	35	13	0	16	32	7	0	13
傘	35	13	0	16	42	0	0	14
中	41	7	29	26	32	7	0	13
箸	24	53	14	30	37	47	33	39
●○ (○)	31	17	9	19	31	12	7	17
鳥	24	13	43	27	53	53	67	58
鼻	41	40	29	37	58	53	58	56
箱	35	13	14	21	53	53	50	52
星	24	27	14	22	53	47	58	53
国	41	27	21	30	21	27	25	24
○● (●)	33	24	24	27	48	47	52	49
夏	18	53	0	24	47	27	8	27
橋	71	53	21	48	63	73	58	65
音	65	47	29	47	21	13	33	22
腕	47	20	29	32	53	47	17	39
夢	29	53	0	27	16	20	17	18
○● (○)	46	45	16	36	40	36	27	34
枕	53	40	0	31	58	40	17	38
涙	41	40	0	27	21	13	0	11
緑	41	40	0	27	26	7	0	11
季節	41	20	50	37	16	13	0	10
医学	35	33	29	32	42	47	58	49
●○○ (○)	42	35	16	31	33	24	15	24
答え	18	20	14	17	53	20	25	33
お菓子	35	47	21	34	58	40	25	41
一人	18	47	36	34	32	7	17	19
卵	35	47	36	39	63	40	17	40
お風呂	18	47	14	26	37	20	8	22
○●○ (○)	25	42	24	30	49	25	18	31
東	12	0	7	6	16	13	8	12

桜	41	20	7	23	16	60	17	31
体	53	20	36	36	42	13	25	27
薬	12	20	14	15	21	13	17	17
魚	12	13	7	11	11	7	8	9
○●●● (●)	26	15	14	18	21	21	15	19
娘	65	67	43	58	63	40	50	51
男	59	47	57	54	37	47	50	45
頭	41	53	36	43	47	40	50	46
力	47	80	29	52	79	40	67	62
休み	35	60	36	44	68	40	67	58
○●●● (○)	49	61	40	50	59	41	57	52
内閣	47	27	29	34	63	53	58	58
毎日	41	47	7	32	16	33	0	16
親切	29	33	0	21	11	7	0	6
来月	29	20	0	16	5	20	8	11
文学	35	20	7	21	21	13	17	17
●○○○ (○)	36	29	9	25	23	25	17	22
皆さん	29	27	0	19	16	0	8	8
靴下	41	7	36	28	68	53	50	57
果物	59	40	21	40	37	27	42	35
湖	35	20	7	21	47	13	0	20
目薬	29	40	7	25	32	13	0	15
○●○○ (○)	39	27	14	27	40	21	20	27
建物	65	80	50	65	68	53	33	51
平仮名	29	60	36	42	58	47	17	41
食べ物	35	73	71	60	37	33	42	37
金持ち	29	87	50	55	74	47	50	57
先生	41	40	36	39	16	0	8	8
○●●○ (○)	40	68	49	52	51	36	30	39
地下鉄	29	33	43	35	37	40	33	37
豚肉	76	33	7	39	37	27	25	30
鉛筆	35	27	36	33	37	0	8	15
友達	29	40	29	33	47	20	17	28
大学	12	53	7	24	11	7	8	9
○●●● (●)	36	37	24	33	34	19	18	24
半年	53	93	71	72	68	60	67	65
妹	71	73	36	60	63	27	50	47
ツイタチ 一日	65	67	64	65	68	53	67	63
イチニチ 一日	76	40	71	62	74	73	67	71
正月	41	73	36	50	74	67	83	75
○●●● (○)	61	69	56	62	69	56	67	64

<資料 19>男女別の発音についての平均不一致率（短文に入れた場合）

発音短文	二年生 男子	四年生 男子	院生 男子	男子 学生	二年生 女子	四年生 女子	院生 女子	女子 学生
目	0	0	0	0	0	0	0	0
木	0	0	0	0	5	0	25	10
火	6	7	0	4	11	7	8	9
歯	0	13	0	4	0	7	0	2
絵	0	0	0	0	0	0	0	0
● (○)	1	4	0	2	3	3	7	4
蚊	71	73	64	69	79	80	75	78
血	76	67	71	71	84	73	75	77
子	53	67	79	66	63	33	42	46
気	47	53	64	55	58	13	17	29
毛	88	73	64	75	84	80	58	74
○ (●)	67	67	68	67	74	56	53	61
空	12	13	0	8	16	7	0	8
妻	47	27	0	25	16	0	0	5
傘	47	20	0	22	32	13	0	15
中	24	20	0	15	16	0	0	5
箸	41	40	0	27	53	33	8	31
●○ (○)	34	24	0	19	27	11	2	13
鳥	53	53	14	40	32	33	33	33
鼻	65	67	36	56	53	33	50	45
箱	71	53	36	53	63	20	25	36
星	59	47	21	42	53	33	42	43
国	24	27	43	31	21	13	33	22
○● (●)	54	49	30	45	44	26	37	36
夏	47	67	36	50	37	20	33	30
橋	59	47	57	54	42	53	50	48
音	35	47	36	39	74	40	42	52
腕	41	33	64	46	58	53	33	48
夢	53	53	50	52	37	33	50	40
○● (○)	47	49	49	48	50	40	42	44
枕	65	47	29	47	47	20	33	33
涙	71	40	43	51	42	7	33	27
緑	35	53	29	39	21	20	8	16
季節	41	27	14	27	5	7	8	7
医学	47	33	7	29	32	27	25	28
●○○ (○)	52	40	24	39	29	16	21	22
答え	18	60	36	38	58	33	33	41
お菓子	29	60	36	42	53	20	8	27
一人	35	20	29	28	37	20	17	25
卵	47	53	14	38	63	40	33	45
お風呂	12	27	29	23	37	13	8	19
○●○ (○)	28	44	29	34	50	25	20	32
東	12	20	7	13	16	0	17	11

桜	53	47	21	40	16	0	42	19
体	24	40	21	28	32	7	25	21
薬	35	27	29	30	37	20	42	33
魚	18	27	14	20	0	7	8	5
○●● (●)	28	32	18	26	20	7	27	18
娘	59	80	43	61	89	60	67	72
男	71	53	71	65	53	27	42	41
頭	71	60	43	58	68	47	50	55
力	47	73	71	64	58	53	67	59
休み	53	87	36	59	84	47	83	71
○●● (○)	60	71	53	61	70	47	62	60
内閣	65	27	43	45	68	40	42	50
毎日	47	47	0	31	11	27	0	13
親切	24	13	14	17	16	20	0	12
来月	35	27	7	23	26	27	8	20
文学	47	13	7	22	11	20	0	10
●○○○ (○)	44	25	14	28	26	27	10	21
皆さん	41	47	29	39	21	7	17	15
靴下	65	47	50	54	68	40	50	53
果物	41	47	43	44	26	27	8	20
湖	24	47	29	33	47	20	17	28
目薬	41	27	21	30	26	7	17	17
○●○○ (○)	42	43	34	40	38	20	22	27
建物	41	87	64	64	89	73	75	79
平仮名	65	40	57	54	58	47	67	57
食べ物	59	60	57	59	68	53	42	54
金持ち	59	60	50	56	58	60	67	62
先生	41	47	36	41	5	0	25	10
○●●○ (○)	53	59	53	55	56	47	55	52
地下鉄	47	80	29	52	37	13	33	28
豚肉	24	27	43	31	16	27	17	20
鉛筆	35	20	21	25	26	0	33	20
友達	59	40	14	38	21	0	8	10
大学	6	13	36	18	26	7	17	17
○●●● (●)	34	36	29	33	25	9	22	19
半年	59	87	86	77	79	67	67	71
妹	65	93	64	74	53	40	67	53
ツイタチ 一日	88	87	86	87	79	60	67	69
イチニチ 一日	71	80	57	69	74	47	83	68
正月	71	93	43	69	89	47	75	70
○●●● (○)	71	88	67	75	75	52	72	66

<資料 20>院生の留学経験の有無別に見た発音の平均不一致率（単語のみの場合）

発音単語	留学経験あり	留学経験なし
目	0	0
木	0	8
火	0	0
歯	0	0
絵	0	0
● (○)	0	2
蚊	54	62
血	92	62
子	46	77
気	54	77
毛	54	38
○ (●)	60	63
空	0	0
妻	0	0
傘	0	0
中	8	23
箸	23	23
●○ (○)	6	9
鳥	62	46
鼻	38	46
箱	31	31
星	23	46
国	31	15
○● (●)	37	37
夏	0	8
橋	46	31
音	23	38
腕	31	15
夢	15	0
○● (○)	23	18
枕	8	8
涙	0	0
緑	0	0
季節	23	31
医学	46	38
●○○ (○)	15	15
答え	31	8
お菓子	15	31
一人	15	38
卵	23	31
お風呂	23	0
○●○ (○)	21	22
東	15	0

桜	15	8
体	8	54
薬	8	23
魚	15	0
○●●● (●)	12	17
娘	46	46
男	46	62
頭	46	38
力	54	38
休み	46	54
○●●● (○)	48	48
内閣	46	38
毎日	8	0
親切	0	0
来月	8	0
文学	15	8
●○○○ (○)	15	9
皆さん	8	0
靴下	38	46
果物	31	31
湖	0	8
目薬	8	0
○●○○ (○)	17	17
建物	46	38
平仮名	15	38
食べ物	46	69
金持ち	31	69
先生	15	31
○●●○ (○)	31	49
地下鉄	46	38
豚肉	15	15
鉛筆	15	31
友達	23	23
大学	15	0
○●●● (●)	23	21
半年	77	62
妹	23	62
ツイタチ		
一日	62	69
イチニチ		
一日	77	62
正月	46	69
○●●● (○)	57	65



<資料 21>院生の留学経験の有無別に見た発音の平均不一致率（短文に入れた場合）

発音短文	留学経験あり	留学経験なし
目	0	0
木	15	8
火	8	0
歯	0	0
絵	0	0
● (○)	5	2
蚊	62	77
血	69	77
子	54	69
気	23	62
毛	69	54
○ (●)	55	68
空	0	0
妻	0	0
傘	0	0
中	0	0
箸	8	8
●○ (○)	2	2
鳥	15	31
鼻	31	54
箱	15	46
星	31	31
国	46	31
○● (●)	28	39
夏	31	38
橋	31	77
音	31	46
腕	46	54
夢	54	46
○● (○)	39	52
枕	23	38
涙	31	46
緑	31	8
季節	8	15
医学	15	15
●○○ (○)	22	24
答え	31	38
お菓子	15	31
一人	23	23
卵	31	15
お風呂	23	15
○●○ (○)	25	24
東	15	8

桜	46	15
体	8	38
薬	46	23
魚	8	15
○●●● (●)	25	20
娘	38	69
男	69	46
頭	31	62
力	69	69
休み	54	62
○●●● (○)	52	62
内閣	31	54
毎日	0	0
親切	8	8
来月	15	0
文学	0	8
●○○○ (○)	11	14
皆さん	15	31
靴下	46	54
果物	31	23
湖	23	23
目薬	8	31
○●○○ (○)	25	32
建物	54	85
平仮名	69	54
食べ物	23	77
金持ち	31	85
先生	23	38
○●●○ (○)	40	68
地下鉄	23	38
豚肉	31	31
鉛筆	31	23
友達	8	15
大学	38	15
○●●● (●)	26	24
半年	69	85
妹	54	77
ツイタチ		
一日	77	77
イチニチ		
一日	69	69
正月	38	77
○●●● (○)	61	77

